第６節　環濠及び環濠内地区検出遺構

本節では、環濠及び環濠で囲まれた地区において検出した遺構と出土遺物について記載する。ただし、環濠で囲まれた地区内で出土した遺構外の遺物については、第７節に掲載した。

遺構は総数で36基検出された（柱穴を除く）。内訳は、環濠１条、建物跡９軒、土坑16基、溝跡10条である。

全体的に削平及び重複が著しいため、検出された上記の遺構の遺存状態は良好でない。また、30日足らずの短期間内で調査を終了しなければならなかったため、個々の遺構を極力良好に検出することよりも重複関係の確実な把握に重点を置き、トレンチを至る箇所に設定して調査した。

※環濠内地区において検出された遺構と環濠との関係については不明と言わざるを得ない。なぜならば、遺物、遺構堆積土、遺構の重複関係、及び基本層位の各方面で確認を行っても遺構のどれが環濠に伴うものかといった確実な根拠は得られなかったからである。しかし、環濠の存在をやや意識して構築していると思われる建物跡も中には存在していることから、環濠とその内側の地区において検出された遺構とを全く切り離して記載するのは余りに消極的であると考え、本節では、両者をまとめて報告するものである。ただしあえて「環濠集落」の名称は用いない。

（１）環　濠

立地・位置

環濠は、梵珠山地の南部から連なる標高約40～42mの低位段丘上（前田野目台地）に位置し、調査区の南端域、グリッドで言うところの6～18ライン、K～調査区域東境界ラインの間において検出された。

調査区域東境界ラインよりすぐ東側の調査区域外は急峻な崖となっており、さらにその東側には平坦地を挟んで大釈迦川が蛇行しながら南流している（写真１、航空写真参照）。調査区域東境界ラインよりすぐ東の崖は、近年における河川改修の際に形成されたものと思われるが、その事実確認はできなかった。

本地点から南側に約800m離れた地点には、古代から中世にかけての環濠集落と考えられる高屋敷館遺跡（現在整理中）が所在する。

規　模

濠は、東側を流れる大釈迦川に向かいコの字状に確認された。

濠は、東側の調査区域外にさらに続いていたものと推察されるが、濠の続きと考えられる窪みなどは地表面の踏査でも全く確認できなかった。

【平面】（第Ｖ－６－（１）－１図）濠は一重である。幅は150～440cmで、全長（検出長）は74.1mである。

【断面】（第Ｖ－６－（１）－２図）断面形は、地点毎にばらつきが認められるものの、主に幅広の皿形～擂鉢形を呈する。確認面からの深さは約54～123cmで、西濠のほぼ中央であるJ－11，12グリッド部分が最も浅く（54cm）、北濠東末端のE－14，15グリッド部分が最も深い（123cm）。南濠の最深部はＥ－６グリッド部分である。濠の中に入り込んだ水は、西濠のほぼ中央を境にして北濠最東端、南濠最東端へと流れる。

土層断面（B－B’）より観察すると、南濠は一度構築された後に内側が埋められ、外側に拡張されている。

※土塁は確認されなかった。

環濠で囲まれた地区の規模

環濠で囲まれた地区の面積（調査範囲）は約486m²を測る。東側の削平されたと思われる部分までを含めて本来の規模を推定するならば約560m²くらいは有していたものと考えられる。

重複関係

E－6グリッドにおいて第153号溝跡と重複し、本環濠の方が新しい。
H－17、I－17グリッドにおいて第118、121号溝跡と重複し、本環濠が古い。
H－16グリッドにおいて第169号溝跡と重複し、本環濠との新旧関係は不明。
F－16、G－16グリッドにおいて第32号建物跡と重複し、本環濠が新しい。

堆積土

6地点においてセクションベルトを設定し観察したところ、一般的にレンズ状に堆積している傾向が伺えるものの、堆積土には地点毎に特徴がみられ、各々8～45層に分層された。A－A’は8層、B－B’は31層、C－C’は40層、D－D’は17層、E－E’は45層、F－F’は33層に分層された。

堆積土の下位においては自然堆積する過程で砂の混入がみられる。
環濠堆積土中に焼土ブロック、火山灰の堆積は認められなかった。

出土遺物

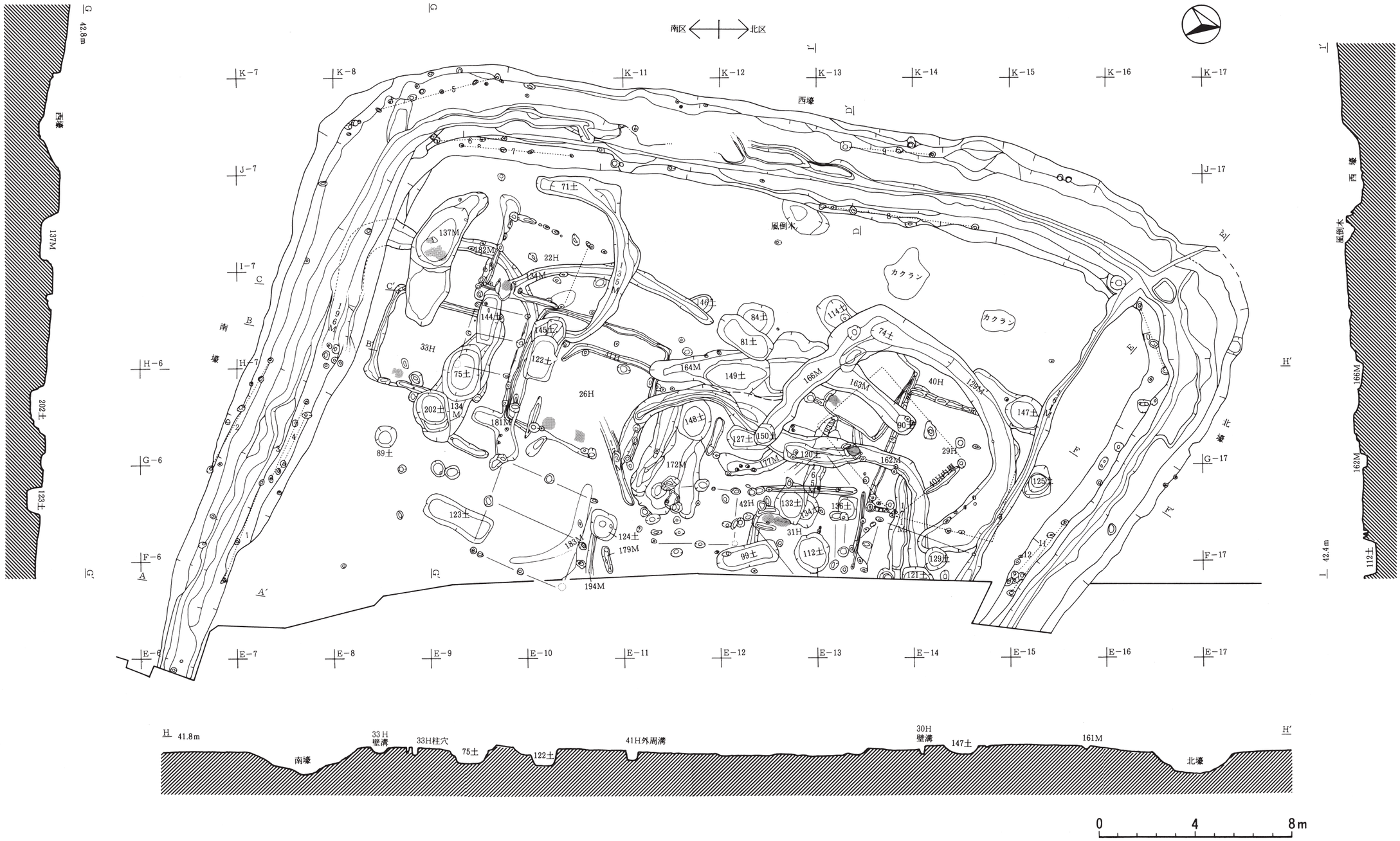
平安時代の土師器坏（底面11片・堆積土80片）、土師器甕（底面50片・堆積土724片）、須恵器坏（堆積土18片）須恵器鉢（堆積土1片）、須恵器壺（底面1片・堆積土23片）、須恵器甕（堆積土33片）砥石（堆積土1点）、土玉（底面1点）が出土しているが、まとまりのある出土状態は一切みられず、大半が混入したものであると考えられる。
環濠の内側では、ロームブロックを多量に混入した土壌が観察されたが、濠を構築する際の掘り上げ土として認定できるものではない。

濠に関連すると考えられる柱穴

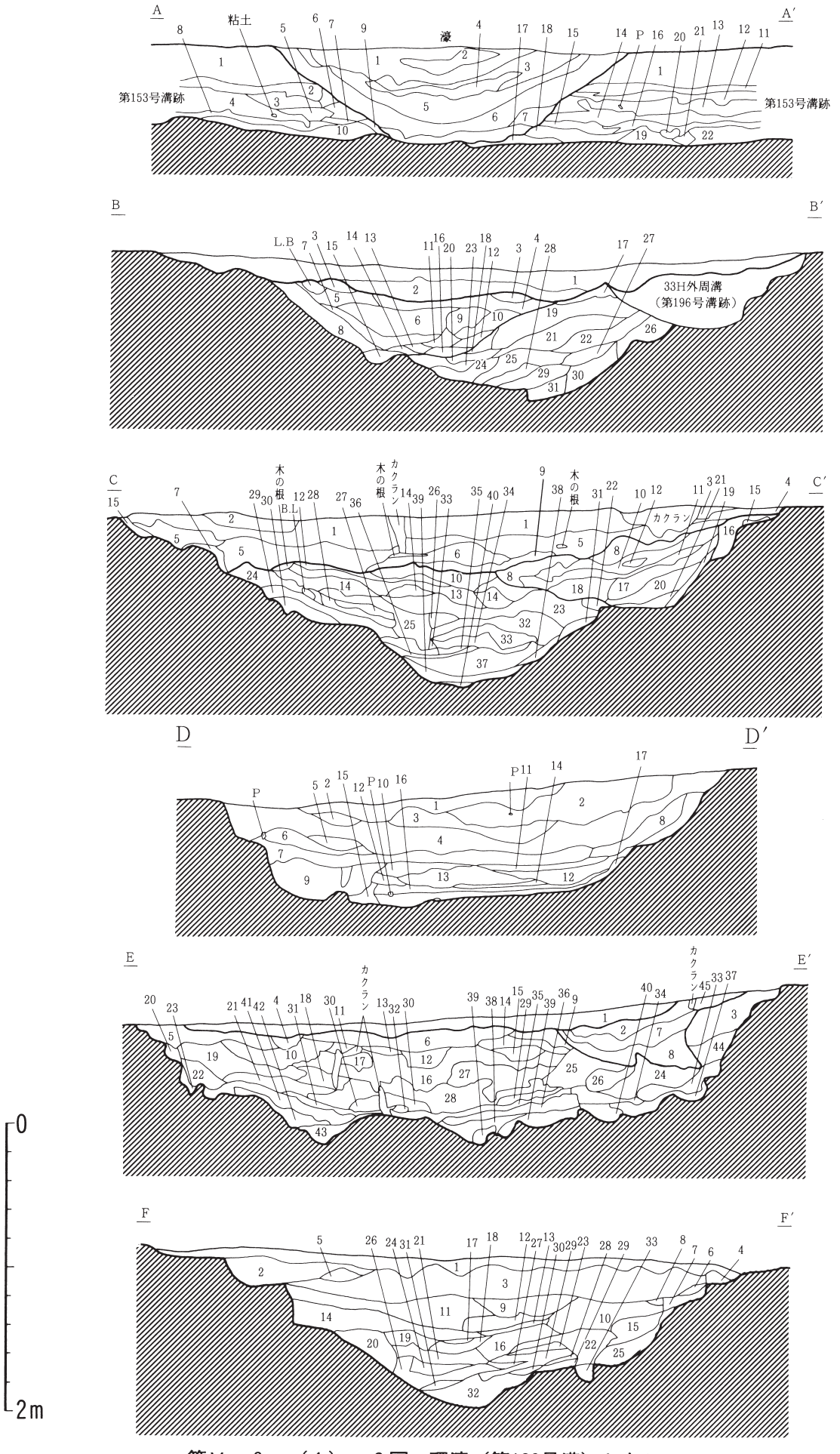
明確に柵列と考えられる柱穴は検出されなかったが、環濠内部の5地点で12基の柱穴列を検出した。これら12基の柱穴列の性格については不明とせざるを得ない。なお、橋脚の跡と考えられる柱穴は確定できなかった。

濠の構築時期

濠の堆積土中から中世と考えられる遺物は全く出土せず、また土師器、須恵器も非常に断片的なものであるため、環濠の構築された時期は大まかに平安時代としか断言できないが、少なくとも把手付土器の出現以前と判断できる。



第Ⅴ－６－（１）－１図　環壕および環壕内地区検出遺構配置図



第Ⅴ－６－（１）－２図　環濠（第120号溝）セクション

120溝（A－A′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、L.B（小）微量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒微量。
第６層	黒色土	10YR2/1	L.B（小）、ローム粒微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	炭、ローム粒微量。

153 溝（A－A′）

第１層	黒色土	10YR2/1	L.B（小）、ローム粒微量。
第２層	灰黄褐色土	10YR4/2	小礫、砂多量、L.B微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	小礫、砂少量、ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒、ローム粒，粘土B少量。
第５層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B、ローム粒多量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒中量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量。
第８層	にぶい黄橙色土	10YR7/4	粘土、L.B多量。
第９層	黒褐色土	10YR2/3	砂、ローム粒多量。
第10層	暗褐色土	10YR3/3	砂、多量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	砂微量。
第12層	黒褐色土	10YR3/2	小礫、砂多量。
第13層	黒褐色土	10YR3/2	砂中量、ローム粒微量。
第14層	黒褐色土	10YR3/2	砂中量、L.B、ローム粒少量、粘土粒微量。
第15層	黒褐色土	10YR3/2	砂中量、ローム量少量。
第16層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	砂多量、小礫微量。
第17層	暗褐色土	10YR3/4	L.B中量、粘土少量。
第18層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量、砂、L.B微量。
第19層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒微量。
第20層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量。
	黒褐色土	10YR2/2	砂中量、粘土粒、ローム粒微量。

120溝（B－B′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～10㎜）中量、炭化物少量。
第４層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム（φ１～10㎜）中量、炭化物少量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第６層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第７層	黒褐色土	10YR3/1	炭化物、ローム（φ１～５㎜）少量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物、ローム（φ１～５㎜）少量。
第９層	褐色土	10YR4/6	炭化物多量、ローム（φ１～10㎜）中量。
第10層	黒色土	10YR2/1	炭化物多量、ローム（φ１～５㎜）少量。
第11層	黄褐色土	10YR5/6	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第12層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物、ローム（φ１～10㎜）少量。
第13層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物、ローム（φ１～５㎜）少量。
第14層	黒褐色土	10YR3/1	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第16層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	ローム（φ１～10㎜）中量、炭化物少量。
第17層	暗褐色土	10YR3/4	ローム（φ１～５㎜）多量、炭化物少量。
第18層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化物少量。
第19層	黄褐色土	10YR5/8	ローム（φ１～20㎜）多量、炭化物少量。
第20層	褐灰色土	10YR5/1	ローム（φ１～10㎜）中量、炭化物少量。
第21層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～５㎜）多量、炭化物少量。
第22層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第23層	褐灰色土	10YR4/1	ローム（φ１～５㎜）多量、炭化物少量。
第24層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第25層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第26層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第27層	にぶい黄橙色土	10YR6/3	ローム粒中量、炭化物少量。
第28層	にぶい黄橙色土	10YR6/3	炭化物、ローム（φ１～５㎜）少量。
第29層	にぶい黄橙色土	10YR5/3	炭化物、ローム（φ１～５㎜）少量。
第30層	暗褐色土	10YR3/4	ローム（φ１～10㎜）多量、炭化物少量。
第31層	褐灰色土	10YR4/1	ローム（φ１～５㎜）多量、炭化物少量。

120 溝（C－C′）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、L.B（φ10㎜）極微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、L.B（φ10㎜）極微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/2	ローム(φ１～15㎜)中量、焼土粒極微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第６層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量、白粘土（φ１～５㎜）極微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、L.B少量。
第８層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～５㎜）中量、炭化粒微量、白粘土（φ15㎜）極微量。
第９層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム（φ１～10㎜）少量、白粘土（φ１～５㎜）極微量。
第10層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、白粘土（φ５㎜）少量、炭化物微量、焼土粒極微量。
第11層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒多量、白粘土（φ１～５㎜）少量、焼土炭化物微量。
第12層	暗褐色土	10YR3/3	炭化粒、白粘土（φ５～15㎜）微量。
第13層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒多量、焼土粒、炭化物微量、白粘土（φ１～５㎜）、L.B（φ10㎜）極微量。
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物、砂微量、焼土、L.B（φ10㎜）極微量
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、L.B（φ15～20㎜）中量。
第16層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、炭化物微量、白粘土（φ５㎜）極微量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、L.B（φ20㎜）中量、炭化物微量、焼土粒極微量。
第18層	暗褐色土	10YR3/3	炭化粒微量、炭化物（φ10㎜）極微量。
第19層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土、ローム粒多量、L.B中量。
第20層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	白粘土（φ10㎜）少量、ローム粒微量、炭化物（φ10㎜）、炭化粒極微量。
第21層	褐色土	10YR4/4	白粘土、ローム粒中量、炭化物微量。
第22層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B（φ15～20㎜）ローム粒少量、粘土（φ15㎜）極微量。
第23層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒多量、L.B、粘土(φ10～15㎜)中量、白粘土（φ15～20㎜）少量、炭化物微量。
第24層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、L.B（φ30㎜）極微量。
第25層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、炭化物微量。
第26層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土、炭化粒、白粘土（φ７㎜）極微量。
第27層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物微量。
第28層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、炭化物、L.B（φ50㎜）極微量。
第29層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第30層	暗褐色土	10YR3/3	L.B（φ10㎜）、ローム粒中量、白粘土（φ５㎜）少量。
第31層	暗褐色土	10YR3/3	炭化粒多量、ローム粒中量、粘土（φ5㎜）少量。
第32層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒多量、白粘土（φ５～35㎜）中量、L.B（φ20㎜）少量、砂極微量。
第33層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、白粘土（φ５～60㎜）少量、砂微量。
第34層	黒褐色土	10YR3/1	粘土(φ10～20㎜）少量、L.B（φ10㎜）、ローム粒少量。
第35層	黒褐色土	10YR3/2	粘土（φ１～40㎜）少量。
第36層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量。
第37層	灰黄褐色土	10YR4/2	白粘土（φ５～35㎜）多量。
第38層	黒褐色土	10YR3/2	粘土（φ５～10㎜）中量、砂微量、炭化物極微量。
第39層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第40層	黒褐色土	10YR3/2	砂中量、ローム粒少量。

120溝（D－D′）

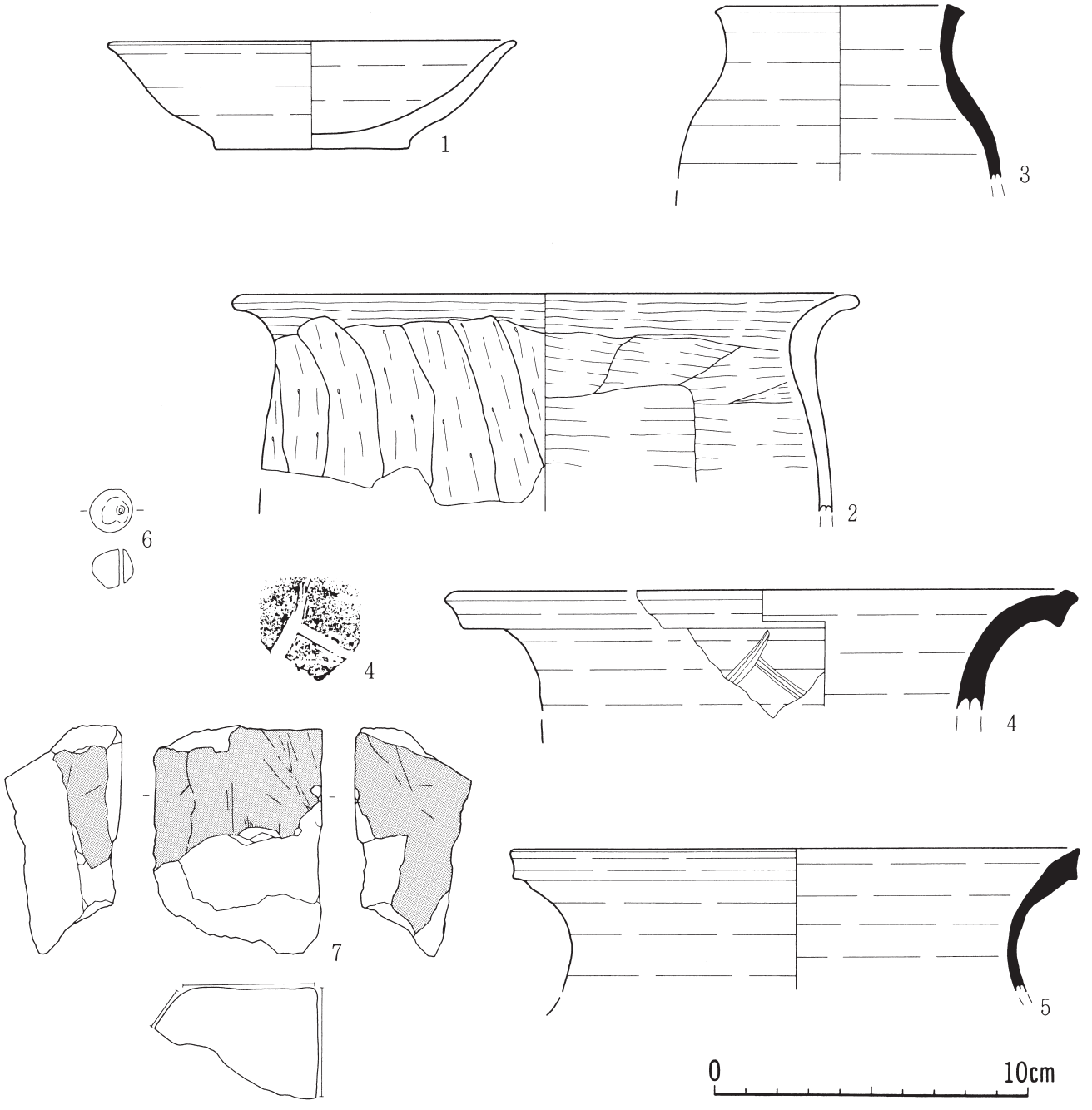
第１層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化物、ローム粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、焼土、炭化物極微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ15～40㎜）中量、焼土微量、炭化粒極微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/1	ローム粒微量、焼土粒極微量。
第９層	黄褐色土	10YR5/6	ローム層。
第10層	黒褐色土	10YR3/2	L.B、（φ15～30㎜）、ローム粒中量。
第11層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化物、ローム粒微量。
第13層	黒褐色土	10YR3/2	L.B、ローム粒多量、炭化物微量。
第14層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒極微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量。
第16層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量。
第17層	黒褐色土	10YR3/2	砂質土。

120溝（E－E′）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化物、ローム粒極微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、炭化物極微量、ローム（φ１～６㎜）少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～８㎜）少量、焼土粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	炭化粒、ローム粒極微量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ２～20㎜）少量。
第６層	暗褐色土	10YR3/3	砂質土。ローム（φ２～５㎜）少量、炭化物（φ１～３㎜）微量。
第７層	黒褐色土	10YR3/1	ローム（φ１～５㎜）少量、炭化粒、粘土（φ１～７㎜）微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～５㎜）少量、焼土（φ２～３㎜）、炭化物（φ１～５㎜）微量。
第９層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～７㎜）少量、炭化物（φ１～３㎜）微量。
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～10㎜）少量、焼土（φ１～３㎜）微量、炭化粒極微量。
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～12㎜）少量。
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量。
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～５㎜）少量、焼土（φ２～３㎜）極微量。
第14層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～７㎜）中量、焼土粒極微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ１～15㎜）中量、炭化粒微量。
第16層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～10㎜）、炭化粒微量。
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ１～15㎜）少量、炭化物（φ２～３㎜）極微量。
第18層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～８㎜）中量、焼土粒極微量。
第19層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～７㎜）少量、炭化粒極微量。
第20層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒微量。
第21層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ１～５㎜）少量、炭化粒微量。
第22層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～３㎜）少量。
第23層	褐色土	10YR4/4	ローム層。
第24層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～10㎜）中量、炭化粒微量。
第25層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～10㎜）少量、炭化物（φ２～５㎜）微量。
第26層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ２～50㎜）多量。
第27層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～40㎜）多量、粘土（φ３～５㎜）少量。
第28層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～40㎜）中量、炭化物（φ１～３㎜）少量、粘土微量。
第29層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～３㎜）少量、炭化粒、焼土粒微量。
第30層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～10㎜）少量。
第31層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～８㎜）少量、炭化粒極微量。
第32層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒極微量。
第33層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～５㎜）少量。
第34層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム（φ１～15㎜）中量。
第35層	黒褐色土	10YR2/2	ローム（φ１～３㎜）微量、炭化物少量。
第36層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～３㎜）少量、焼土（φ２～５㎜）微量。
第37層	褐色土	10YR4/4	ローム（φ１～40㎜）多量、焼土（φ10～15㎜）少量。
第38層	黒褐色土	10YR3/2	ローム（φ１～６㎜）少量、炭化粒少量。
第39層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	砂質土。ローム（φ１～10㎜）中量。
第40層	黒褐色土	10YR3/1	ローム（φ１～10㎜）少量。
第41層	暗褐色土	10YR3/3	ローム（φ１～20㎜）多量。
第42層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム（φ１～３㎜）微量、炭化物（φ１～３㎜）微量。
第43層	暗褐色土	10YR3/4	ローム（φ１～８㎜）微量。
第44層	黒褐色土	10YR2/3	ローム（φ１～５㎜）少量。
第45層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒極微量。

120 溝（F-F′）

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	L.B中量、ローム粒少量。
第５層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒多量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量。
第８層	黒褐色土	10YR2/3	L.B多量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒少量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	L.B中量、ローム粒少量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒少量。
第13層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒微量。
第14層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、L.B、ローム粒微量。
第16層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒少量。
第17層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量。
第18層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐、明暗褐色土中量、ローム少量。
第19層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒微量。
第20層	黒褐色土	10YR2/3	にぶい黄橙色土多量、黄褐色土中量。
第21層	黒色土	10YR2/1	L.B、ローム粒微量。
第22層	黒褐色土	10YR2/2	L.B多量、ローム粒中量。
第23層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第24層	にぶい黄橙色土	10YR7/4	黒褐、暗褐、黄褐色土少量。
第25層	黒褐色土	10YR2/3	明黄褐色土混入。
第26層	黒褐色土	10YR3/1	黒色土、ローム粒微量。
第27層	黒褐色土	10YR3/1	極暗褐色粒微量。
第28層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土中量。
第29層	明黄褐色土	10YR7/6	黒褐色土少量、明褐色土微量。
第30層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第31層	黒褐色土	10YR3/1	L.B、ローム粒微量。
第32層	褐灰色土	10YR4/1	暗赤褐、明黄褐，黄褐色土、炭化粒、L.B微量。
第33層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒微量。



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	環濠底面	(13.0)	3.5	(6.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			
2	〃	甕	〃	(20.0)	(6.9)		ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ					
3	須恵器	鉢	フク土	(8.0)	(5.5)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ				胎土分析73	
4	〃	短頸壺	〃	(20.2)	(3.7)		〃	〃		〃	〃				ヘラ書記号 自然釉付着	
5	〃	〃	〃	(18.2)	(4.5)		〃	〃		〃	〃				自然釉付着	

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	整理No.
	鉄	鉄滓	SD120溝跡　底面				3.1	錆若干付着	図示なし	04
6	土製品	玉(球状)	SD120溝跡（J-11）底面	14.0	13.5	13.0	2.0	黒色の焼成　歪んだ球状　焼成前片面穿孔	堅緻	07
7	石製品	砥石	SD120溝跡（F-15）覆土	72.0	54.0	32.0	85.7	細粒凝灰岩　砥面３面 第Ⅴ－7－(5)－1図－3と同一母岩か	被熱痕あり	03

第Ⅴ－6－（1）－3図　環濠（120号溝）出土遺物

（２）建物跡

環濠内地区からは９軒（拡張している建物跡は２軒とする）の建物跡が検出された。

竪穴部分が検出されなかったものについても、外周溝と考えられる平面U字形の溝跡とカマドとの位置関係より推定して建物跡として認定したものもある（40H、41H）。これは、環濠内地区全体がかなり削平を受けている（31H南北セクションＡ－Ａ’参照）ことを考慮して、積極的に判断した結果である。

竪穴部

カマドは、ほとんどが東側に位置する（29Hは不明）が、31Hと42Hは南側に位置する（31Hは42Hを拡張したものである）。壁高は削平のために不明なものが多い。

外周溝

９軒のうち、８軒の建物跡（22H、26H、29H、31H、33H、40H、41H、42H）には外周溝が付随し、30Hだけは付随しない。22H、26H、29H、31Hの4軒の外周溝は一部が途切れる構造のものであるが、大規模な削平の結果である可能性もある。

掘立柱部

22H、26H、31H、40H、42Hの５軒には掘立柱建物跡が付随する。

建物跡の重複関係

建物跡のほとんどは重複関係にあり、環濠外地区と比較しても、非常に重複度が高い。建物跡は、環濠内地区のほぼ中央、グリッドで言うところの12ラインを境にして南側と北側に集中する（第Ⅴ－６－（１）－１図）。ここでは、環濠内地区をグリッドの12ラインで区切って南区、北区と称し、記述する。

南区では22H、26H、33H、41Hの４軒の建物跡が重複し、北区では、29H、30H、31H、40H、42Hの5軒の建物跡が重複する。新旧関係は下記の通りである。

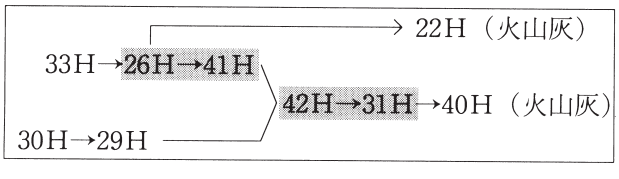
南区

33H→26H→22H
　　↘41H

北区

30H→29H→42H→31H→40H

これら南区、北区の重複する建物跡の前後関係に、火山灰（白頭山苫小牧火山灰（B－Tm））を介在させて以下に模式的に表す。



これら９軒の建物跡の変遷については、第Ⅶ章第１節（２）に述べている。

第22号建物跡観察一覧表

位　置	J－10.I－8～11.H－8～10	図版番号	第V－6－(2)－1～5図	写真図版番号	21－7、8

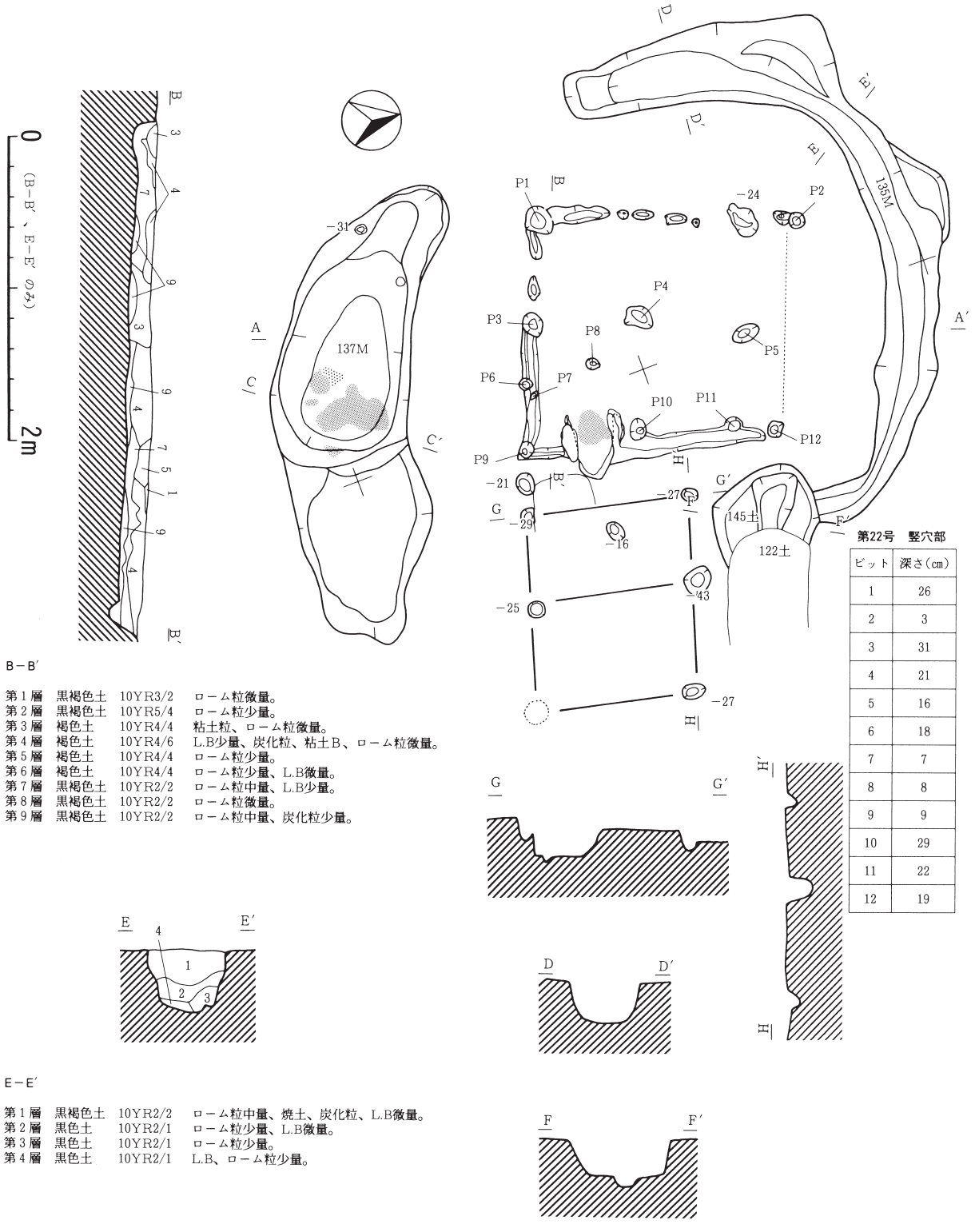
重複関係	122土＞22H＞26H＞33H 22H＞190M

			東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
竪穴部	法　量	壁　長（m）	3.34	3.43	3.04	2.74
		壁　高（cm）	―――	―――	―――	―――
		周溝幅（cm）	26	23	20	―――
		周溝深さ（cm）	20	16	14	―――
	平面形	長方形	床面積	約10.4m²	主軸方位	N－105°－E
	壁	検出されなかった。			床	ほぼ平坦
	周　壁	東壁、南壁、西壁に検出された。西壁はごく一部。				
	ピット	12個検出された。 主柱穴は不明。				
	かまど	遺存状態	良好	位　置	東壁の南寄り	
		煙道部は良好な残存状態を示し、天上部は壊れているものの、両ソデともしっかりしている。 火床面、煙道部底面、左ソデ付近の柱穴（P_{10}）上に土師器が出土した。 覆土は19層に分層された。				
	堆積土	9層に分層された。褐色土を主体とし、ローム粒子を混入する。 人為堆積と思われる。				
	出土遺物	竪穴部－土師器坏・甕 カマド－不明鉄製品・土師器坏・甕				
	附属施設	掘立柱建物跡1棟　　外周溝（137・135M）　　土坑（145土）				
	小　結	北西部の削平は激しいが、環濠内南地区の建物跡の中で最も遺存状態が良好である。				

掘立柱部	規　模	桁行2間（総長2.6m－北）×梁間1間（総長2.2m－西）	
	平面形式	長方形を呈す東西棟建物跡である。南東端の1基は検出されなかった。	
	柱　穴	径	25cm～40cmの円形、楕円形の掘り方である。
		深　さ	16cm～43cm
	柱間寸法	桁行――1.6m（5尺3寸） 梁間――2.2m（7尺3寸）	
	出土遺物	なし	
	小　結	竪穴部の面積（10.4m²）＋掘立柱部の面積（5.5m²）＝約15.9m² 145土の規模に合わせているかのような梁行寸法である。	

外周溝・135M	規　模	長　さ	9.96m	上端幅	128cm	断面形	半楕円形
		深　さ	52cm	下端幅	64cm	傾　斜	西→東
	堆積土	4層に分層された。黒色土を主体とし、ローム粒、炭化物粒、焼土粒を混入する。 D－D′部分には火山灰が検出された。					
	出土遺物	なし					
	小　結	137Mとは意識的につながらないようにしていると思われる。					

外周溝・137M	規　模	長　さ	6.52m	上端幅	184cm	断面形	逆台形
		深　さ	58cm	下端幅	104cm	傾　斜	西→中央(最深部)←東
	堆積土	21層に分層された。褐色土を主体とし、ローム粒子を混入する。 自然堆積→人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器－坏・甕、須恵器－坏・大甕、鉄製品－刀子・刀子か					
	小　結	土坑状の最深部（覆土中位）には廃棄された焼土・粘土が検出された。 135Mとは意識的につながらないようにしていると思われる。					



第22号　竪穴部

ピット	深さ(cm)
1	26
2	3
3	31
4	21
5	16
6	18
7	7
8	8
9	9
10	29
11	22
12	19

B−B′

第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR5/4　ローム粒少量。
第３層　褐色土　10YR4/4　粘土粒、ローム粒微量。
第４層　褐色土　10YR4/6　L.B少量、炭化粒、粘土B、ローム粒微量。
第５層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量。
第６層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量、L.B微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、L.B少量。
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第９層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化粒少量。

E−E′

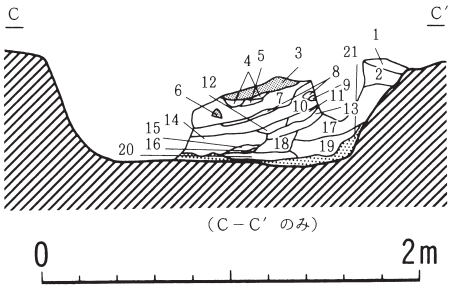
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土、炭化粒、L.B微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、L.B微量。
第３層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第４層　黒色土　10YR2/1　L.B、ローム粒少量。

(平面図及びA−A′、D−D′、F−F′、G−G′、H−H′)

0　4m

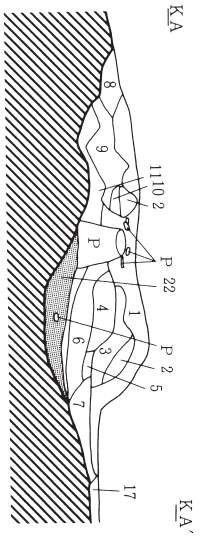
第Ⅴ−6−（２）−１図　第22号建物跡（１）

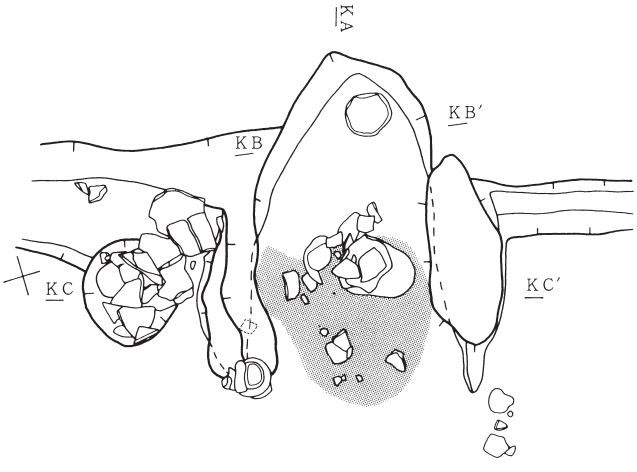
土坑・145土	平面形	不整円	壁	緩やかに立ち上がる	底面	溝状の窪みあり
	規模	長軸 124cm	短軸	84cm	深さ	60cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 人為堆積と考えられる。				
	出土遺物	なし				
	小結	122土に切られる。135Mに接続する。				

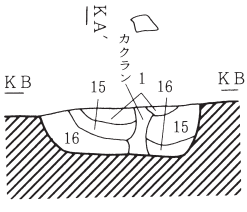


C－C′

第1層	暗褐色土	10YR3/4	焼土中量、ローム粒少量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化粒、ローム粒少量。
第3層	明赤褐色土	5YR5/6	焼土層、L.B、暗褐色土中量、炭化物微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/3	焼土B、炭化物、粘土B少量。
第5層	暗褐色土	10YR3/4	焼土、ローム粒少量。
第6層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土層、黒褐色土少量。
第7層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（小）少量、ローム粒微量。
第8層	黒色土	10YR2/1	
第9層	褐色土	10YR4/4	
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、ローム粒少量、炭化物微量。
第12層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B多量、ローム粒少量。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、黒色土少量。
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物少量。
第15層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒少量。
第16層	黒色土	10YR2/1	
第17層	黒褐色土	10YR3/2	L.B多量、ローム粒少量、粘土B微量。
第18層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、L.B（大）少量。
第19層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒中量、黒色土少量。
第20層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒少量、黒色土少量。
第21層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	粘土層。

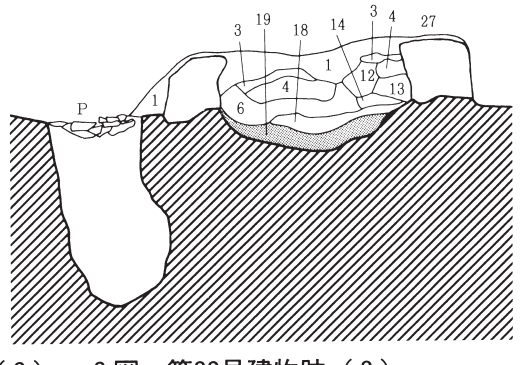




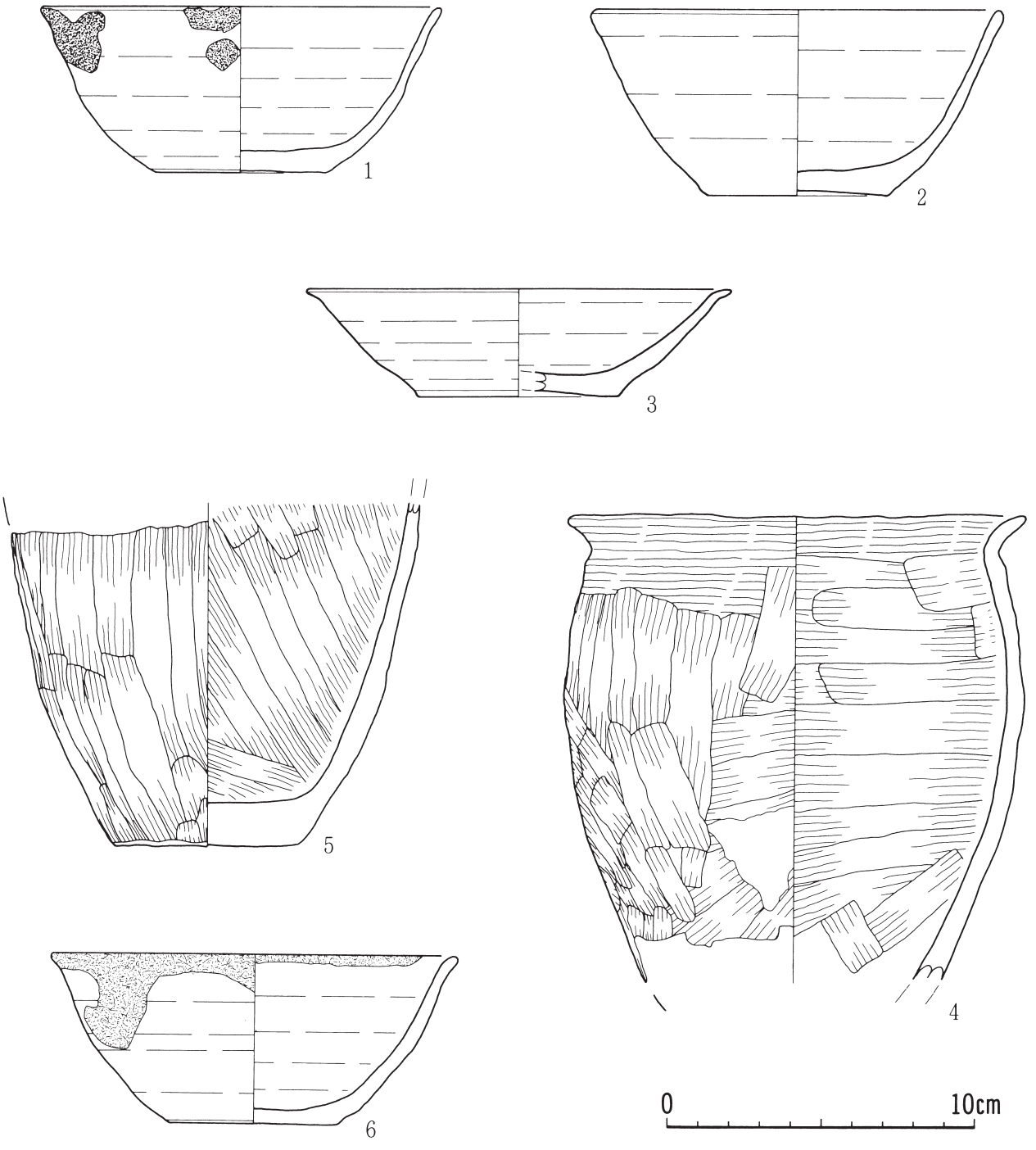


カマド

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/5	炭化粒少量。
第2層	褐色土	10YR4/4	
第3層	明赤褐色土	5YR5/6	粘土（小）中量。
第4層	明赤褐色土	5YR5/8	褐色土多量、炭化物（小）微量。
第5層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	粘土（小）微量。
第6層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土、焼土粒、ローム粒少量。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒少量、炭化粒微量。
第8層	黒褐色土	7.5YR3/2	焼土B微量。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	焼土B微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	炭化粒少量、ローム粒微量。
第11層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒少量、炭化粒微量。
第12層	暗褐色土	10YR3/3	焼土B（小）中量、炭化粒微量。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、焼土粒、炭化物微量。
第14層	黒色土	10YR1.7/1	焼土粒微量。
第15層	明褐色土	7.5YR5/4	暗褐色土少量。
第16層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒少量、炭化物、L.B少量。
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物、L.B少量、焼土粒微量。
第18層	橙色土	7.5YR6/6	焼土崩落土。
第19層	明赤褐色土	5YR5/8	火床面。

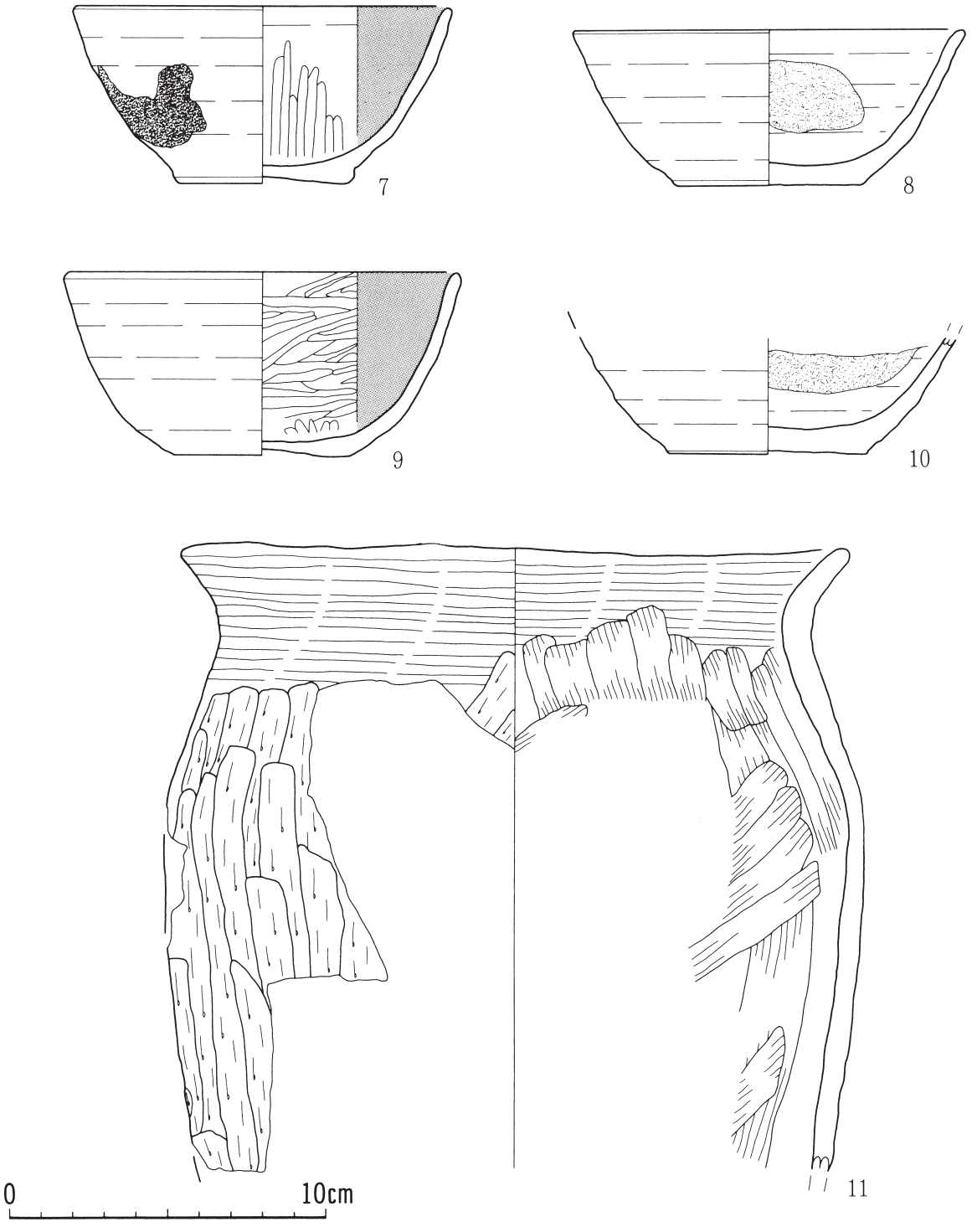


第Ⅴ－6－（2）－2図　第22号建物跡（2）



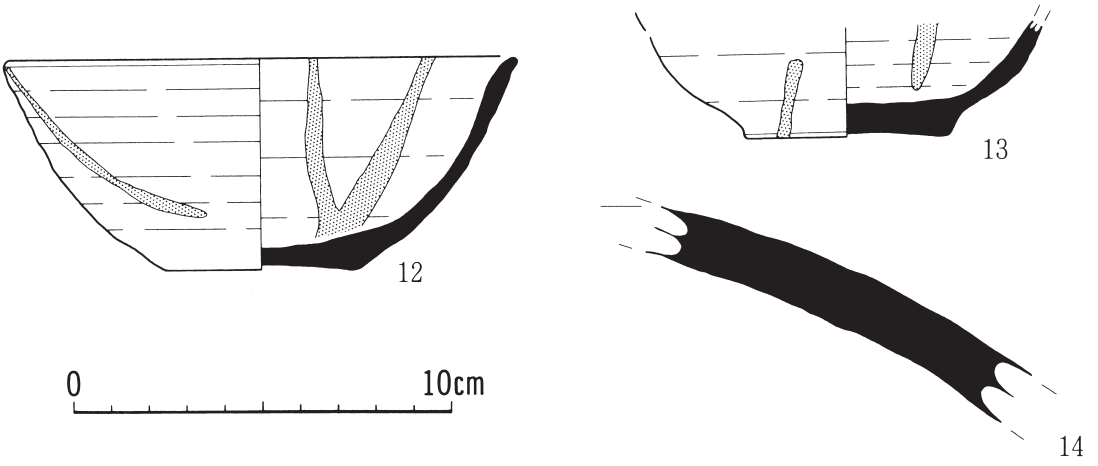
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	カマド フク土	13.0	5.4	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		ハクリ	
2	〃	〃	フク土	13.4	6.0	6.0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		二次焼成	
3	〃	〃	カマド フク土	13.8	3.4	6.6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		皿形に近い	
4	〃	甕	フク土	(14.9)	(15.0)		ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ				
5	〃	〃	カマド フク土		(11.1)	(6.6)			〃			〃	砂底		二次加熱	
6	〃	坏	137M フク土	13.1	5.4	5.5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		二次加熱、ススス	

第Ⅴ－6－（2）－3図　第22号建物出土遺物（1）

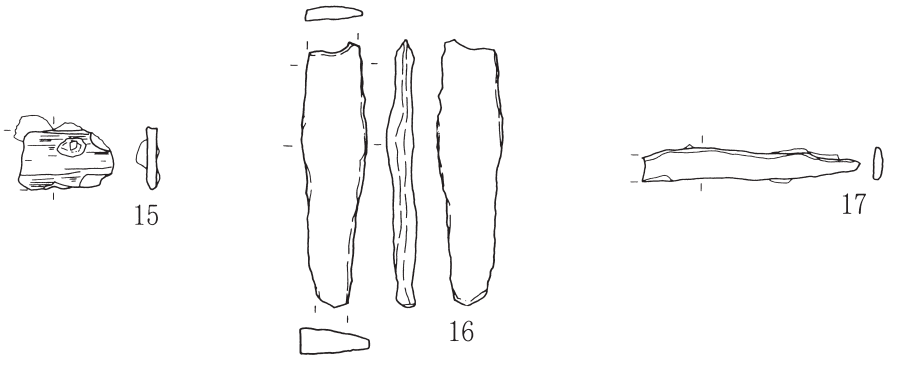


遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
7	土師器	坏	137M フク土	(12.0)	5.6	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ ヘラミガキ	ロクロ ヘラミガキ	回転糸切り		二次加熱、ハクリ 内面黒色処理	
8	〃	〃	〃	12.3	4.9	5.9	〃	〃	〃	〃	ロクロ	ロクロ	〃		二次焼成、スス	
9	〃	〃	〃	12.5	5.6	5.5	〃	〃	〃	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	〃		内面黒色処理	
10	〃	〃	〃		(3.6)	6.3			〃			〃	〃		油跡 底部ヘラ書記号	
11	〃	甕	〃	(21.1)	19.6		ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ				化粧粘土	

第Ⅴ－6－（2）－4図　第22号建物跡出土遺物（2）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
12	須恵器	坏	137M フク土	(13.6)	5.6	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		火ダスキ痕 黒みがかった茶褐色	
13	〃	〃	〃		(3.0)	(5.4)		〃	〃		〃	〃	〃		火ダスキ痕	
14	〃	大甕	〃		(5.2)			格子状叩き目			当て具痕（？）				胎土分析－68	



遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
15	鉄製品	不明	22H カマド 覆土	27.0	19.0	5.5	3.2	苧引金か留金具か 釘が装着されたまま残存	木質部残存	×	06
16	〃	刀子	22H SD137溝跡 覆土	70.0	19.0	9.0	11.1	茎部・刃部欠損 関がみられない		○	19
17	〃	刀子か	22H SD137溝跡 覆土	58.0	9.0	2.0	3.6	刃部残存		△	05

第Ⅴ－6－（2）－5図　第22号建物跡出土遺物（3）

第26号建物跡観察一覧表

位　置	I-9~11.H-9~11.G-8~11.F-9~11	図版番号	第Ⅴ－６－(２)－６～８図	写真図版番号	22－１、２

重複関係	122土＞22H＞26H＞33H 42H・31H＞41H＞26H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	5.70	5.58	4.96	5.10
		壁　高（cm）	―――	24	―――	―――
		周溝幅（cm）	20	15	20	19
		溝深さ（cm）	16	34	24	20
	平面形	ほぼ正方形	床面積	約26.6m²	主軸方位	N－103°－E
	壁	西壁に検出された。			床	ほぼ平坦
	周　壁	北壁のカマド～隅柱の部分以外は一巡する。				
	ピット	12個検出された。 主柱穴は、P_1～P_4と思われる。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。	
		火床面のみ検出された。				
	堆積土	14層に分層された。黒褐色土を主体とし、炭化材、炭化物粒、焼土を混入する。 焼土は床面に接する。人為堆積と思われる。				
	出土遺物	土師器坏１点 土師器甕１点				
	附属施設	掘立柱建物跡１棟　　外周溝（134.172－a.b.187M） 土坑（75.148.202土）				
	小　結	焼失家屋である。41Hの構築により41H外周溝より内側の部分には、焼土・炭化材等の焼失家屋に伴うものは検出されなかった。				

掘立柱部	規　模	桁行２間（総長3.92m－北）×梁間２間（総長4.04m－東）	
	平面形式	ほぼ正方形を呈す建物跡である。	
	柱　穴	径	24cm～48cmの円・楕円形の掘り方である。
		深　さ	８cm～37cmで、深浅がみられる。
	柱間寸法	桁行――3.92m（12尺９寸） 梁間――4.04m（13尺３寸）	
	出土遺物	なし	
	小　結	竪穴部の面積（26.6m²）＋掘立柱部の面積（16.2m²）＝約42.8m²（約26畳） 178Mとの新旧は不明。	

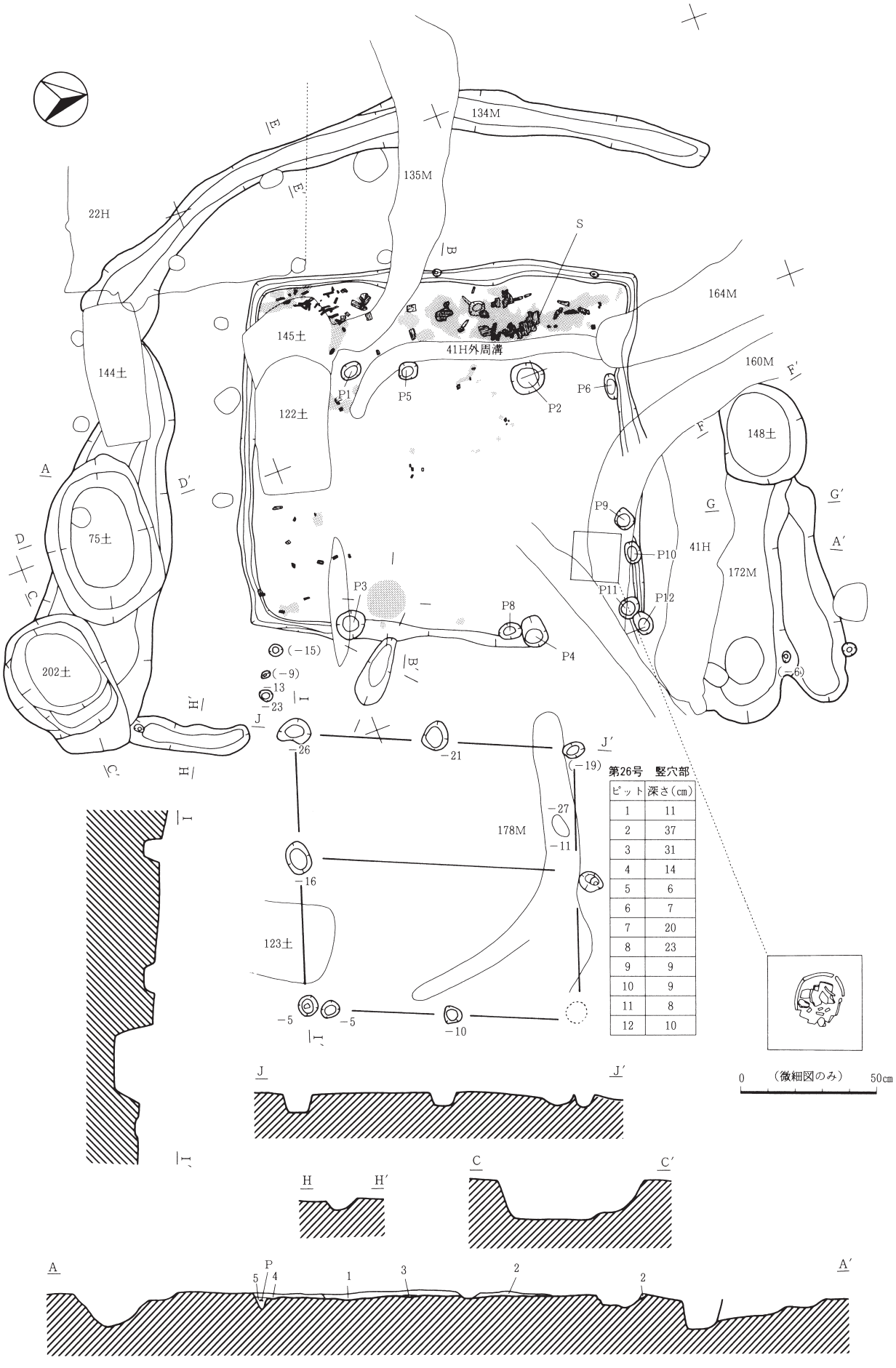
外周溝・134M	規　模	長　さ	17.84m	上端幅	44～176cm	断面形	逆台形
		深　さ	24cm	下端幅	16～136cm	傾　斜	南←中央→北
	堆積土	３層に分層された。黒色土を主体とし、ローム粒・炭化物を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結						

外周溝・172M	規　模	長　さ	3.52m	上端幅	南(96)	北(80)cm	断面形	長方形
		深　さ	30cm	下端幅	南(80)	北(64)cm	傾　斜	西→東
	堆積土	３層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒・炭化粒・焼土粒を混入する。 自然堆積と思われる。						
	出土遺物	なし。						
	小　結	南北２条に分岐する。						

土坑・202土							
	平面形	不整楕円形	壁	直線的に立ち上がる	底面	平坦	
	規模	長軸	224cm	短軸	132cm	深さ	60cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。					
	出土遺物	なし					
	小結						

土坑・75土							
	平面形	長楕円形	壁	直線的に立ち上がる	底面	ほぼ平坦	
	規模	長軸	248cm	短軸	160cm	深さ	66cm
	堆積土	10層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土・炭化物・ローム粒を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小結						

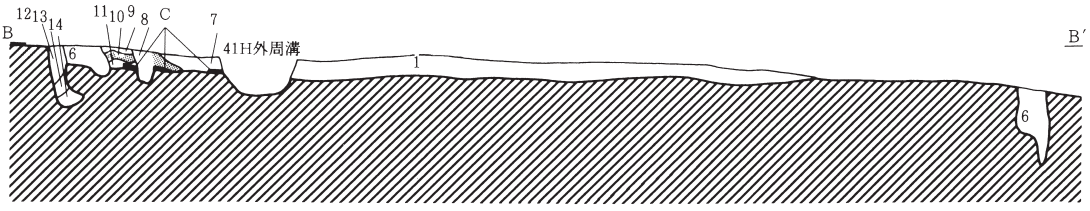
土坑・148土							
	平面形	円形	壁	直線的に立ち上がる。	底面	ほぼ平坦	
	規模	長軸	148cm	短軸	120cm	深さ	38cm
	堆積土	4層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小結						



第26号　竪穴部

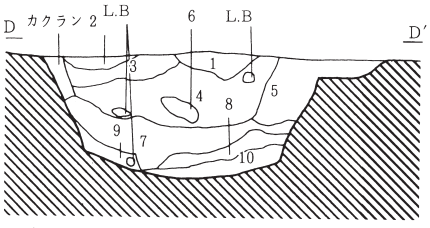
ピット	深さ(cm)
1	11
2	37
3	31
4	14
5	6
6	7
7	20
8	23
9	9
10	9
11	8
12	10

第Ⅴ－６－（２）－６図　第26号建物跡（１）



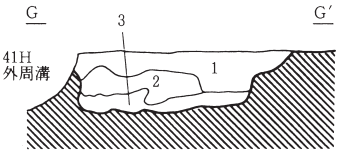
A－A′、B－B′

第１層　黒褐色土　10YR2/3
第２層　黒褐色土　10YR2/3
第３層　黒褐色土　10YR2/2
第４層　暗褐色土　10YR3/3
第５層　褐色土　10YR4/6
第６層　黒褐色土　10YR2/3
第７層　黒褐色土　10YR2/3
第８層　明赤褐色土　5YR5/8
第９層　黒褐色土　10YR2/3
第10層　明褐色土　7.5YR5/8
第11層　黒褐色土　7.5YR3/2
第12層　黒褐色土　10YR2/2
第13層　暗褐色土　10YR3/3
第14層　黄褐色土　10YR5/6



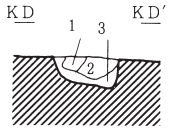
D－D′

第１層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（大）、ローム粒多量、炭化物、炭化粒微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（大）、ローム粒多量、炭化物微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、炭化物、炭化粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、焼土、炭化粒、粘土微量。
第５層　黒褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化粒微量。
第６層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、焼土粒微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化粒微量。
第８層　暗褐色土　10YR3/4　L.B（大）、ローム粒多量。
第９層　暗褐色土　10YR3/3　L.B、ローム粒多量、炭化粒微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　L.B、ローム粒多量、焼土粒、炭化粒微量。



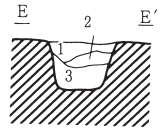
G－G′

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化粒、焼土粒、L.B（大）、褐色土微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒、L.B（大）少量、黄褐色土含む。
第３層　黄褐色土　10YR5/6　ローム粒、L.B多量。



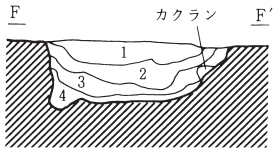
KD－KD′

第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒、黒色土少量、焼土粒、L.B（小）、炭化物微量。
第２層　暗褐色土　7.5YR2/2　ローム粒少量、焼土、L.B、黒色土、炭化物微量。
第３層　暗褐色土　10YR3/4　粘土多量、粘土B、ローム粒微量。



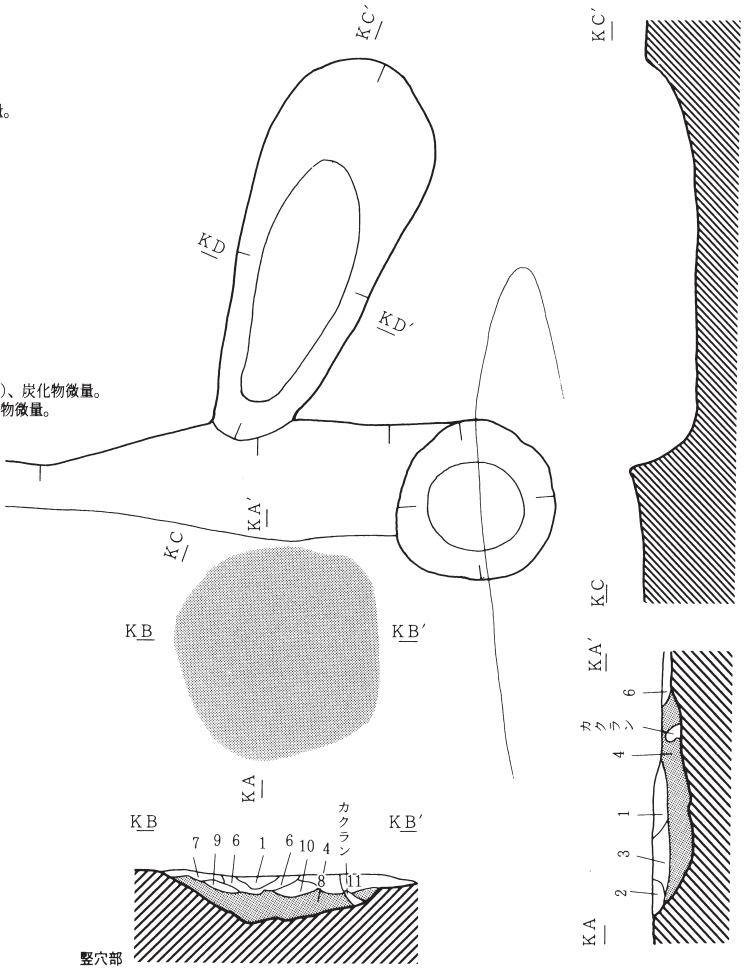
E－E′

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒（小）中量。
第３層　黒色土　10YR2/1　L.B（大）多量、ローム粒中量。



F－F′

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量。



竪穴部

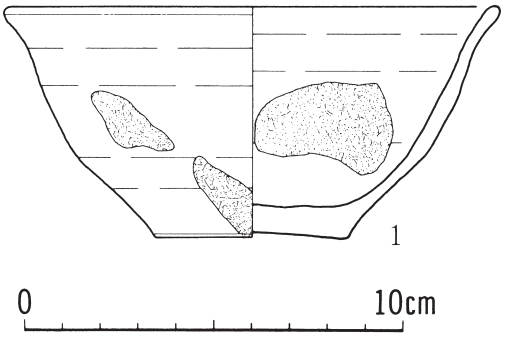
第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒、炭化粒、粘土粒、ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒少量、ローム粒微量。
第４層　赤褐色土　5YR4/8　粘土粒（小）微量。（火床面）
第５層　極暗褐色土　7.5YR2/3　ローム粒中量、焼土粒少量。
第６層　赤褐色土　5YR4/6　焼土B少量。
第７層　暗褐色土　7.5YR3/4　炭化粒微量。
第８層　黒褐色土　7.5YR2/2　焼土粒少量、ローム粒微量。
第９層　赤褐色土　5YR4/3　焼土多量、炭化粒微量。
第10層　明赤褐色土　5YR5/8　焼土B少量。
第11層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒中量、炭化粒、ローム粒微量。

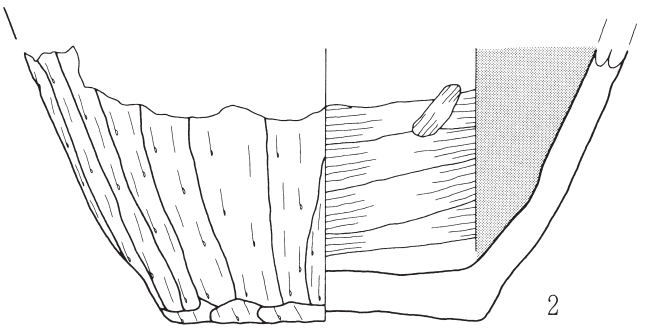
0　2m

（平面図及びカマド断面図のみ）

0　1m

第Ⅴ－６－（２）－７図　第26号建物跡（２）





遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	竪穴部・焼土周辺	(13.0)	6.1	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		スス	
2	〃	甕	埋設土器		(7.1)	8.4			ヘラケズリ			ヘラナデ	砂底		内面黒色処理	

第Ⅴ－６－（２）－８図　第26号建物跡出土遺物（３）

第29号建物跡観察一覧表

位　置	G－12～14.F－12～14	図版番号	第Ⅴ－6－(2)－9	真図版番号	22－3

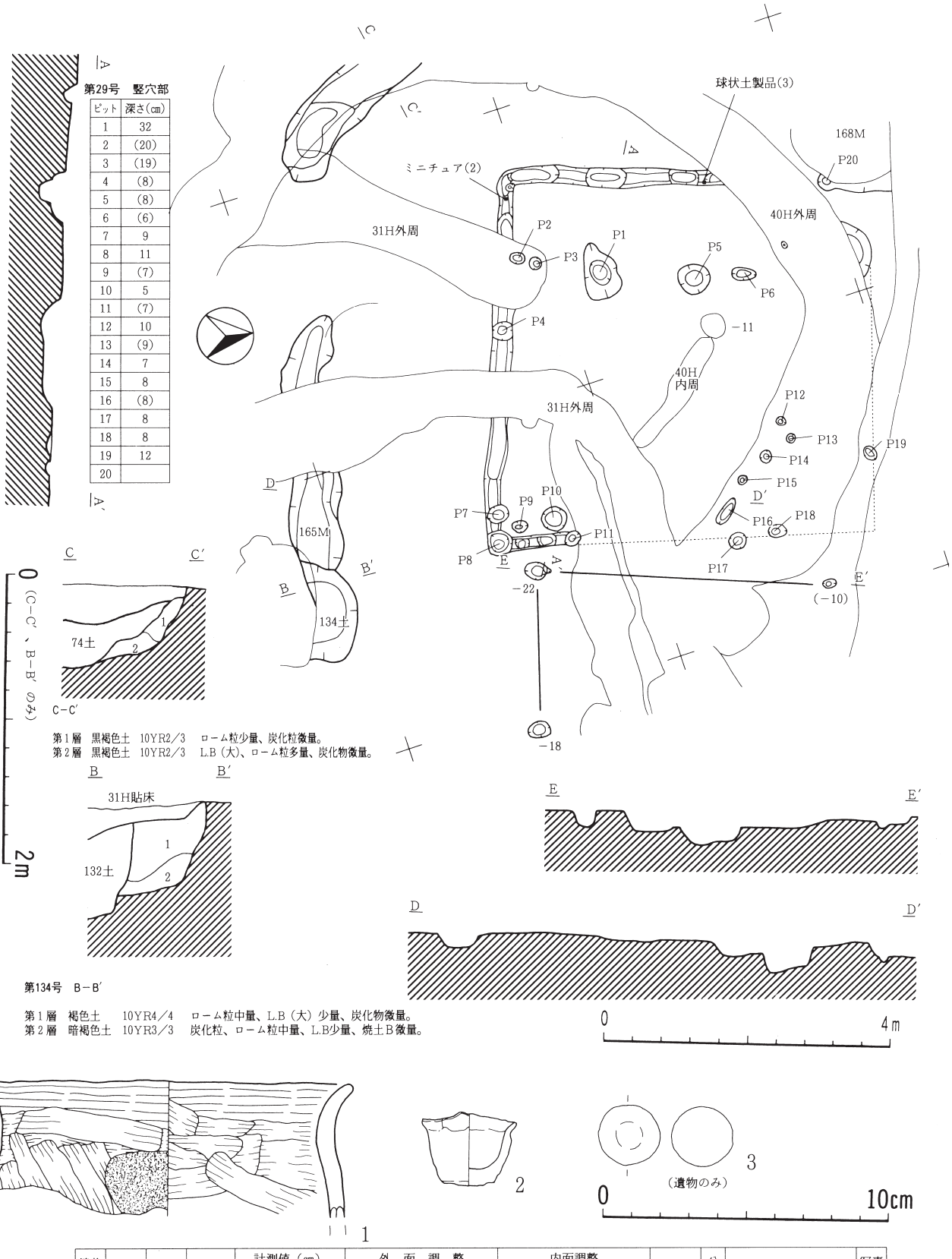
重複関係	40H＞31H＞41H＞29H＞30H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	(1.13)	(3.18)	5.15	―――
		壁　高（cm）	―――	―――	―――	―――
		周溝幅（cm）	18	26	30	―――
		周溝深さ（cm）	8	16	4	―――
	平面形	不明	床面積	約（17.2）m²	主軸方位	N－100°－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	西、南、東壁の一部が検出された。				
	ピット	20個検出された。 主柱穴はP_1と思われる。				
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位　置	不明	
		31H外周溝により破壊されたものと思われる。				
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察では人為堆積と思われる。				
	出土遺物	内周溝－土師器鉢　1点（ミニチュア） 球状土製品　1点				
	附属施設	掘立柱建物跡　1棟　　外周溝（165M） 土　坑（134土）				
	小　結					

掘立柱部	規　模	桁行1間（総長4.80m）×梁間1間（総長2.24m）	
	平面形式	長方形を呈す東西棟建物跡であると考えられる。	
	柱　穴	径	8cm～40cmの楕円形の掘り方である。
		深　さ	8cm～16cm
	柱間寸法	桁行――4.80m（15尺8寸） 梁間――2.24m（7尺4寸）	
	出土遺物	なし	
	小　結	竪穴部の面積（（17.2m²））＋掘立柱部の面積（9.0m²）＝約26.2m²	

外周溝・165M	規　模	長　さ	5.60m	上端幅	56～76cm	断面形	逆台形
		深　さ	20cm	下端幅	24～56cm	傾　斜	西→東
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 人為体積と思われる。					
	出土遺物	なし。					
	小　結	C－C´の東側に土坑状のくぼみを有し、その部分で途切れる。					

土坑・134土	平面形	不整形	壁	直線的に立ち上がる。	底　面	平坦	
	規　模	長　軸	136cm	短　軸	56cm	深　さ	56cm
	堆積土	2層に分層された。褐色土を主体とし、ローム粒・炭化物・焼土を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器　11点					
	小　結	31H貼床下に検出された。134土＜132土＜31H貼床					



ピット	深さ(cm)
1	32
2	(20)
3	(19)
4	(8)
5	(8)
6	(6)
7	9
8	11
9	(7)
10	5
11	(7)
12	10
13	(9)
14	7
15	8
16	(8)
17	8
18	8
19	12
20	

遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	134土 フク土	(12.8)	(4.7)		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ				化粧粘土	
2	〃	鉢（ミニチュア）	内周溝 フク土	(3.3)	2.6	1.8									手づくね	

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	整理No.
3	土製品	球状土製品	29H内周溝　覆土	21.0	21.0	21.0	7.4	球状	堅緻	08

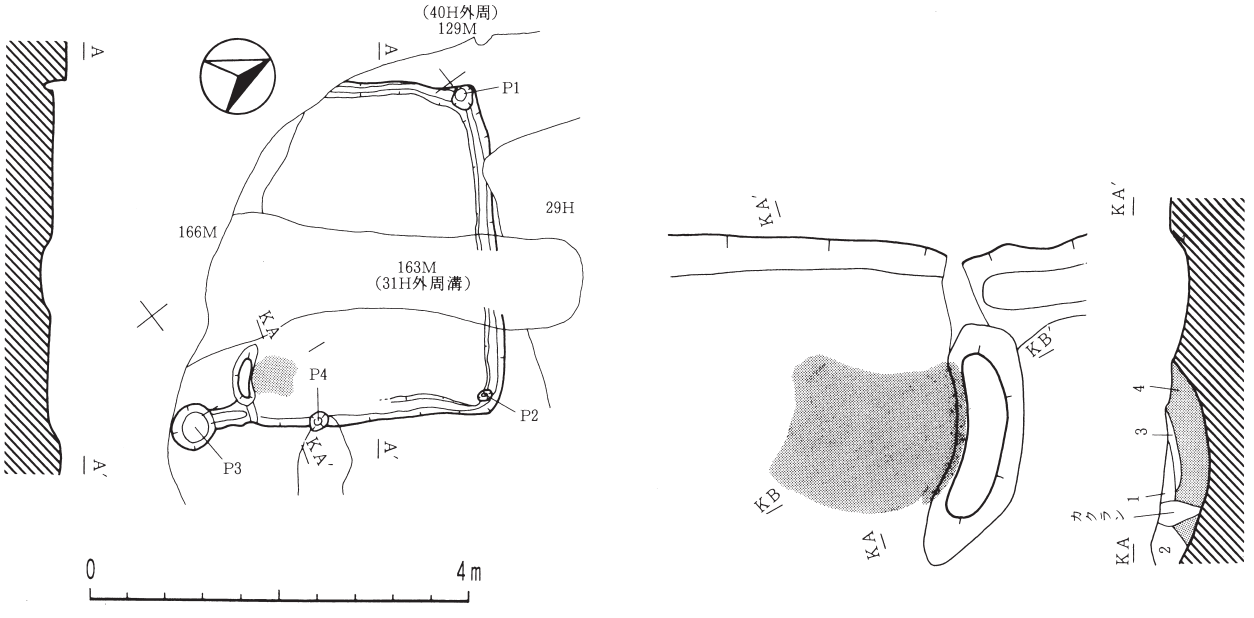
第Ⅴ－6－（2）－9図　第29号建物跡出土遺物

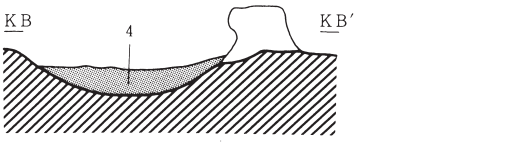
第30号建物跡観察一覧表

位　置	H－13.G－12～13	図版番号	第Ⅴ－6－(2)－10	写真図版番号	22－4

重複関係	40H＞31H＞29H＞30H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	3.45	(1.55)	――	3.15
		壁　高（cm）	――	――	――	――
		周溝幅（cm）	22	16	――	18
		周溝深さ（cm）	10	12	――	15
	平面形	ほぼ正方形	床面積	約（8.5）m²	主軸方位	N－119°－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦
	周　壁	北壁・東壁・西壁で検出された。西壁はごく一部。				
	ピット	4個検出された。 隅柱穴が主柱穴であると思われる。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。	
		右ソデと火床面のみ検出された。				
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より人為堆積と思われる。				
	出土遺物	なし				
	附属施設	なし				
	小　結	外周溝、掘立柱建物跡ともに付随しない建物跡環濠内地区は本建物跡のみである。				





第30号　竪穴部

ピット	深さ（cm）
1	(24)
2	20
3	8
4	(5)

30H カマド

第1層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒多量、炭化物粒微量混入。
第2層　褐色土　10YR4/6　焼土粒微量、粘土B20%混入。
第3層　にぶい黄褐色土　10YR6/4　非常に硬い。天井部崩落土。
第4層　明赤褐色土　5YR5/8　硬くしまる。火床面。

0　1m

第Ⅴ－6－（2）－10図　第30号建物跡

第31号建物跡観察一覧表

位　置	F−11〜14.G−11〜13.H−11〜13	図版番号	第Ⅴ−6−(2)−11〜14	写真図版番号	22−5

重複関係	99土＞31H＞42H＞41H＞26H＞33H

			東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
竪穴部	法　量	壁　長（m）	――	4.35	(3.40)	(3.34)
		壁　高（cm）	――	――	――	――
		周溝幅（cm）	――	26	周溝なし	20
		周溝深さ（cm）	――	8	88	――
	平面形	不明	床面積	約（13.4）m²	主軸方位	N−173°−E
	壁	検出されなかった。			床	貼床下に土坑のある所は窪む
	周　壁	北側、西側に巡る。東側は調査区域外で不明。				
	ピット	13個検出された。 主柱穴はP_5〜P_7と思われる。				
	かまど	遺存状態	良好	位　置	南壁の西寄り。	
		42Hの火床面と隣り合うように31Hの火床面が検出された。 ソデの一部が柱穴によって破壊されているが、煙道部、火床面の残りは良い。				
	堆積土	5層に分層された。褐色土を主体とし、ローム、焼土、炭化物粒を混入する。 人為堆積か自然堆積か不明。				
	出土遺物	土師器−甕　　須恵器−大甕 カマド：土師器−甕・杯、土製品				
	附属施設	掘立柱建物跡　1棟　　外周溝（162.163M） 土坑（90.121.149土）				
	小　結	31Hは42Hを拡張したものである。 図示した掘立柱建物跡は、42Hの図に示したものと同一である。 31H、42Hのどちらに伴うものかは不明。掘立部の拡張は認められない。				

掘立柱部	規　模	桁行2間（総長3.32m−西）×梁間2間（総長2.08m−南）	
	平面形式	長方形を呈す南北建物跡である。（42Hに再載）北東隅は検出されなかった。	
	柱　穴	径	28cm〜68cmの円形・楕円形の掘り方である。
		深　さ	10cm〜27cm
	柱間寸法	桁行──3.32m（11尺　寸） 梁間──2.08m（6尺9寸）	
	出土遺物	なし	
	小　結	竪穴部の面積（（13.4）m²）＋掘立柱部の面積（7.1m²）＝約20.5m²	

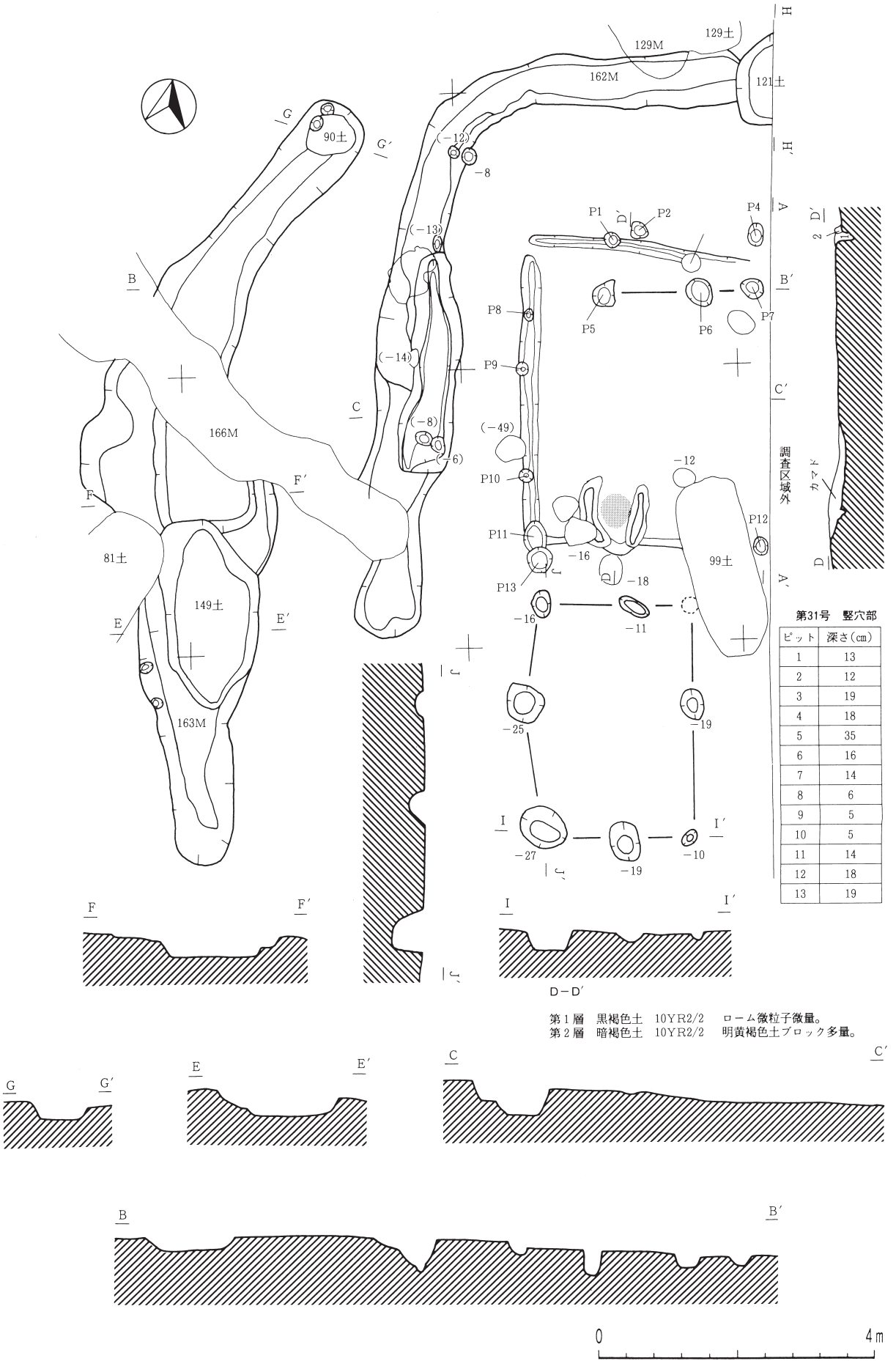
外周溝・162M	規　模	長　さ	11.32m	上端幅	190〜310cm	断面形	逆台〜U字形
		深　さ	32cm	下端幅	32〜80cm	傾　斜	南→北
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より、人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土−土師器杯　1点					
	小　結	121土と連結する。					

外周溝・163M	規　模	長　さ	9.24m	上端幅	280cm	断面形	逆台形
		深　さ	32cm	下端幅	32〜80cm	傾　斜	北→中央←南
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土−不明鉄製品　2点					
	小　結	162Mに比べ、幅広で浅い。					

土坑・149土						
平面形	楕円形	壁	緩やかに立ち上がる	底面	平坦	
規模	長軸	260cm	短軸	135cm	深さ	40cm
堆積土	セクション図は作成しなかった。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	なし					
小結	163Mの一部である。					

土坑・90土						
平面形	円形	壁	直線的に立ち上がる	底面	平坦	
規模	長軸	96cm	短軸	80cm	深さ	28cm
堆積土	セクション図は作成しなかった。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土一土師器4					
小結	163Mの北端					

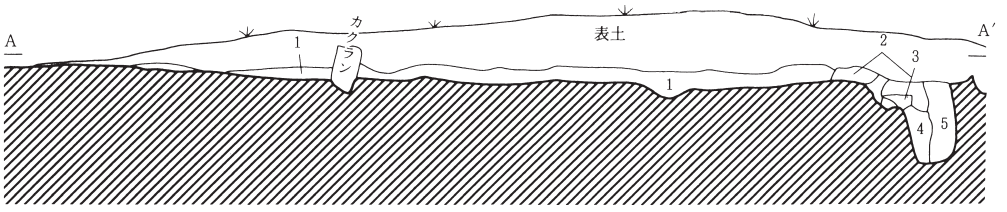
土坑・121土						
平面形	円形か	壁	緩やかに立ち上がる	底面	平坦	
規模	長軸	132cm	短軸	52cm	深さ	28cm
堆積土	15層に分層された。褐色土を主体とし、ローム粒子を混入する。 人為・自然堆積と思われる。					
出土遺物	なし					
小結	（調査区域外に続くため、正確な平面形は不明）					



第31号　竪穴部

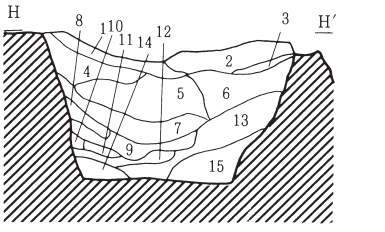
ピット	深さ(cm)
1	13
2	12
3	19
4	18
5	35
6	16
7	14
8	6
9	5
10	5
11	14
12	18
13	19

第Ⅴ－6－（2）－11図　第31号建物跡（1）



A－A′

第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、炭化物、焼土微量。
第２層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量、炭化物微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土Ｂ（φ15㎜）、ローム粒、炭化物粒微量。
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量、炭化物粒微量。
第５層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、LB（φ20～30㎜）７個。



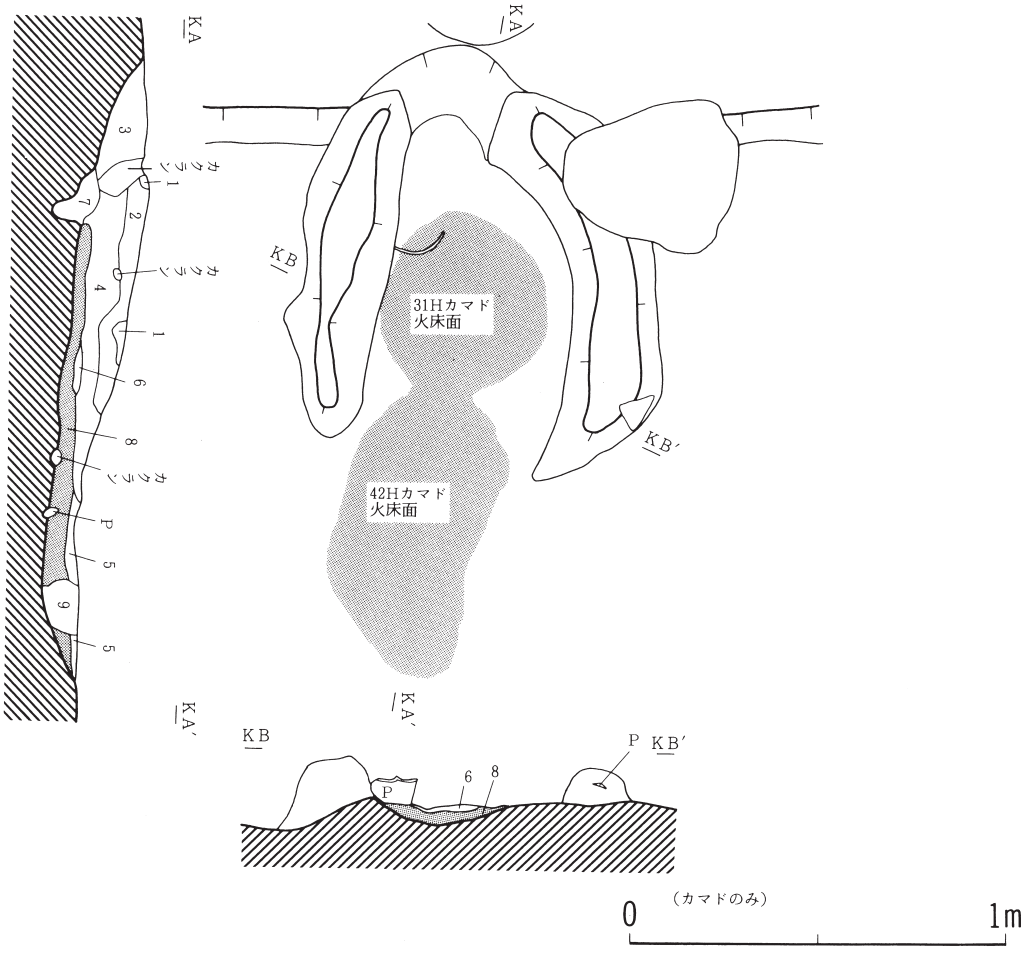
H－H′

第１層　黒褐色土　10YR2/3
第２層　暗褐色土　10YR3/3
第３層　黒褐色土　10YR2/2
第４層　暗褐色土　10YR3/4
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量。
第６層　褐色土　10YR4/4
第７層　暗褐色土　10YR3/4
第８層　褐色土　10YR4/4
第９層　暗褐色土　10YR3/4
第10層　黒褐色土　10YR2/3
第11層　暗褐色土　10YR3/4
第12層　暗褐色土　10YR3/3
第13層　褐色土　10YR4/6　ローム粒少量。
第14層　黄褐色土　10YR5/8　黒色土少量。
第15層　暗褐色土　10YR3/3

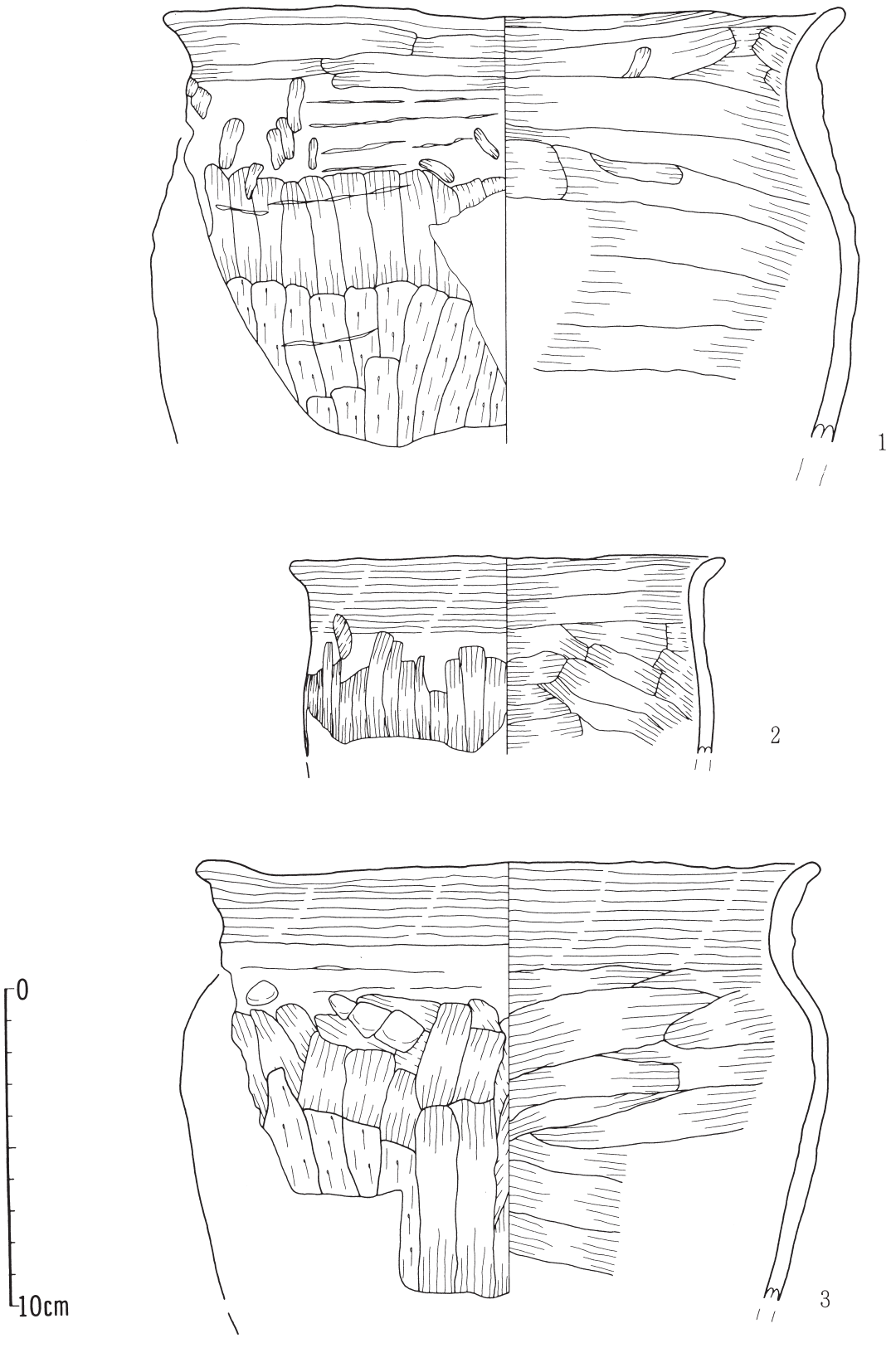
0　2m

竪穴部

第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土少量、ローム粒微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒多量、焼土Ｂ微量。
第３層　褐色土　10YR4/4　粘土Ｂ少量。
第４層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土粒多量、炭化粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒少量、炭化物微量。
第６層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土粒多量。
第７層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒中量。
第８層　明黄褐色土　5YR5/8　焼土層。
第９層　暗褐色土　10YR3/3　焼土多量、炭化粒微量。

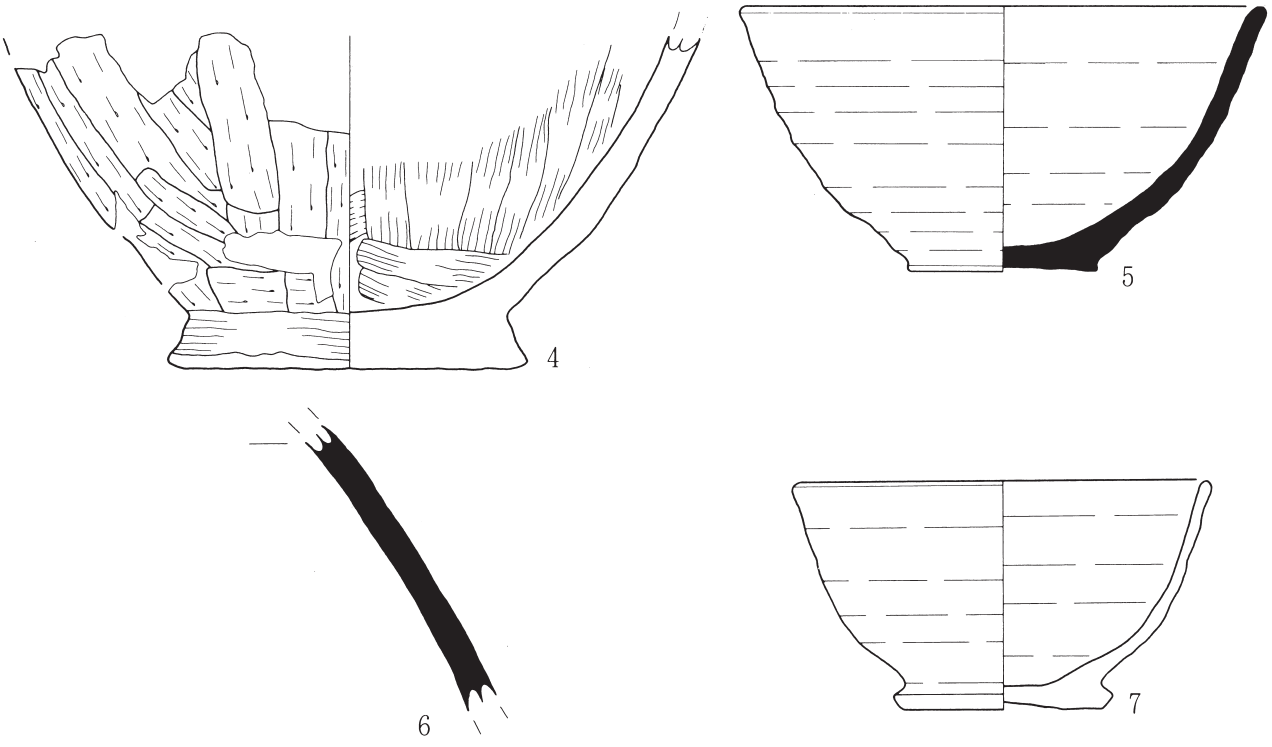


第Ⅴ－６－（２）－12図　第31号建物跡（２）

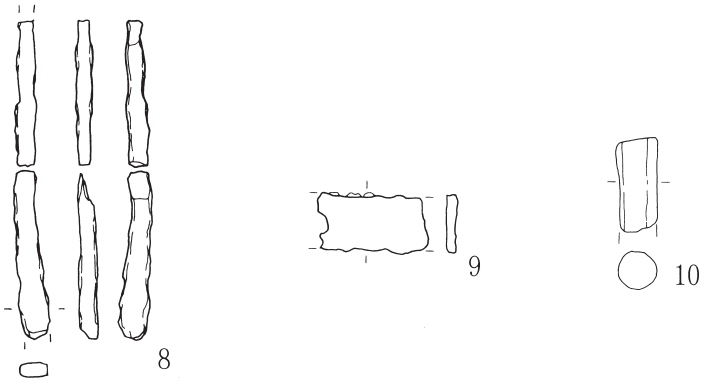


遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	フク土	(21.8)	(13.9)		ヨコナデ	ヘラナデ ヘラケズリ		ヘラナデ	ヘラナデ					
2	〃	〃	カマド底面、フク土	(14.0)	(6.2)		〃	ヘラナデ		ヨコナデ	〃					
3	〃	〃	フク土	(20.0)	13.6		〃	ヘラナデ ヘラケズリ		〃	〃					

第Ⅴ－６－（２）－13図　第31号建物跡出土遺物（1）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
4	土師器	甕	カマド フク土		(8.7)	(9.5)			ヘラケズリ			ヘラナデ	砂底		磨耗	
5	須恵器	坏	〃	14.0	7.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		胎土分析－3	
6	〃	大甕	フク土		(7.5)			平行叩き目			当て具痕（鳥足状）				胎土分析－23	
7	土師器	坏	162M フク土	(11.2)	6.0	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		器形に歪み	



遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.	
8	鉄製品	不明	31H SD163 溝跡 覆土	85.0	9.0	7.0	4.1	釘か紡錘車の撚棒か		△	23	K
9	〃	〃	〃	29.0	16.0	3.0	3.0	先端を穿孔した跡あり　留金具か		○	04	K
10	土製品	－	31H カマド（F-12） 覆土	(25.0)	11.0	10.0	2.2	棒状　手づくね	堅緻	－	13	K

0　10cm

第Ⅴ－6－（2）－14図　第31号建物跡出土遺物（2）

第33号建物跡観察一覧表

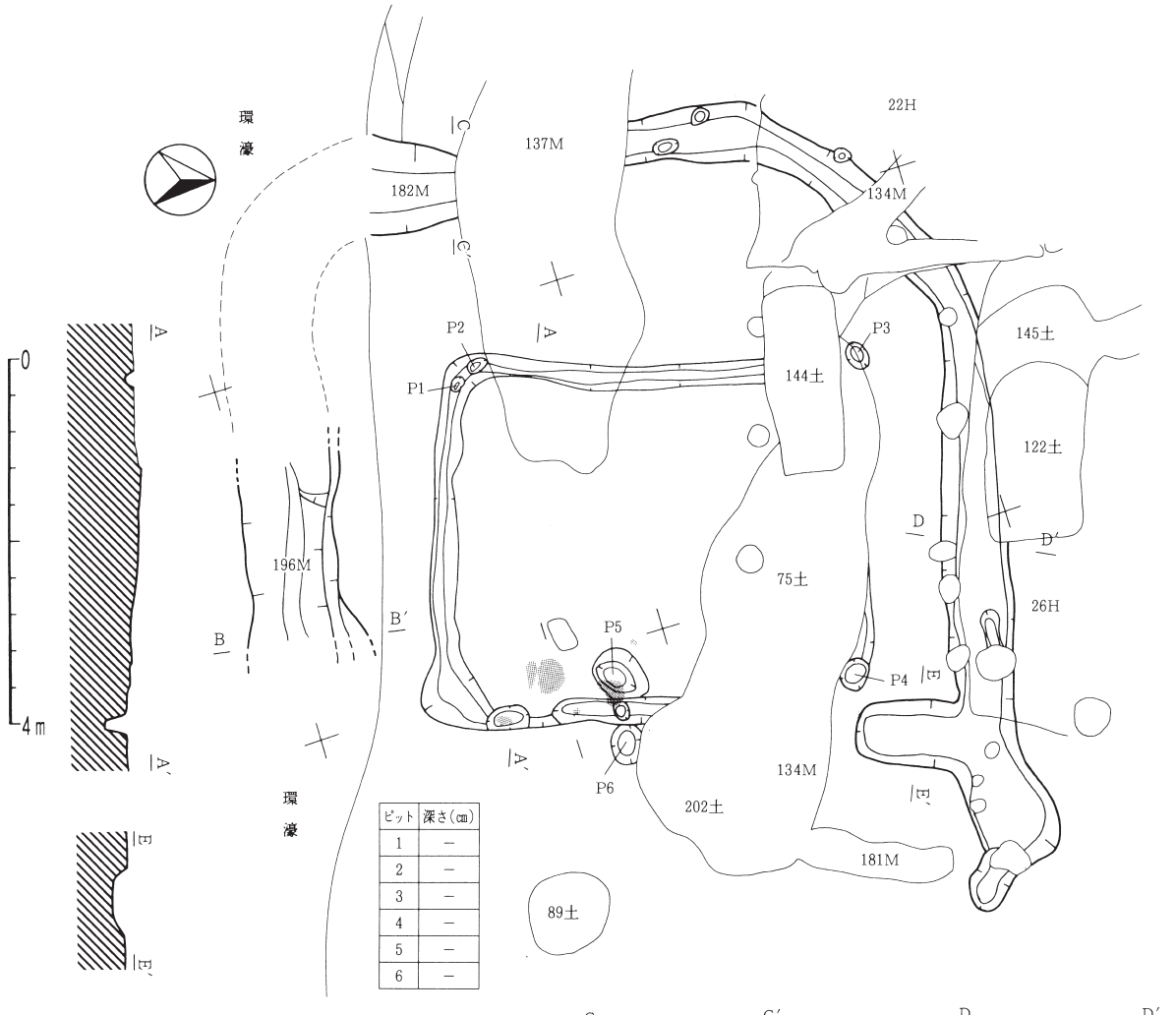
位　置	G－9.H－7～10.I－8～9	図版番号	第Ⅴ－6－(2)－15図	写真図版番号	22－6

重複関係	22H＞26H＞33H＞120M（環濠） 181M＞33H

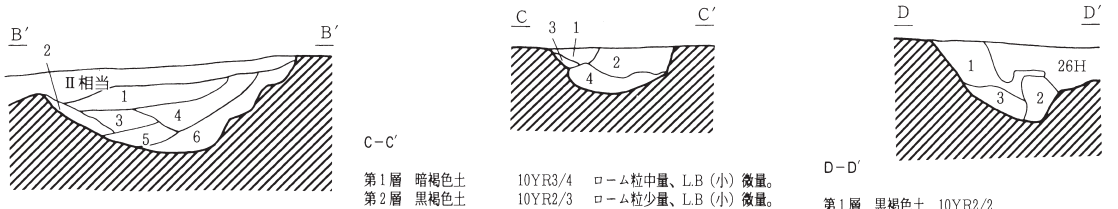
竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	4.80	4.40	4.00	3.50
		壁　高（cm）	―――	―――	―――	―――
		周溝幅（cm）	23	28	26	―――
		周溝深さ（cm）	24	12	25	―――
	平面形	長方形	床面積	約（14.4）m²	主軸方位	N－95°－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦
	周　壁	北側は不明。他は全て巡る。				
	ピット	6個検出された。 主柱穴は、不明である。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。	
		火床面のみ検出された。				
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より、人為堆積と思われる。				
	出土遺物	なし				
	附属施設	外周溝（182.196M）				
	備　考	南外周溝（196M）が、環濠（120M）堆積土中に一部検出された。				

外周溝・182M	規　模	長　さ	13.64m	上端幅	80cm	断面形	擂鉢形
		深　さ	26～42cm	下端幅	20～80cm	傾　斜	南→北・東→南
	堆積土	3～4層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結	東末端は分岐する。					

外周溝・196M	規　模	長　さ	1.96m	上端幅	102cm	断面形	擂鉢形
		深　さ	46cm	下端幅	8～24cm	傾　斜	西→東
	堆積土	6層に分層された。褐色土を主体とし、炭化物・ローム粒を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結	環濠に設定したセクションベルト上面に検出したものである。					



ピット	深さ(cm)
1	—
2	—
3	—
4	—
5	—
6	—



B−B′

第Ⅱ層相当　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量。ローム（φ1～5㎜）全体。
第1層　褐色土　10YR4/4　炭化物少量、ローム（φ1～10㎜）全体。
第2層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物少量。
第3層　にぶい黄橙色土　10YR6/4　ローム（φ1～10㎜）多量。炭化物少量。
第4層　褐色土　10YR4/6　炭化物少量。ローム（φ1～10㎜）多量。
第5層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量。ローム（φ1～3㎜）少量。
第6層　褐色土　10YR4/4　炭化物少量。

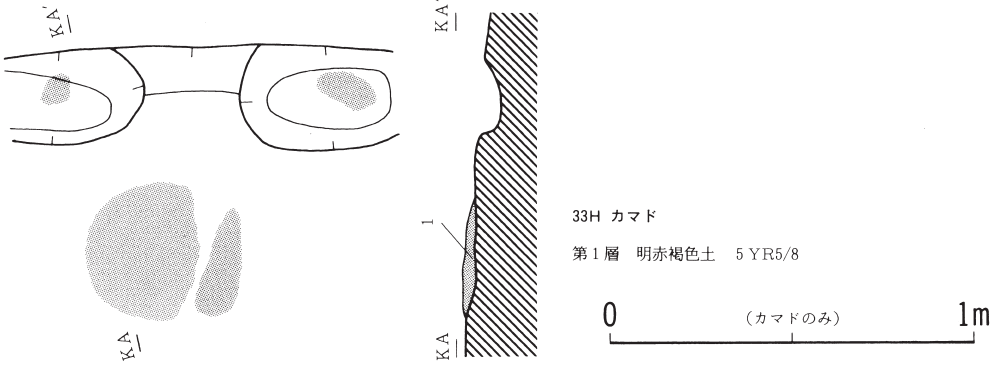
C−C′

第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、L.B（小）微量。
第2層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、L.B（小）微量。
第3層　褐色土　10YR4/4　L.B多量。
第4層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒中量、L.B微量。

D−D′

第1層　黒褐色土　10YR2/2
第2層　暗褐色土　10YR3/3
第3層　黒褐色土　10YR3/1　浅黄橙色土少量。

0　（B−B′、C−C′、D−D′のみ）　2m



33H カマド

第1層　明赤褐色土　5YR5/8

0　（カマドのみ）　1m

第Ⅴ−6−（2）−15図　第33号建物跡

第40号建物跡観察一覧表

位　置	F−12〜14.G−12〜15.H−12〜14	図版番号	第Ⅴ−6−(2)−16〜17図	写真図版番号	22−7、8

重複関係	169M＞40H＞162M・29H・147土・30H・114土・163M・127土・31(42)H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	(1.96)	――	――	――
		壁　高（cm）	――	――	――	――
		周溝幅（cm）	28	――	――	――
		周溝深さ（cm）	――	12	――	――
	平面形	長方形か	床面積	約（15.8）m²	主軸方位	N−130°−E
	壁	検出されなかった。			床	不明
	周　壁	東壁の一部のみ残存していた。				
	ピット	3個検出された。 主柱穴は不明。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。	
		31H外周溝（162M）の埋土上面に検出された。162Mの埋土の沈下に伴い、本カマドはやや歪んでいる。煙道部底面には底部を欠失した甕が1点出土した。				
	堆積土	不明				
	出土遺物	カマド−石製品・紡錘車の一部（？）、他1点：土製品1点				
	附属施設	掘立柱建物跡　1棟　　外周溝（129.166M） 土　坑（74,150土）				
	小　結	削平が著しい。				

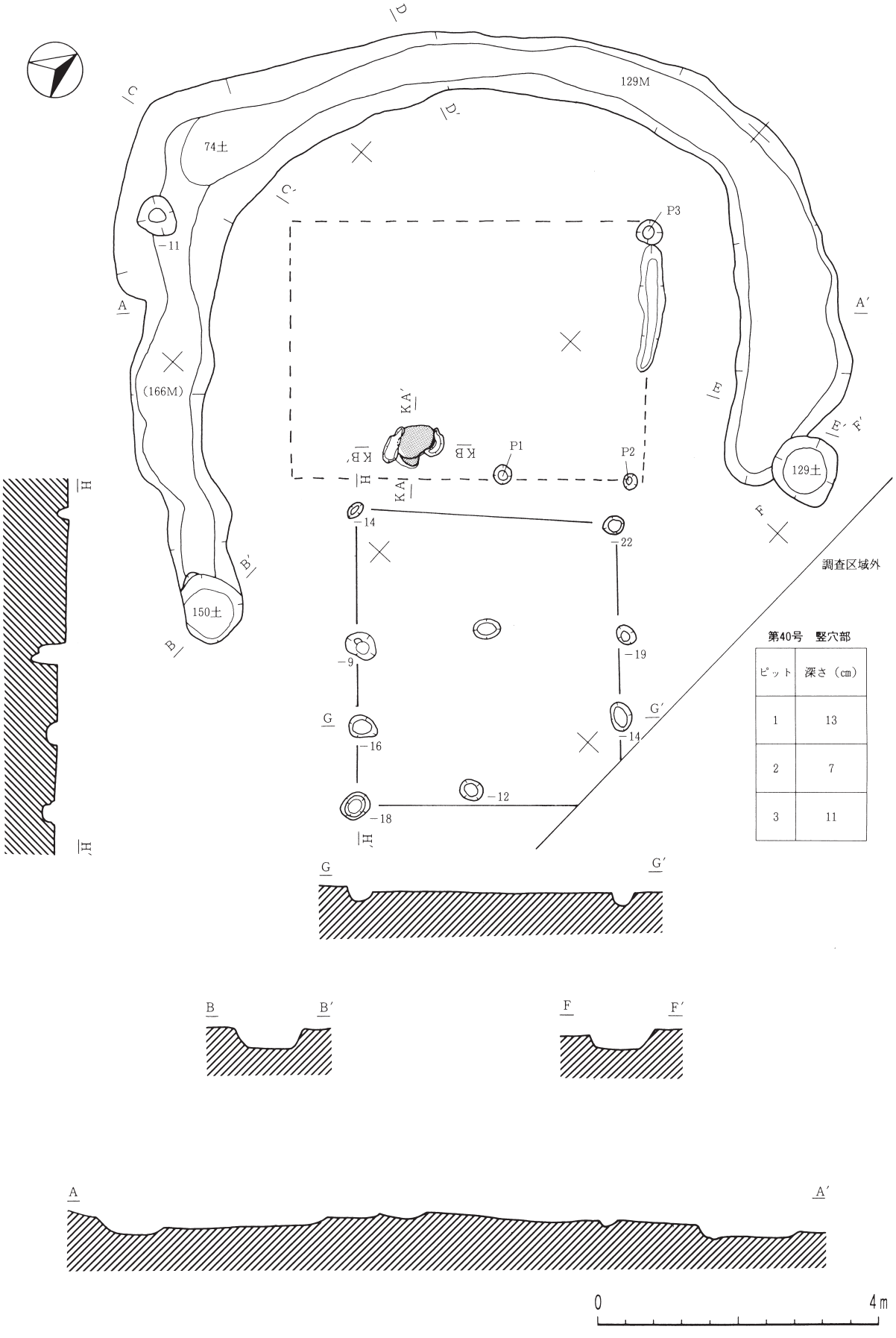
掘立柱部	規　模	桁行　3間（総長4.28m−南）×梁間　1間（総長3.72m−西）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	28cm〜48cmの円形・楕円形の掘り方である。
		深　さ	16cm〜48cmで、
	柱間寸法	桁行──4.28m（14尺1寸） 梁間──3.72m（12尺3寸）	
	出土遺物	なし	
	小　結	竪穴部の面積（（15.8）m²）＋掘立柱部の面積（15.5m²）＝約31.3m²	

外周溝・129・166M	規　模	長　さ	19.08m	上端幅	80cm	断面形	逆台形
		深　さ	32cm	下端幅	32〜128cm	傾　斜	西→東
	堆積土	5〜6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒・炭化物・焼土を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結	土坑状のくぼみ（74土）伴う。					

土坑・150土	平面形	円形	壁	緩やかに立ち上がる	底　面	平坦	
	規　模	長　軸	100cm	短　軸	80cm	深　さ	28cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。					
	出土遺物	なし					
	小　結	129Mの南東端に位置する。					

土坑・74土	平面形	溝状（溝の一部）	壁	緩やかに立ち上がる	底面	凹凸あり	
	規模	長軸	―	短軸	200cm	深さ	60cm
	堆積土	27層に分層された。黒褐色土を主体とし、火山灰・ローム粒・炭化粒を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器34、須恵器４、縄文土器18点					
	小結	129Mの一部					

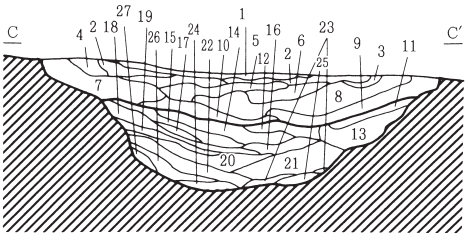
土坑・129土	平面形	円形	壁	緩やかに立ち上がる	底面	平坦	
	規模	長軸	92cm	短軸	92cm	深さ	28cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。					
	出土遺物	堆積土－土師器16、須恵器２点					
	小結	129Mの東端に付随する。					



第40号　竪穴部

ピット	深さ（cm）
1	13
2	7
3	11

第Ⅴ－６－（２）－16図　第40号建物跡（1）

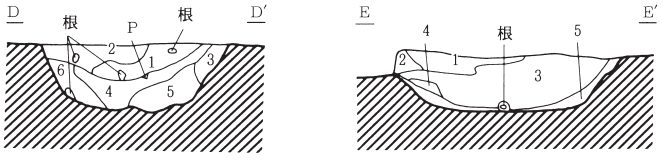


C－C′

第１層	黒褐色土	10YR2/3	火山灰、炭化物、ローム粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	火山灰中量、炭化粒、ローム粒微量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	火山灰微量、ローム粒少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(大)ローム粒少量、炭化粒微量。
第６層	暗褐色土	10YR3/4	L.B(大)ローム粒少量、炭化粒微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第８層	にぶい黄褐色	10YR4/3	L.B(大)、ローム粒多量、炭化物(大)微量。
第９層	暗褐色土	10YR3/3	L.B(大)、ローム粒中多量、炭化物微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第11層	暗褐色土	10YR3/3	L.B、ローム粒多量、炭化粒微量。
第12層	黒褐色土	10YR2/3	L.B（小）、ローム粒少量。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	L.B(大)、ローム粒中量、炭化粒微量。
第14層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(大)、ローム粒中量、炭化粒微量。
第15層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B多量。
第16層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(大)、ローム粒中量、炭化粒微量。
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量。
第18層	暗褐色土	10YR3/4	L.B多量。
第19層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量。
第20層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量。
第21層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(小)、ローム粒中量、炭化物微量。
第22層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	L.B多量。
第23層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒少量。
第24層	褐色土	10YR4/6	L.B多量。
第25層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(大)、ローム粒多量、炭化物微量。
第26層	褐色土	10YR4/4	L.B多量。
第27層	黄褐色土	10YR5/6	L.B多量。

SF05 40Hカマド

第１層	暗褐色土	5YR3/4	炭化物微量。
第２層	黄褐色土	10YR5/8	崩落土。
第３層	暗褐色土	10YR3/4	焼土少量、炭化粒微量。
第４層	明褐色土	7.5YR5/8	ローム粒中量、炭化粒微量。
第５層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化粒微量。
第６層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土Ｂ（小)微量、炭化粒微量。
第７層	褐色土	7.5YR4/6	焼土粒、炭化粒微量。
第８層	明褐色土	7.5YR5/8	炭化粒微量。
第９層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化粒微量。
第10層	明赤褐色土	5YR5/8	炭化粒微量。
第11層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒、炭化粒微量。



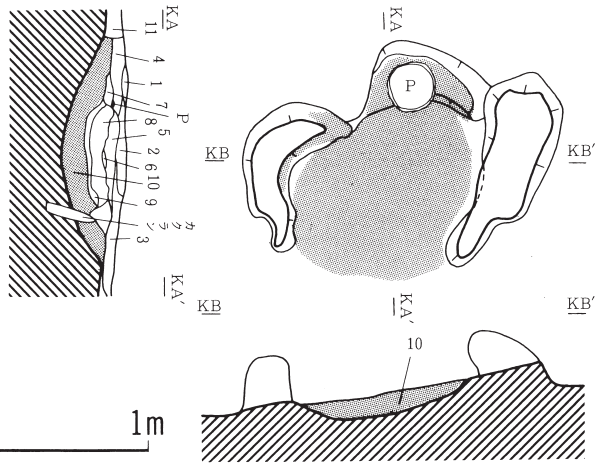
D－D′

第１層	褐色土	10YR4/4	ローム粒多量、L.B(大)少量、焼土、炭化物、炭化粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、L.B(大)、炭化物少量、粘土微量。
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、焼土粒、炭化粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物、ローム粒少量、焼土粒微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、炭化物少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、炭化物微量。

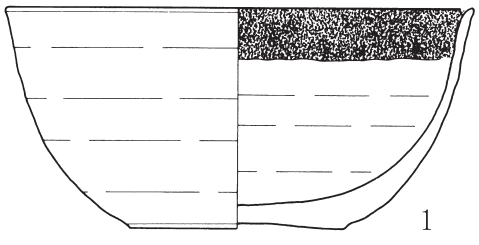
E－E′

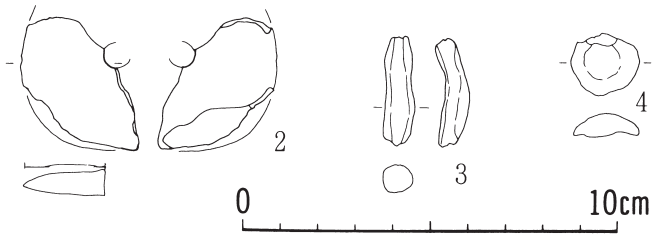
第１層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物、ローム粒少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物、L.B(小)少量、焼土Ｂ微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、焼土Ｂ、炭化物、L.B(小)少量。
第４層	褐色土	10YR4/4	ローム粒中量、焼土Ｂ微量。
第５層	黄褐色土	10YR5/6	L.B多量、暗褐色土少量。

0 （C－C′、D－D′、E－E′のみ） 2m



0 （カマドのみ） 1m





遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	129土フク土	(12.4)	5.8	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		ハクリ	

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	焼成	整理No.
2	石製品	紡錘車の一部か	40Hカマド 覆土	35.0	31.0	7.0	5.2	粘土製 約半分損失 軟質の素材 4と同一母岩か			01
3	土製品	－	40Hカマド ソデ粘土中	29.0	8.0	7.2	1.3	棒状 手づくね		良好	14
4	石製品	－	40Hカマド 覆土	(17.0)	19.0	6.0	1.0	粘土製 歪んだ半球状 一部欠損 2と同一母岩か			15

第Ⅴ－６－（２）－17図　第40号建物跡出土遺物（２）

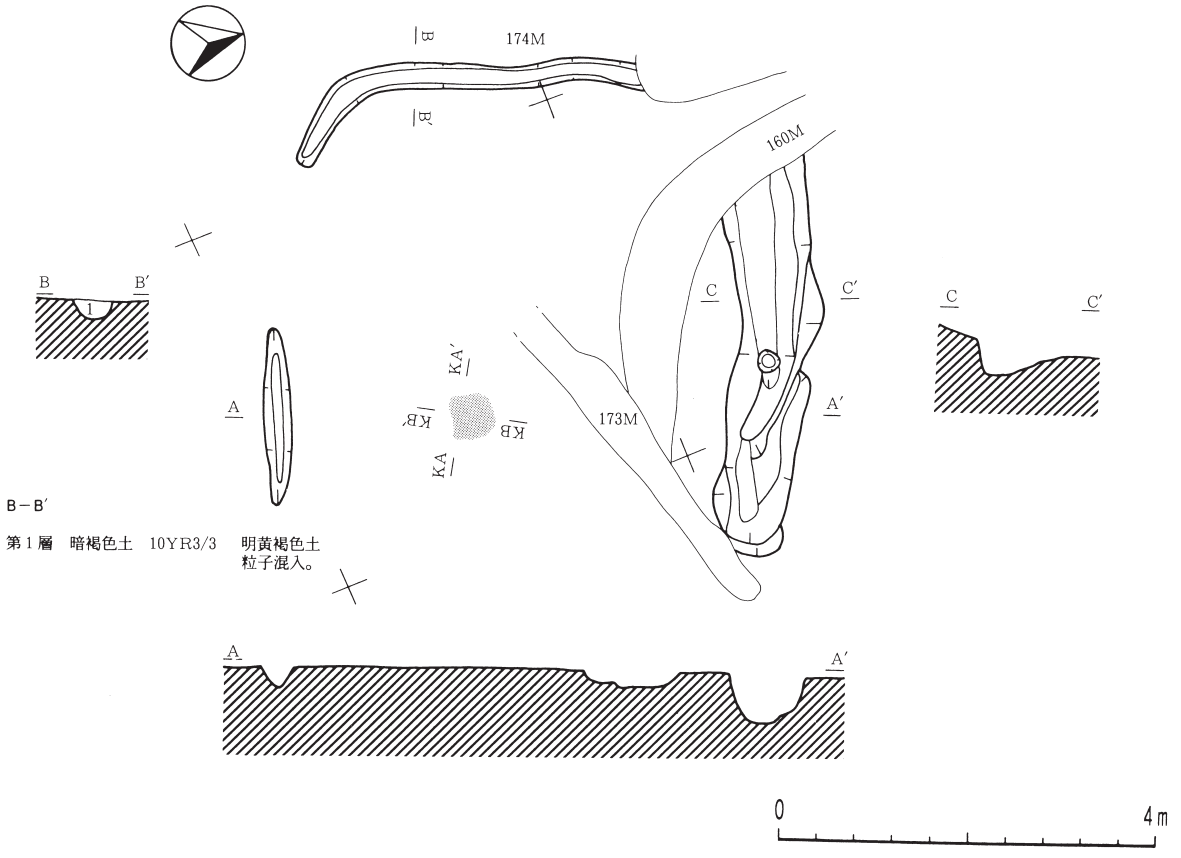
第41号建物跡観察一覧表

位　置	F−11.G−10〜11.H−10〜11	図版番号	第Ⅴ−6−(2)−18図	写真図版番号	

重複関係	41H＞26H

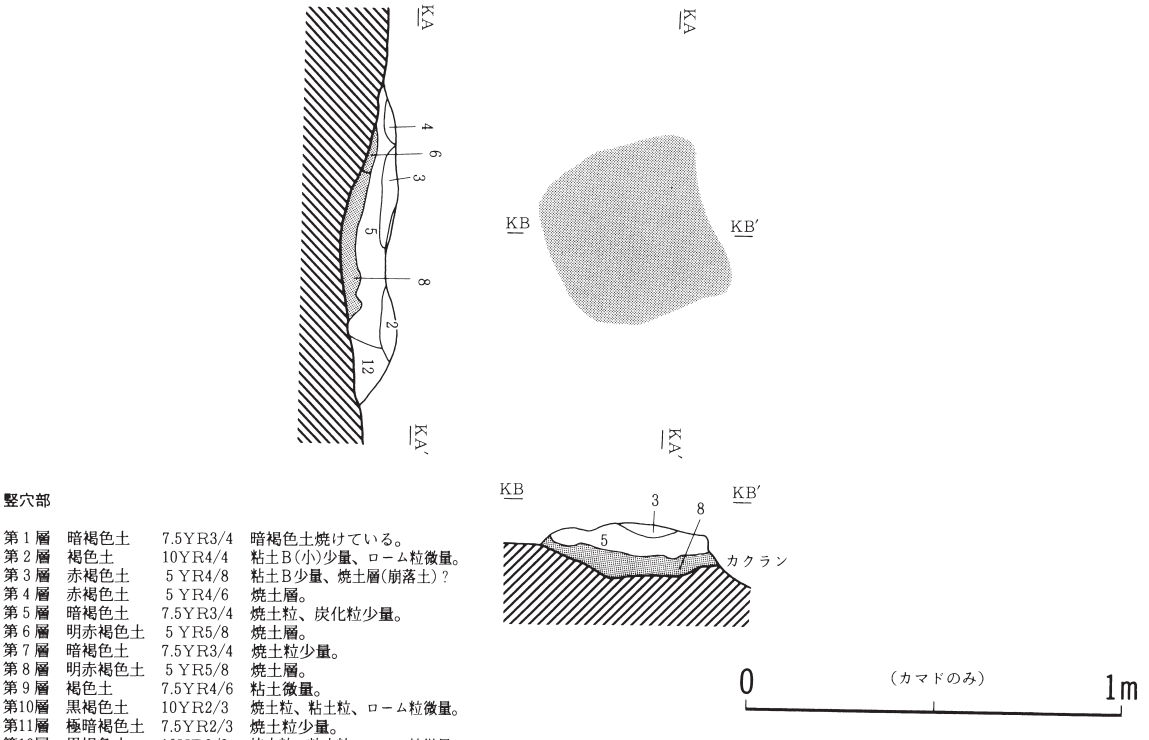
竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁	
		壁　長（m）	――	――	――	――	
		壁　高（cm）	――	――	――	――	
		周溝幅（cm）	――	――	――	――	
		周溝深さ（cm）	――	――	――	――	
	平面形	不明	床面積	不明	主軸方位	N−（108°）−E	
	壁	−			床	26Hの床を再利用している。	
	周　壁	−					
	ピット	−					
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。		
		火床面のみ検出された。26Hの貼床をやや掘り下げて構築される。					
	堆積土	−					
	出土遺物	−					
	附属施設	外周溝（174M）					
	小　結	26H内の焼土、炭化材等を除去し、26Hの床を再利用してつくられている。					

外周溝・174M	規　模	長　さ	9.84m	上端幅	24〜88cm	断面形	U字形
		深　さ	20〜52cm	下端幅	8〜24cm	傾　斜	西→東
	堆積土	1層に分層された。褐色土を主体とし、炭化粒を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結	26Hの竪穴部、外周溝のプランと平行させている。					



B－B′

第１層　暗褐色土　10YR3/3　明黄褐色土粒子混入。



竪穴部

第１層	暗褐色土	7.5YR3/4	暗褐色土焼けている。
第２層	褐色土	10YR4/4	粘土Ｂ(小)少量、ローム粒微量。
第３層	赤褐色土	5YR4/8	粘土Ｂ少量、焼土層(崩落土)？
第４層	赤褐色土	5YR4/6	焼土層。
第５層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒、炭化粒少量。
第６層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土層。
第７層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒少量。
第８層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土層。
第９層	褐色土	7.5YR4/6	粘土微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、粘土粒、ローム粒微量。
第11層	極暗褐色土	7.5YR2/3	焼土粒少量。
第12層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、粘土粒、ローム粒微量。

第Ⅴ－６－（２）－18図　第41号建物跡

第42号建物跡観察一覧表

位　置	F－12～13.G－10～13	図版番号	第Ⅴ－6－(2)－19図	写真図版番号	

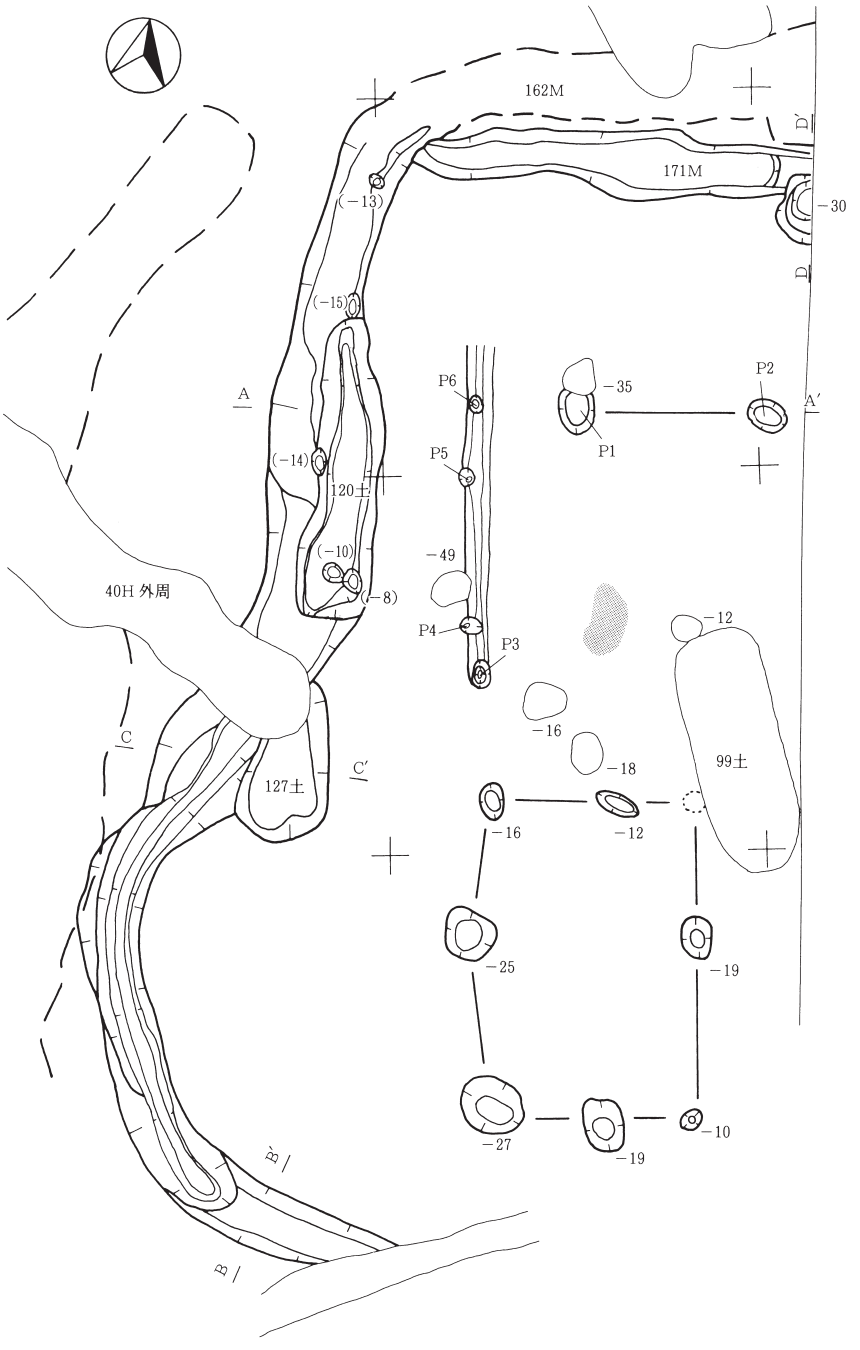
重複関係	31H＞42H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	――	(3.44)	――	――
		壁　高（cm）	――	――	――	――
		周溝幅（cm）	――	26	――	――
		周溝深さ（cm）	――	28	――	――
	平面形	不明	床面積	約（10.9）m²	主軸方位	N－173°－E
	壁	検出されなかった。			床	31Mと同一と思われる。
	周　壁	西側の一部が検出された。				
	ピット	6個検出された。 主柱穴は、P_1～P_2と思われる。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	南壁の西寄りと思われる。	
		火床面のみ検出された。31Hの構築時に破壊されたものと思われる。 火床面は31Hカマドの火床面と隣り合う第Ⅴ－6－(2)－1図参照。				
	堆積土	なし				
	出土遺物	なし				
	附属施設	掘立柱建物跡　1棟 (31Hに記述)		外周溝（171M） 土　坑（127土）		
	小　結	31Hは本建物を拡張したものである。 図示した掘立柱建物跡は、31Hの図に示したものと同一である。 31H、42Hのどちらに伴うものか不明。掘立部の拡張は認められない。				

外周溝・171M	規　模	長　さ	18.32m	上端幅	12cm	断面形	逆台形
		深　さ	3.6cm	下端幅	24～64cm	傾　斜	西→東
	堆積土	2層に分層された。褐色土を主体とする。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－鉄滓　1点					
	小　結						

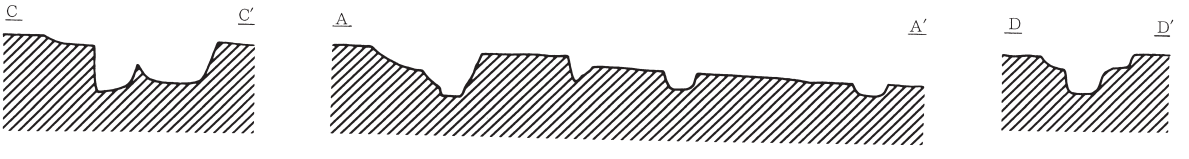
土坑・120土	平面形	不整二等辺三角形状	壁	直線的に立ち上がる	底　面	平坦	
	規　模	長　軸	316cm	短　軸	72cm	深　さ	48cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より、人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器38、須恵器1					
	小　結	171Mの一部					

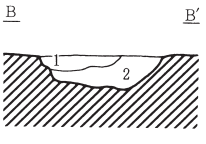
土坑・127土	平面形	不整楕円形	壁	直線的に立ち上がる	底　面	平坦	
	規　模	長　軸	168cm	短　軸	96cm	深　さ	40cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。 土層観察より、人為堆積と思われる。					
	出土遺物	なし					
	小　結	127土の箇所から追築したものと思われる。					



第42号　竪穴部

ピット	深さ(cm)
1	19
2	14
3	14
4	3
5	4
6	5





B−B′

第1層　暗褐色土　10YR3/3
第2層　褐色土　10YR4/4

0　(B−B′ のみ)　2m　　0　4m

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	整理No.
	鉄	鉄滓	42H SD171 溝跡覆土	−	−	−	31.1		図示なし	05

第Ⅴ−6−(2)−19図　第42号建物跡

(3)　土　坑

環濠内地区からは12基の土坑が検出された。

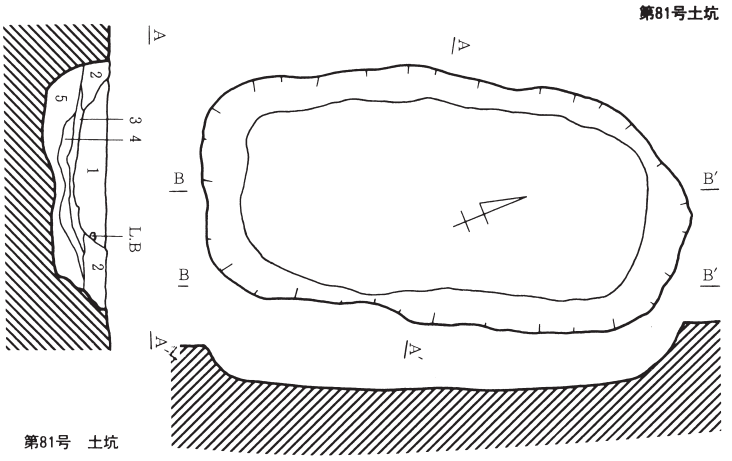
長方形を呈する土坑は比較的他の遺構よりも新しい傾向が伺える。

31Hの竪穴部の北西コーナーに検出された方形の土坑は、31Hの貼床下に検出されたものであるが、竪穴部のコーナーを意識しているかのような位置に検出されたため、一時的に31Hと共存したものである可能性がある。

紙数の都合上、記載は観察表にまとめた。

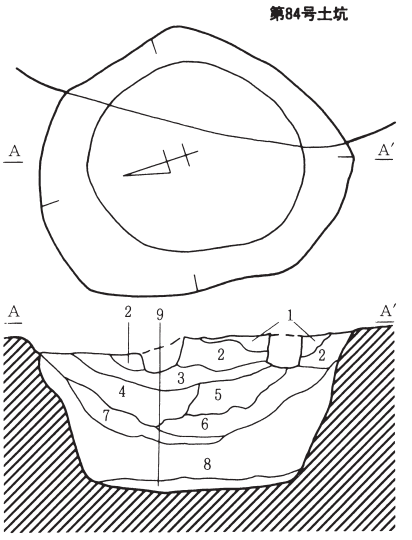
土　坑　観　察　表

図版	土坑番号	位置	重複関係		規模			出土遺物			特記事項
			本土坑より新	本土坑より古	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	土師器	須恵器	その他	
1	第081号土坑	H－12		SD163.SD164.SK84	325	155	40	9	1		
1	第084号土坑	H－12	SK081		166	136	80	8	－		
1	第089号土坑	G－8	なし		110	95	55	－	－	鉄滓1	
1	第099号土坑	H.F－12.13			325	125	85	25	－		
1	第112号土坑	H.F－12.13	31H		210	195	85	20	3		31H貼床下
1	第114号土坑	H－13	SD129＋SK74		208	138	38	－	－		
3	第117号土坑	F.G－12			185	93	49	10	－		溝と一体
2	第122号土坑	G.H－9.10		26H.SK145	260	135	95	12	1		
2	第123号土坑	F－8.9			375	130	65	14	2		
2	第124号土坑	F－10			130	113	18	1	1		
2	第125号土坑	F－15	SD169		135	110	53	27	－		
2	第132号土坑	F－12	31H	SK134	205	160	100	78	4		
2	第136号土坑	E－13			140	100	55	－	－		
2	第144号土坑	H－9		26H外周溝、33H	260	110	55	－	－		旧181溝跡
2	第146号土坑	H－11	134M（26H外周溝）		115	80	30	－	－		
3	第147号土坑	H－14.G－14.15	129M		200	175	70	－	－		旧168溝跡と一体



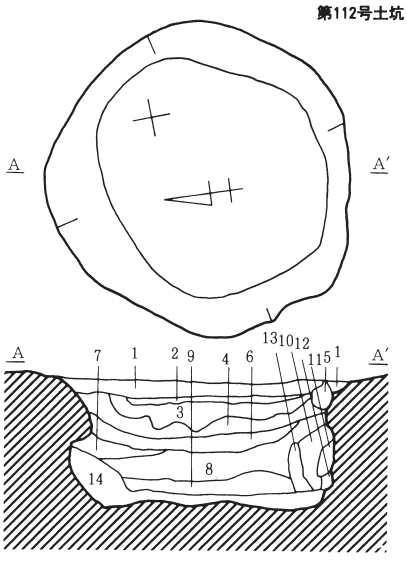
第81号　土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　炭化粒、ローム粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒中量、炭化物微量。



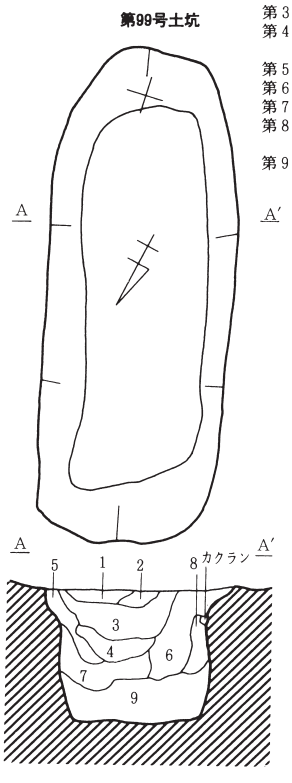
第84号　土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化粒微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　L.B(大)、ローム粒中量、炭化粒少量、焼土微量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒(大)多量、炭化粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）、ローム粒多量、黒色土少量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　L.B、ローム粒中量、炭化粒微量。
第７層　暗褐色土　10YR3/4　L.B、ローム粒多量。
第８層　暗褐色土　10YR3/4　L.B（大）、ローム粒多量、炭化粒微量。
第９層　褐色土　11YR4/6　褐色土多量。



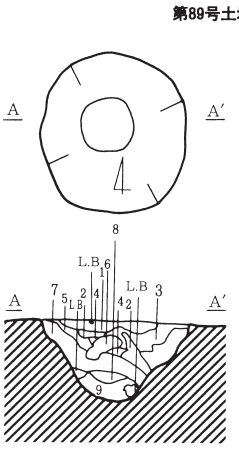
第112号　土坑

第１層　褐色土　10YR4/3　31H 貼床土。
第２層　暗褐色土　10YR3/4
第３層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物。
第４層　黒褐色土　10YR2/2
第５層　黒褐色土　10YR3/2　粘土少量。
第６層　暗褐色土　10YR3/3
第７層　黒褐色土　10YR3/1
第８層　黒褐色土　10YR2/2
第９層　黒色土　10YR2/1
第10層　黒褐色土　10YR2/3
第11層　黒褐色土　10YR3/2
第12層　黒褐色土　10YR2/2
第13層　暗褐色土　10YR3/3
第14層　黄褐色土



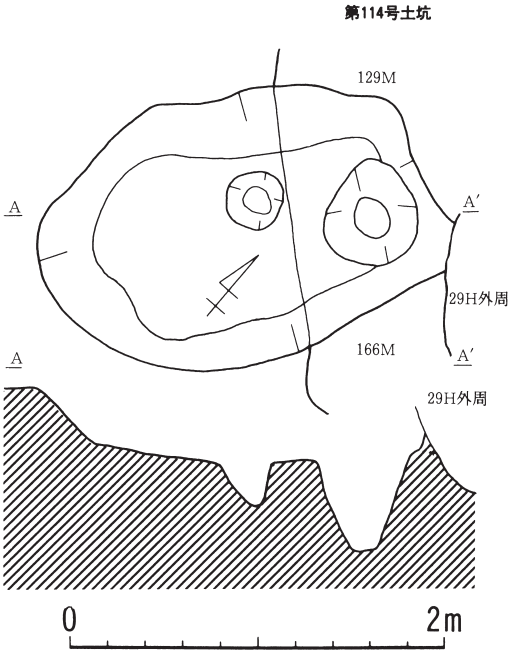
第99号　土坑

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒(小)少量、焼土、炭化物微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物、ローム粒微量。
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒(小)少量、焼土、炭化物微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第５層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物、ローム粒微量。
第６層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒、炭化物、L.B(小)、ローム粒微量。
第７層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、焼土、炭化物微量。
第８層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量。
第９層　褐色土　10YR4/4　L.B(大)、ローム粒多量、炭化物、炭化粒少量、焼土微量。



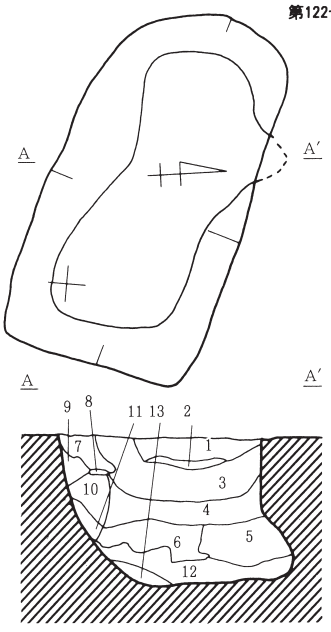
第89号　土坑

第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒少量、焼土B、炭化粒、ローム粒微量。
第２層　褐色土　10YR4/6　ローム粒多量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒、ローム粒微量。
第６層　褐色土　10YR4/6　ローム粒中量、焼土粒微量。
第７層　暗褐色土　10YR3/4　L.B、ローム粒少量、焼土粒微量。
第８層　暗褐色土　10YR3/3　L.B、ローム粒多量。
第９層　褐色土　10YR4/6　L.B、ローム粒多量。



第Ⅴ－６－（３）－１図　土坑１

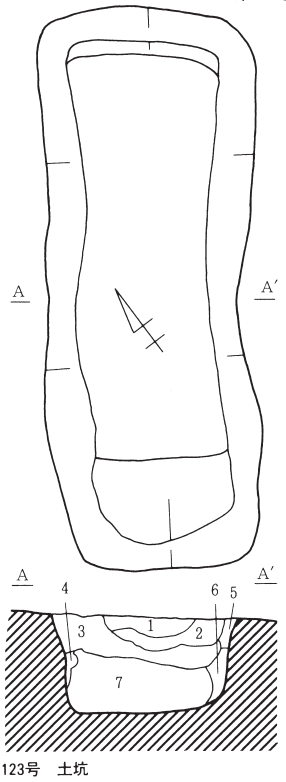
第122号土坑



第122号　土坑

第１層	黒褐色土	10YR3/1	
第２層	黒色土	10YR2/1	
第３層	黒褐色土	10YR2/2	
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第５層	明黄褐色土	10YR7/6	黒色土少量。
第６層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	粘土、ローム粒多量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第８層	黒色土	10YR1.7/1	
第９層	黒色土	10YR2/1	
第10層	黒色土	10YR1.7/1	
第11層	黒色土	10YR1.7/1	
第12層	明黄褐色土	10YR7/6	

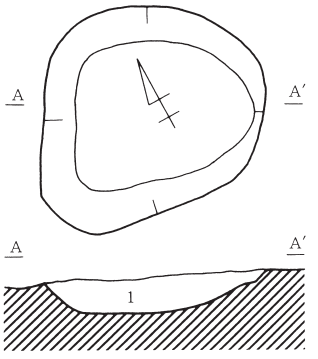
第123号土坑



第123号　土坑

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化物、ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（大）、ローム粒中量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	L.B（小）、ローム粒小量。
第７層	暗褐色土	10YR3/3	L.B（小）、ローム粒多量、焼土、炭化物、炭化粒微量。

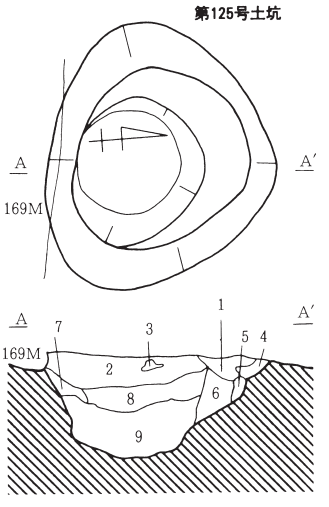
第124号土坑



第124号　土坑

第１層　黒色土　10YR2/1

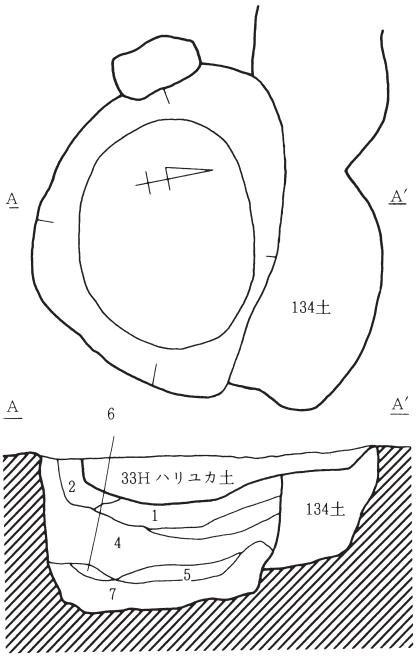
第125号土坑



第125号　土坑

第１層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒少量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、炭化物、L.B(小)、ローム粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（小）、ローム粒中量。
第５層	褐色土	10YR4/6	L.B多量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	L.B（小）、ローム粒微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、焼土B、炭化物、砂、L.B(小)、ローム粒微量。
第９層	黒褐色土	10YR2/3	L.B（大）、ローム粒中量。

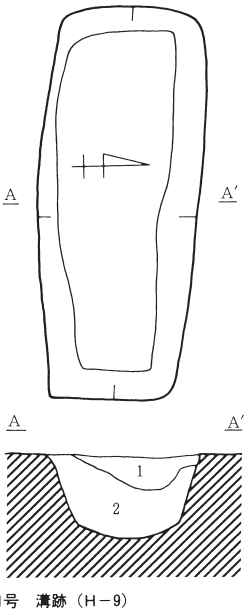
第132号土坑



第132号　土坑

第１層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物中量、ローム粒中量、L.B少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物少量、ローム粒少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	L.B(大)少量、ローム粒少量。
第４層	暗褐色土	10YR3/3	L.B(大)少量、ローム粒少量、焼土微量。
第５層	暗褐色土	10YR3/4	L.B中量、ローム粒少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第７層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、L.B少量。

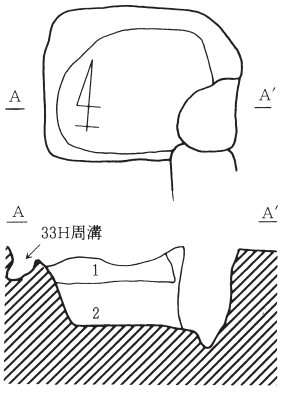
第144号土坑



第181号　溝跡（H－9）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、L.B(小)微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒、炭化物少量、焼土B微量。

第136号土坑

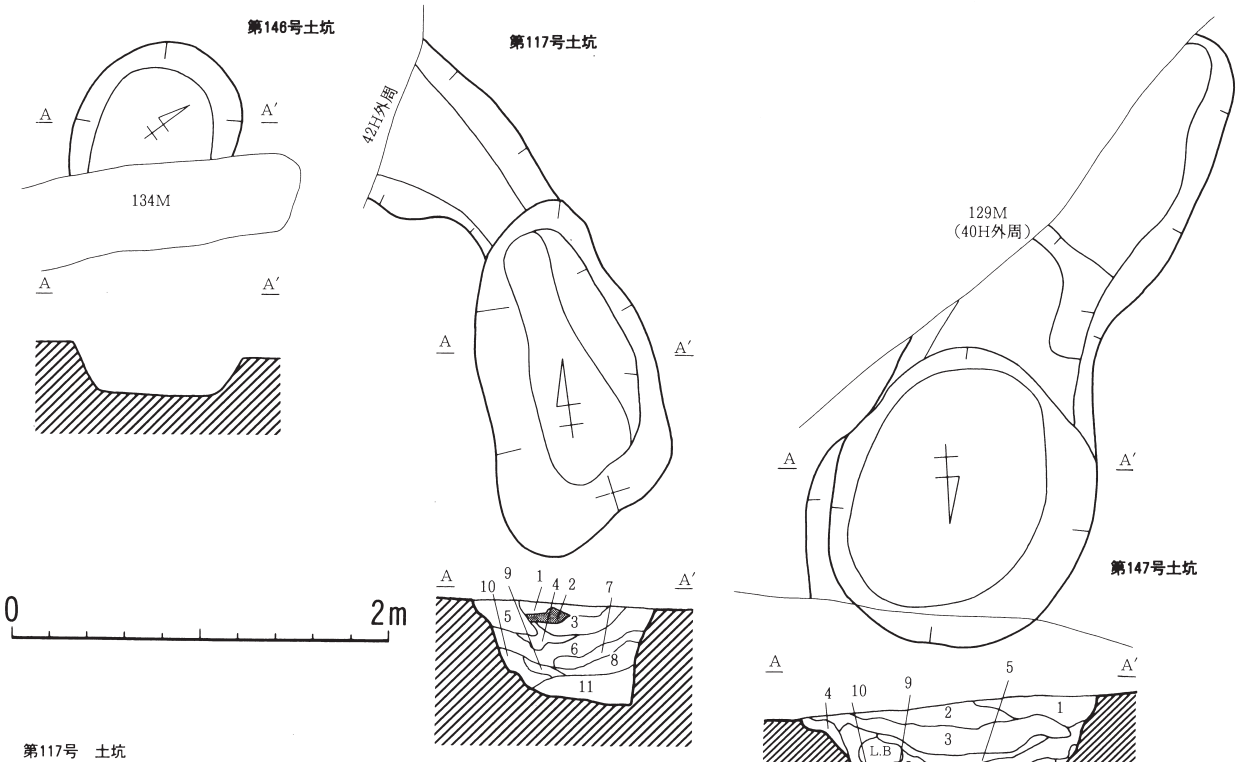


第136号　土坑（東西セクション）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、L.B少量。炭微量。(33建物跡貼床)
第２層	黄褐色土	10YR5/6	L.B、ローム粒多量、黒褐色土、炭化物微量。

0　2m

第Ⅴ－６－（３）－２図　土坑２

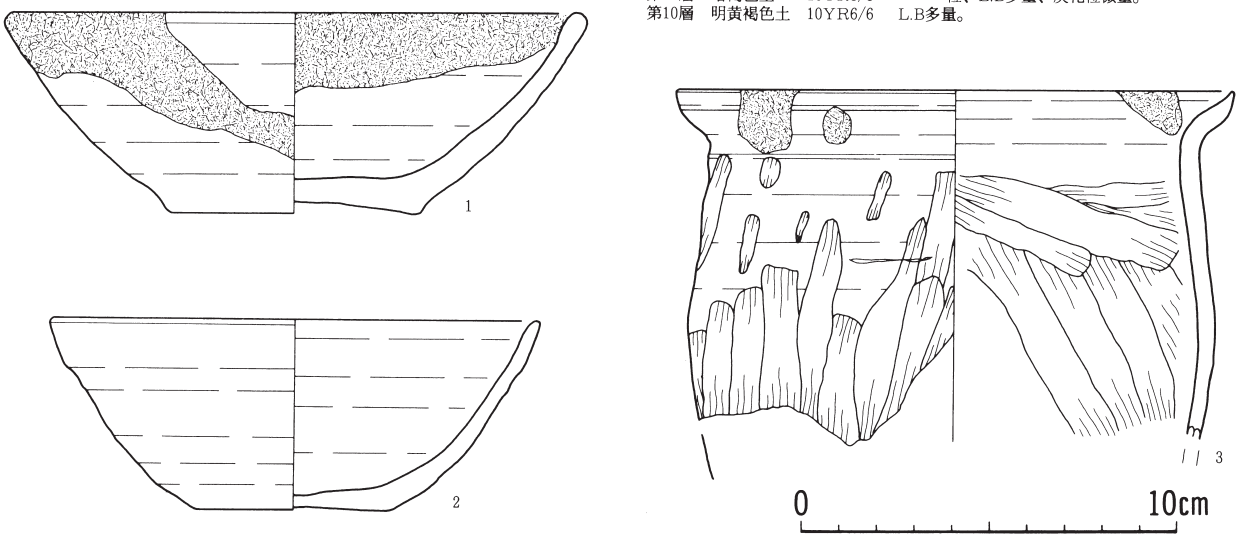


第117号　土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化物少量、ローム粒微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	火山灰、ローム粒中量、焼土微量。
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	焼土少量、ローム粒微量。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、ローム粒小量。
第6層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒、ローム粒中量、焼土、炭化粒少量。
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、L.B微量。
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、粘土少量。
第9層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物、ローム粒少量、L.B（大）微量。
第11層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量、L.B少量。

第168号　溝跡

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化粒微量。
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量、炭化粒、焼土微量。
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒、L.B(小)、L.B(大)中量、炭化物微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒、L.B（大）多量、炭化粒微量。
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒、L.B（大）少量、炭化粒微量。
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒（大）、L.B（大）多量、炭化物、焼土微量。
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒、L.B（小）少量、炭化物微量。
第8層	褐色土	10YR4/6	ローム粒多量。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒、L.B多量、炭化粒微量。
第10層	明黄褐色土	10YR6/6	L.B多量。



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	125土フク土	(15.6)	5.7	6.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成、油跡	
2	土師器	坏	132土フク土	(13.0)	5.0	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		あわい橙色	
3	土師器	甕	132土フク土	(14.8)	(9.2)		ロクロ	ロクロ ヘラナデ		ロクロ	ヘラナデ				二次加熱、黒色	

第Ⅴ－6－（3）－3図　土坑3

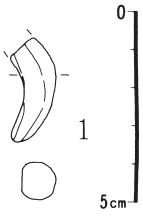
（4）溝　跡

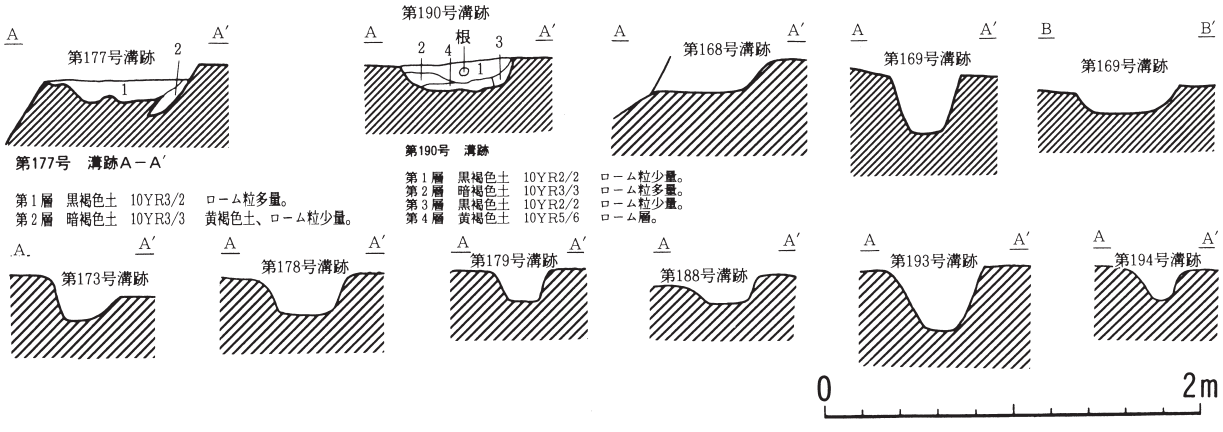
10条の溝跡が検出された。第178号溝跡からは、近世磁器が出土しているため、環濠が構築された時期とは大きく隔たるものである。

紙数の都合上、記載は観察表にまとめた。

溝　跡　観　察　表

溝跡番号	位　置	重複関係		規模			断面形	傾斜	出土遺物			特記事項
		本溝跡より新	本溝跡より古	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）			土師器	須恵器	その他	
第168号溝跡	G－14～G－15	169M		(3.5)	156	58	(U字形)		57	2		
第169号溝跡	F－14～H－16		129、168M、125土	(13.8)	75	29	U字形	北西→南東	13	1		121Mと接続か
第173号溝跡	F－10～G－11		26H、167M	(2.8)	45	23	U字形	西→東	22	－	土製品 1	
第177号溝跡	G－12	167M		(4.2)	70	11	不整形	北→南	6	－		
第178号溝跡	F－9 ～G－10		26H堀立	5.2	45	21	逆台形	西→東	9		磁器	近世
第179号溝跡	F－10			1.2	25	15	逆台形	西→東				
第188号溝跡	G－10			0.8	35	17	U字形	西→東				
第190号溝跡	I－9～J－9	22H		(2.2)	60	16	箱　形	西→東				
第193号溝跡	G－12～G－13	167M		(3.1)	55	33	逆台形	西→東				
第194号溝跡	F－10	124土		(1.7)	20	17	U字形	西→東				





第177号　溝跡A－A′

第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量。
第2層　暗褐色土　10YR3/3　黄褐色土、ローム粒少量。

第190号　溝跡

第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量。
第3層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第4層　黄褐色土　10YR5/6　ローム層。

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特　徴	備　考	焼成	整理No.
1	土製品	玉(勾玉)	SD173 溝跡　覆土	(28.0)	12.0	9.0	2.4	黒色の焼成　頭部欠損　ミガキ		堅緻	11

第Ⅴ－6－（4）－1図　環濠内地区検出溝跡・出土遺物

第７節　遺構外の出土遺物

（１）土師器（第Ⅴ－７－（１）－１～５図）

多数の破片資料のうち、復元し、図示しえたのは28点のみである。

1　杯（１～５）

すべてロクロ使用で、再調整はしていない。器形は、底辺部にややくびれを有し、やや内湾気味に立ち上がり、口縁部にもくびれを有し、内湾気味に立ち上がるものと直線的に立ち上がるものがある。１は、口径15.0㎝、器高6.9㎝、底径6.6㎝で、他と比べて大振りである。１、３は、二次焼成を受け、外面にスス（油跡）が付着している。また、１は底辺部に「大」の字に似たヘラ書記号を、５は底部にヘラ書記号を有する。

2　皿（６）

ロクロ使用で、再調整はしていない。口径14.1㎝、器高3.0㎝、底径5.2㎝を測り、器高に対して口径がかなり大きい。底部は1.6㎝ほどの厚さがあり、内外面にススが付着している。

3　皿〔かわらけ〕

①ロクロ使用のもの。

Ａ：小型のもの（７・８・12）

口径は９㎝、高さは２㎝ほどである。器形は、底辺部にほんの少しくびれを有し、ほぼ直線的に立ち上がる。いずれもススが付着している。

Ｂ：大型のもの（９・11）

口径は14㎝、高さは4㎝ほどである。器形は底辺部にくびれを有し、内湾気味に立ち上がる。11の内面には炭化物（油跡と思われる）がこびりついている。

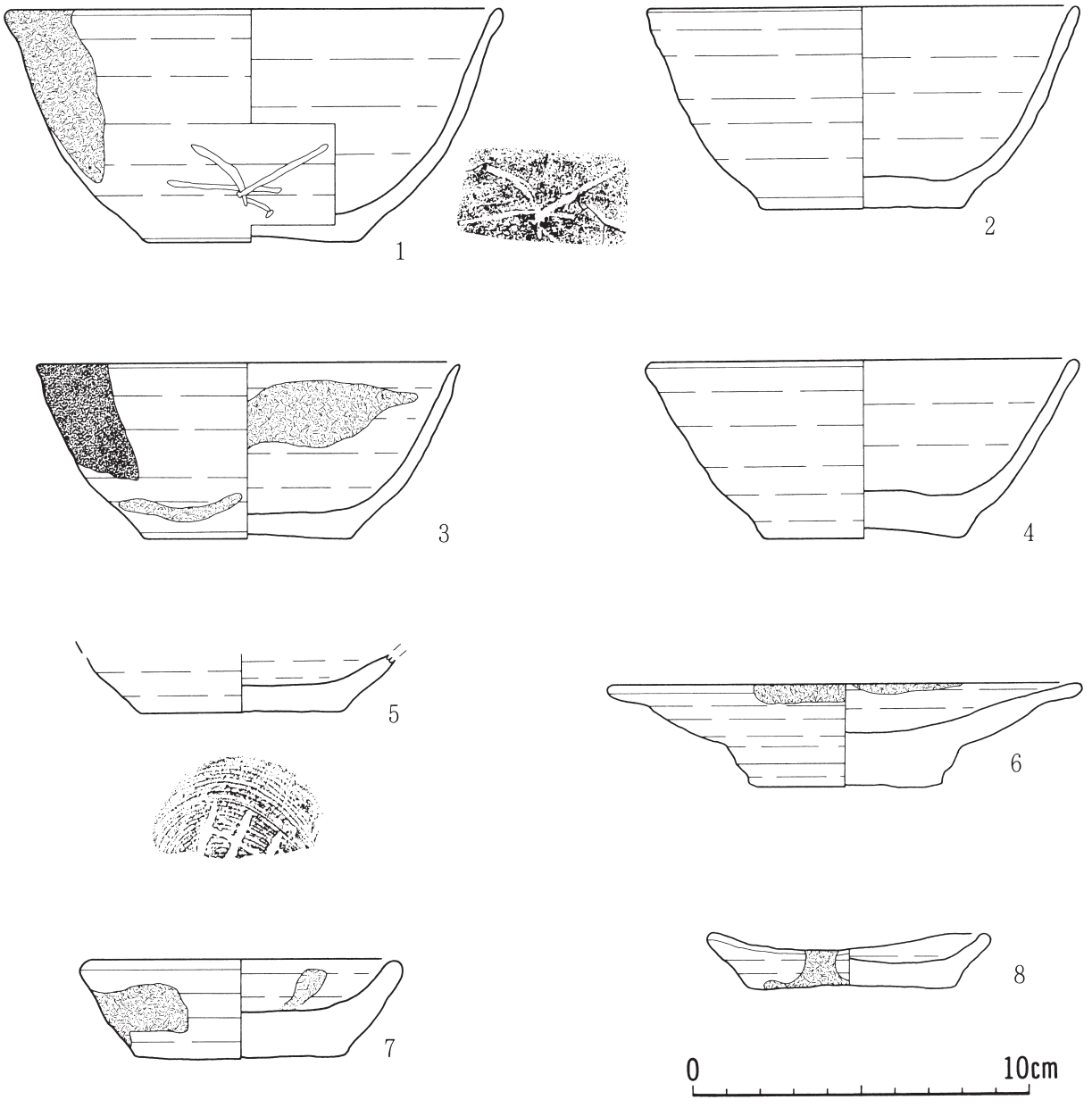
②非ロクロ使用のもの（10）

口縁部にヨコナデ、外面の下半及び内面はユビナデ調整を施している。炭化物が付着しており内外面ともに黒色に近い。

①、②のいずれにせよ、灯明具として使用された可能性が高く、平安時代末期のものと思われる。

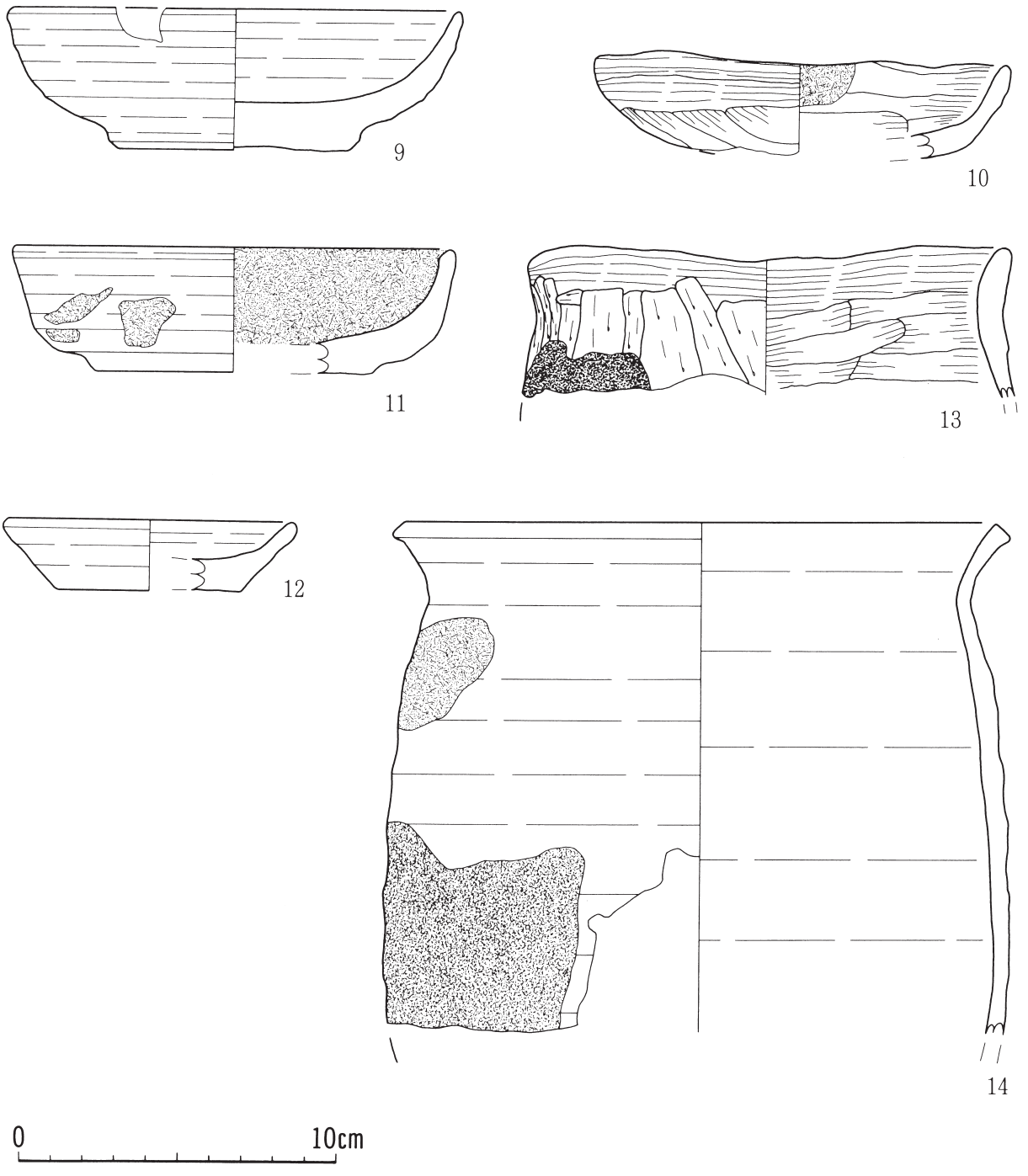
4　甕（13～28）

口径や底径から、大型、中型、小型に分類できる。14はロクロ使用で、再調整はない。口縁部は「く」の字状に短く外反するものが大半を占める。調整は、口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリないしはヘラナデが施されている。化粧粘土（14・21）や内面黒色処理（22）を施したもの、二次的に火を受けてススや炭化物等がこびりついているもの（14・20・24・25）、底部に木葉痕が残るもの（28）がある。



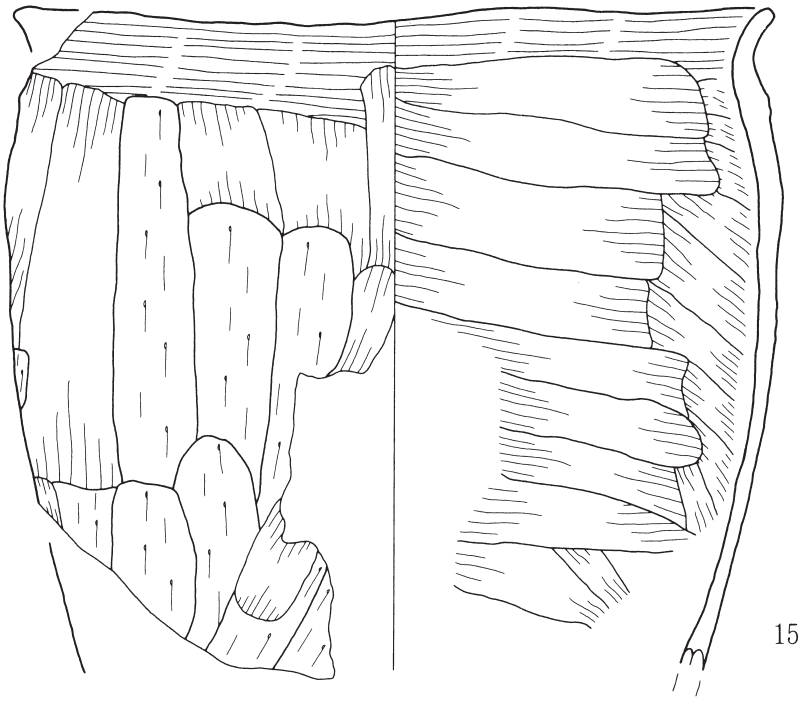
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	M－17 I	15.0	6.9	6.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成、スス付着ヘラ書記号	
2	土師器	坏	?	12.8	6.0	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		ハクリ	
3	土師器	坏	M～N－36 I	(12.0)	5.1	6.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成、ハクリ スス（油跡）付着	
4	土師器	坏	J－95 I	(12.9)	5.2	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		磨耗	
5	土師器	坏	N－13 I		(1.7)	(6.0)			ロクロ			ロクロ	回転糸切		底面ヘラ書記号	
6	土師器	皿	?	(14.1)	3.0	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		スス付着 胎土良好	
7	土師器	皿（かわらけ）	K－19	9.6	2.9	6.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成 スス（油跡）付着	
8	土師器	皿（かわらけ）	?	8.4	1.6	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		スス付着	

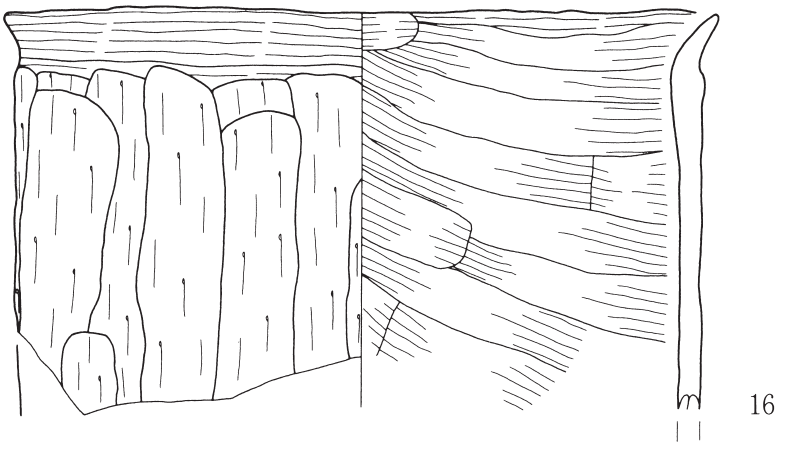
第Ⅴ－７－（１）－１図　遺構外の出土遺物（１）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
9	土師器	皿（かわらけ）	G－9 II	(14.4)	4.4	(8.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切			
10	土師器	皿（かわらけ）	?	(13.1)	2.8		ヨコナデ	ヨコナデ ユビナデ	ユビナデ	ヨコナデ	ユビナデ	ユビナデ			炭化物付着	
11	土師器	皿（かわらけ）	N－16 I	(14.0)	3.9	(8.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		炭化物付着	
12	土師器	皿（かわらけ）	J－46 I	(9.3)	2.2	(5.3)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		スス付着	
13	土師器	甕	?	15.3	(4.7)		ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラケズリ				二次焼成	
14	土師器	甕	L－88 I	(19.4)	(16.0)		ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ			二次焼成、スス付着 化粧粘土	

第Ⅴ－7－（1）－2図　遺構外の出土遺物（2）

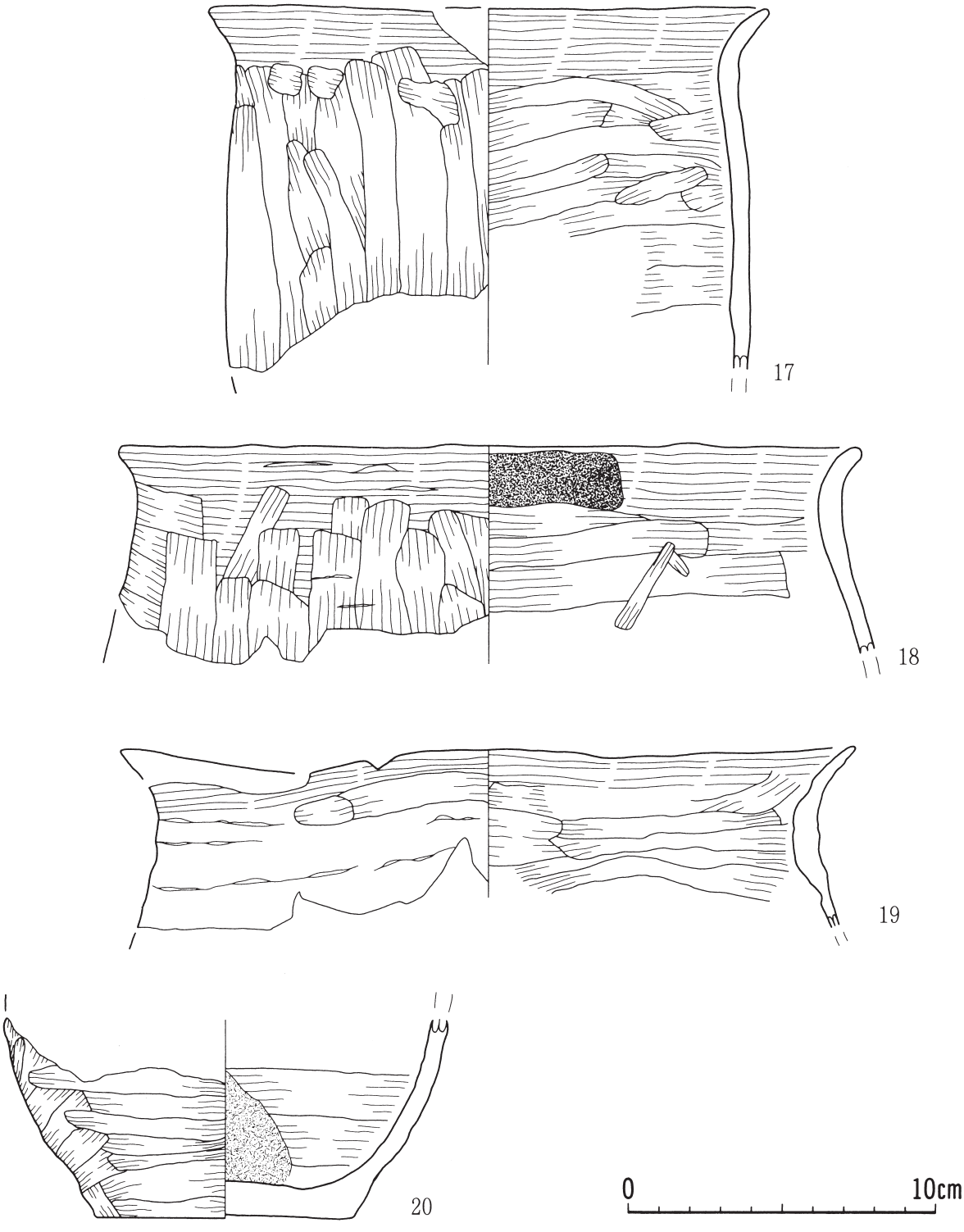




0　　10cm

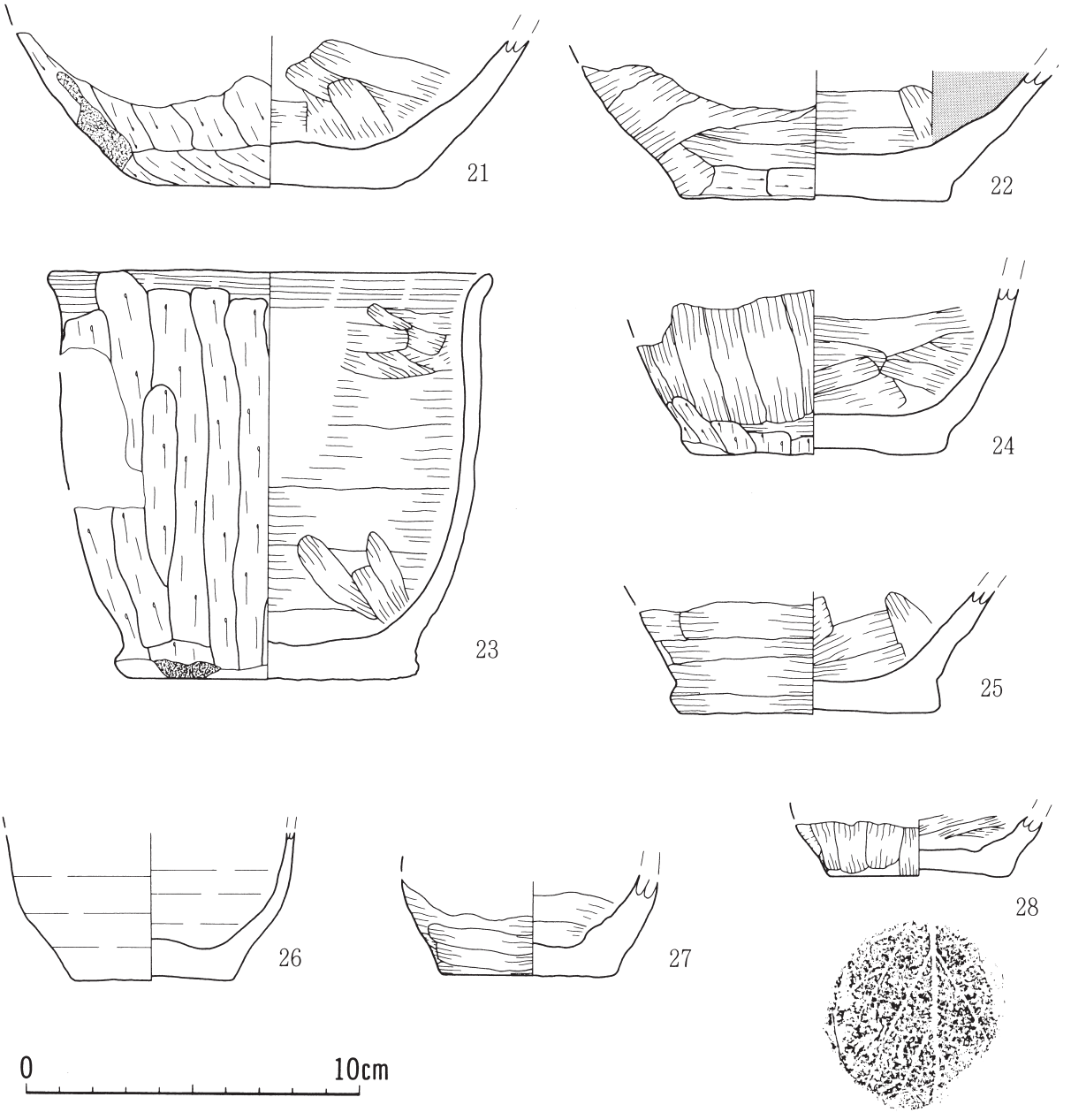
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
15	土師器	甕	L－18	(20.1)	(17.3)		ヨコナデ	ヘラナデ ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ					
16	土師器	甕	G－11	(19.0)	(10.4)		ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ					

第Ⅴ－7－（1）－3図　遺構外の出土遺物（3）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
17	土師器	甕	?	(18.0)	11.6		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ					
18	土師器	甕	N－46 I	(12.0)	(6.6)		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ				ハクリ	
19	土師器	甕	?	(23.7)	5.7		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ					
20	土師器	甕	?		(6.4)	8.2			ヘラナデ				砂底		二次焼成、炭化物付着	

第Ⅴ－7－（1）－4図　遺構外の出土遺物（4）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
21	土師器	甕	?		(4.5)	7.2			ヘラケズリ			ヘラナデ			磨耗 化粧粘土	
22	土師器	壷	G－47 I		(3.9)	8.0			ヘラナデ ヘラケズリ			ヘラナデ	砂底		二次焼成、磨耗 内面黒色処理	
23	土師器	小型甕	?	(13.7)	12.2	8.1	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ			ハクリ、砂底	
24	土師器	小型甕	M～N－36 I		(4.9)	8.0			ヘラナデ ヘラケズリ			ヘラナデ	ヘラナデ		二次焼成	
25	土師器	甕	O－17		(3.8)	7.8			ヘラナデ			ヘラナデ	砂底		二次焼成、油跡	
26	土師器	小型甕	K－17		(4.4)	4.9			ロクロ			ロクロ	回転糸切り		磨耗	
27	土師器	甕	?		(2.8)	5.0			ヘラナデ			ユビナデ	ヘラナデ		磨耗	
28	土師器	小型甕	?		1.7	5.5			ヘラナデ			ヘラナデ	木葉痕			

第Ⅴ－７－（１）－５図　遺構外の出土遺物（５）

（2）須恵器（第Ⅴ－7－（2）－1～4図）

出土量は、壺が最も多く、次いで大甕、坏、鉢の順となる。図示しえたものは15点のみである。

1　坏（1～5）

すべてロクロを使用している。口径12.6㎝、底径5㎝前後である。つくりは簡略化されており、調整は内外面とも良好である。器形は、内湾気味に立ち上がるものと直線的に立ち上がるものの2種類がある。焼成はおおむね良好で、灰色ないし暗緑灰色を呈する。1、3、5は火ダスキ痕が残る。なお、胎土分析の結果、2は搬入品と推定されている。

2　鉢（6）

ロクロを使用しており、器高に対して口径が大きい。口縁部が短く屈曲し、体部中央に最大径をもつものである。

2　壺

口頸部の形態から、長頸壺と短頸壺の2種類に分類される。ただし、ほとんどが破片であり、全体を把握することはできない。

①長頸壺（7～16）

7は、口唇部が非常に薄い。器形は、口頸部が直線的に立ち上がり、口唇部で大きく外反する。口頸部にはヘラ書き記号が刻まれている。8は、口唇部上面が平坦である。器形は口頸部からラッパ状にゆるやかに開くものと思われる。9は、口唇部上面および外縁部が＞状を呈し、外縁部下部に張り出しを持ち、内縁に段を有する。器形は、口頸部からラッパ状にゆるやかに開くものと思われる。

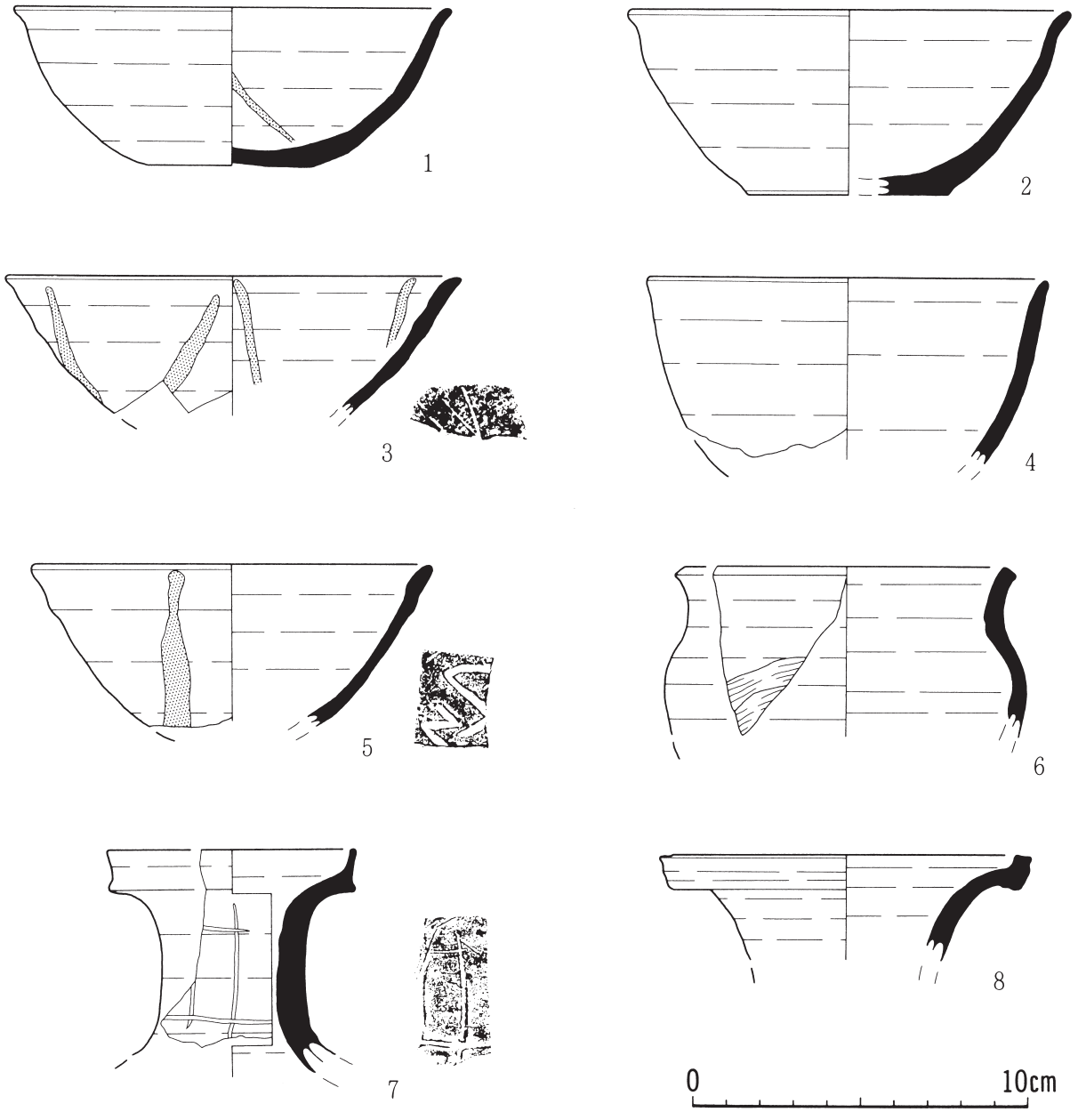
また、13～19は底部に菊花状調整痕が残り、3㎜前後の低い台がつくりだされた形になっている。

②短頸壺（17～24）

口唇部の形状から、いくつかに分類できる。17・18・19、21は口唇部上面が平坦で、外縁部に沈線またはゆるい凹みを有し、外縁部下部に張り出しをもつ。20、22、23は、口唇部が外削ぎ状である。24は、底辺部破片で、回転糸切痕が残る。色調は、おおむね黒みがかった灰色で、自然釉が付着しているものもある。なお、胎土分析の結果、19と23は搬入品と推定されている。

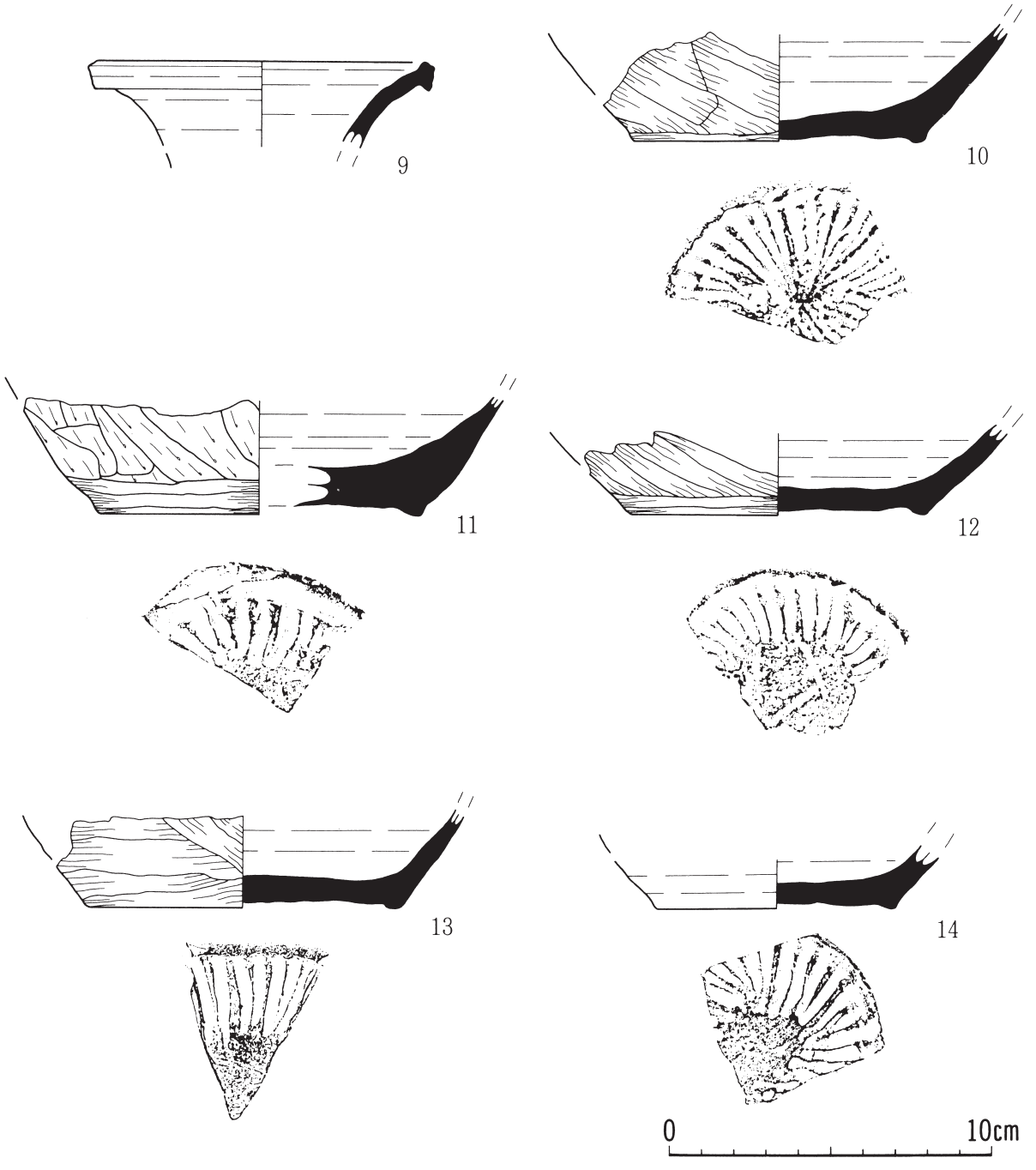
4　甕（25、26）

25は、短い口頸部が大きく外反し、口唇部が平坦で、口縁部外縁に沈線を有する。



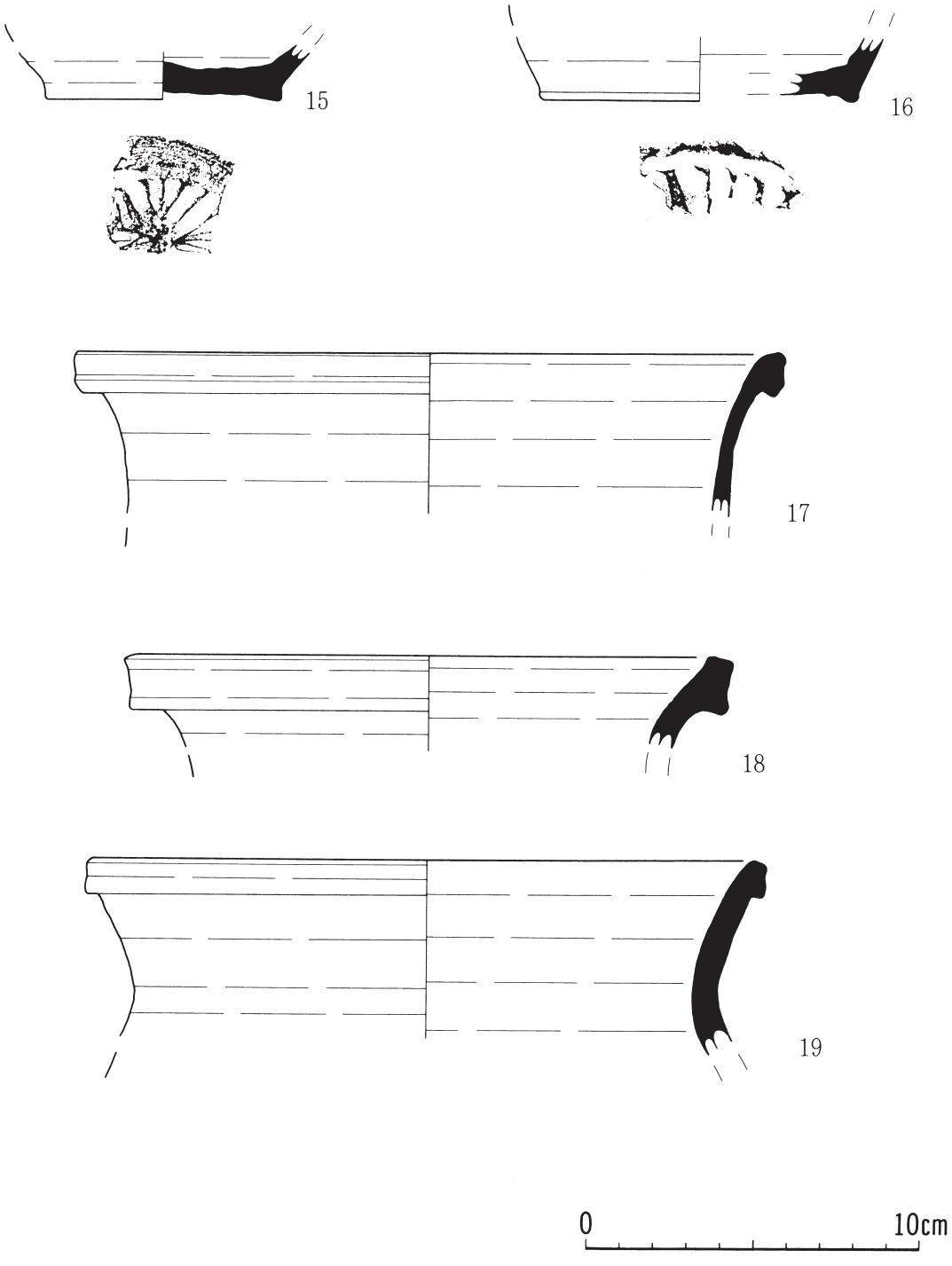
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外部調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	須恵器	坏	M－18	(13.0)		(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		火ダスキ痕 ヘラ書記号	
2	須恵器	坏	K－93 I	(12.4)	5.5	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ			胎土分析－79	
3	須恵器	坏	L－22	(13.6)	(4.1)		ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ			火ダスキ痕 ヘラ書記号	
4	須恵器	坏	G－25	(12.0)	(5.5)		ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ				
5	須恵器	坏	D－94 I	(12.0)	(4.9)		ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ			火ダスキ痕 ヘラ書記号	
6	須恵器	鉢	N－16	(10.2)	(5.0)		ロクロ	ロクロ ヘラナデ		ロクロ	ロクロ					
7	須恵器	長頸壺	H－44 I	(6.4)	(6.4)		ロクロ			ロクロ					ヘラ書記号	
8	須恵器	長頸壺	M－6	(11.1)	3.1		ロクロ			ロクロ						

第Ⅴ－７－（２）－１図　遺構外の出土遺物（６）



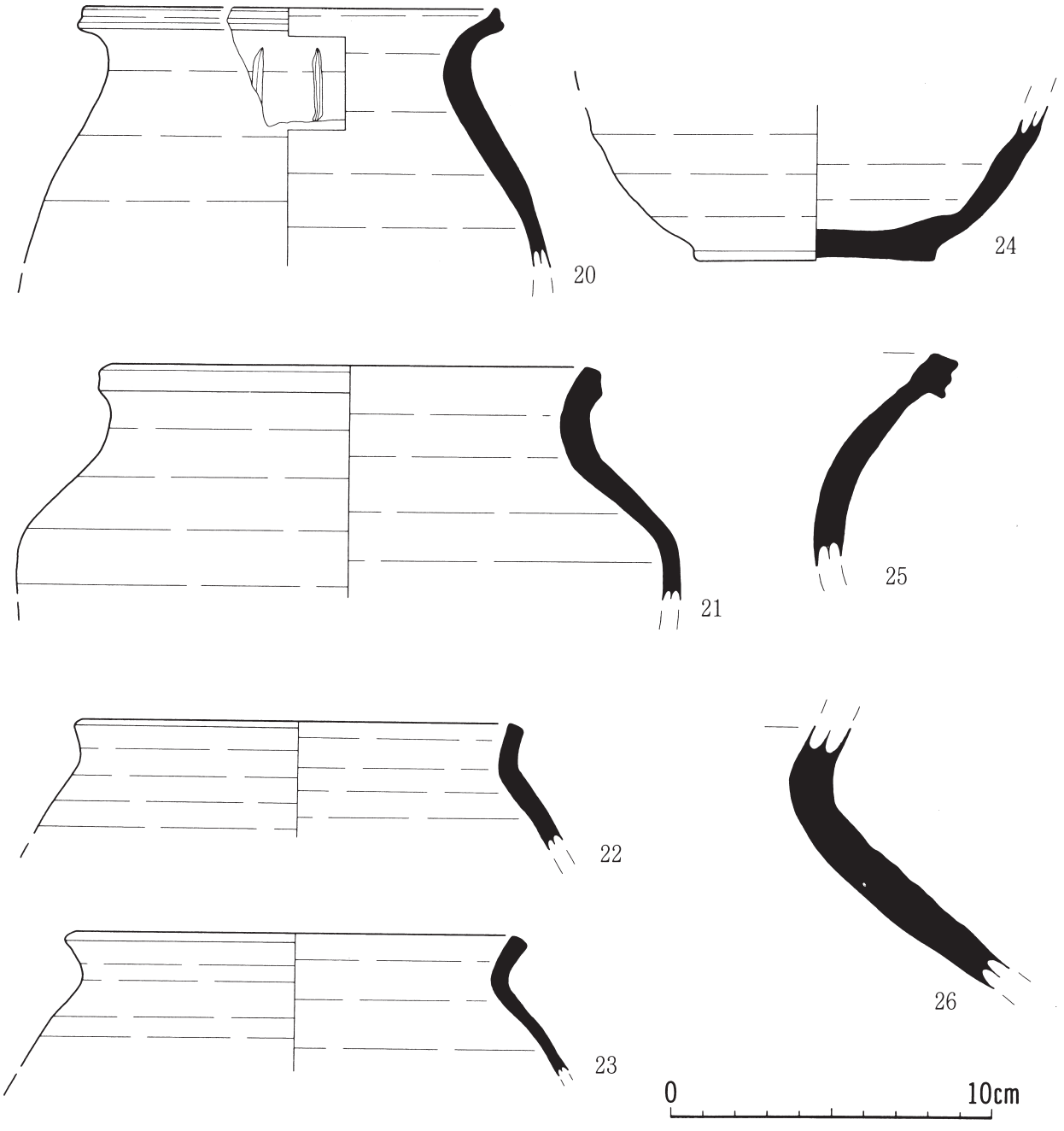
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
9	須恵器	長頸壷	I•J－7	(10.7)	2.6		ロクロ			ロクロ						
10	須恵器	長頸壷	?		(3.3)	(9.0)			ヘラナデ			ロクロ	菊花文		ハクリ、自然釉付着	
11	須恵器	長頸壷	K－13		(3.5)	(9.9)			ヘラナデ ヘラケズリ			ロクロ	菊花文			
12	須恵器	長頸壷	20、21ライン1		(2.5)	(9.1)			ヘラナデ			ロクロ	菊花文		ハクリ、自然釉付着	
13	須恵器	長頸壷	N－18		(2.8)	(9.5)			ヘラナデ			ロクロ	菊花文		灰白色	
14	須恵器	長頸壷	M－88		(1.5)	(7.3)			ロクロ			ロクロ	菊花文			

第Ⅴ－7－（2）－2図　遺構外の出土遺物（7）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
15	須恵器	長頸壷	I－42		(1.4)	(6.9)			ロクロ			ロクロ	菊花文			
16	須恵器	長頸壷	M－26、27、I		(1.9)	(9.4)			ロクロ			ロクロ	菊花文			
17	須恵器	短頸壷	I－30 I	(21.2)	4.7		ロクロ			ロクロ					自然釉付着	
18	須恵器	短頸壷	G－6	(20.2)	(5.2)		ロクロ			ロクロ					胎土分析－78	
19	須恵器	短頸壷	N－17	(18.2)			ロクロ			ロクロ					自然釉付着	

第Ⅴ－7－（2）－3図　遺構外の出土遺物（8）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
20	須恵器	短頸壷	K－2 L－16	12.8	(7.9)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ				ヘラ書記号 自然釉付着	
21	須恵器	短頸壷	F－22	(15.6)	(7.1)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ					
22	須恵器	短頸壷	N－16	(14.0)	(3.5)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ					
23	須恵器	短頸壷	G－32 I	(14.4)	(4.2)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ				胎土分析－80	
24	須恵器	短頸壷	K－17		(4.8)	7.4			ロクロ			ロクロ	回転糸切り		自然釉付着灰色	
25	須恵器	大甕	N－17 I		(6.5)		ロクロ			ロクロ						
26	須恵器	大甕	I－43 I		(7.8)		ロクロ	格子状叩き目		ロクロ	当て具痕（？）				短頸壷？	

第Ⅴ－7－（2）－4図　遺構外の出土遺物（9）

（3）土製品

遺構外からは3点の土製品が出土した。いずれも土玉である。

遺構内出土のものは、胎土が緻密で、黒色に焼成されるものが比較的多いが、遺構外のこれら3点で黒色に焼成されるものは認められない。3には途中穿孔の孔が認められる。

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	焼成	整理No.
1	土製品	玉(球状)	L－84　Ⅱ	11.5	10.5	9.0	0.9	焼成前穿孔	26溝焼土・3Hカマド付近	良好	01
2	土製品	玉(球状)	M－26、27　Ⅰ	13.5	12.5	10.5	1.5	歪んだ球状、焼成前穿孔か		軟質	12
3	土製品	玉(球状)	N－24　Ⅰ	16.0	15.5	12.0	2.8	一部黒色、不整球状、片面2つの孔、1つは非貫通、焼成前穿孔		良好	04

第Ⅴ－7－（3）－1図　遺構外の出土遺物（10）

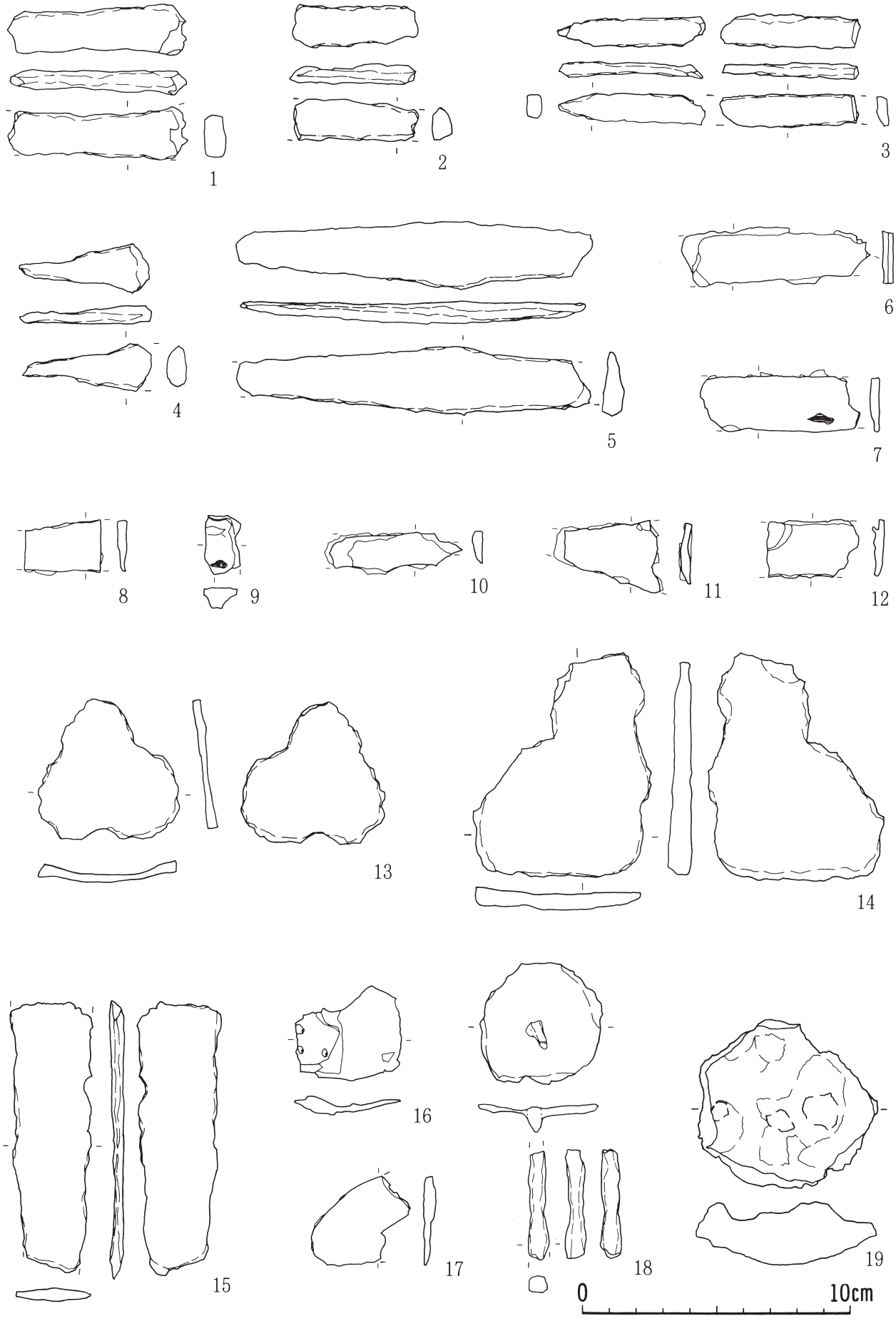
（4）鉄製品

遺構外から出土した鉄製品は18点あり、出土地点が不明な2点を除き、出土層位はすべてⅠ層である。分布傾向としては、調査区域のG～Lライン，84～93ライン上に集中している。特に第2号建物跡が検出された上層に集中している傾向が窺える。

以下、種類ごとに遺物の概要を説明する。

刀子は9点出土した。全て茎部・刃部とも欠損している為、詳細は不明である。比較的刃部の残りは良いが、関の不明瞭なものが多い。4を除いて磁石の付着力が強いことから、平安時代よりやや新しい時代が想定される。鎌は2点出土している。15は基部若しくは刃部が直線的な形状であり、大型の鎌であると思われる。17は先端が丸みを帯びているが摩滅によるものかどうか不明である。また、磁石の付着力が強いため、平安時代よりやや新しい年代が想定される。注目すべき点は、鍋の一部と思われるものが2点出土していることである。2点とも第2号建物跡竪穴部上層からの出土で、14の一部に面取りしたような跡がみられる。吊金具と思われるもの（9・10）は幅・厚みともほぼ同じであり、同一個体と思われる。紡錘車は1点出土している。第16号建物跡出土のものより一回り小さいが形状からみて平安時代のものである可能性は高い。鉄滓は総数25点あり、因みに遺構内出土のものは6点である。出土層位は全てⅠ層からで、総重量は1315.8gである。椀形の鉄滓1点（19）のみ図示し、その他の鉄滓は写真報告とした。

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
1	鉄製品	刀子	L－88　Ⅰ	68.0	20.0	9.0	16.9	基部・刃部とも欠損　関なし	（2Hの付近）	○	12
2	鉄製品	刀子	O－17　Ⅰ	48.0	17.0	9.0	10.3	茎部・刃先欠損　関なし		○	25
3	鉄製品	刀子	H－27　Ⅰ	108.0	13.0	6.0	13.0	茎部欠損　関が見られない		△	27
4	鉄製品	刀子か	M－89　Ⅰ	50.0	19.0	8.0	6.4	刃先残存		×	29－1
5	鉄製品	刀子か	J－93　Ⅰ	131.0	26.0	8.0	37.0	刃先・茎部欠損　明瞭な関なし	分析実施	○	32
6	鉄製品	刀子か	L－40　Ⅰ	70.0	19.0	4.0		刃部		○	09－2
7	鉄製品	刀子か	L－40　Ⅰ	60.0	22.0	3.0	29.6	刃部　木質部残存	重さは9－1～9－3の合計	○	09－1
8	鉄製品	刀子か	J－06　Ⅰ	28.0	20.0	3.5	2.8	刃部残存		○	13
9	鉄製品	不明	不明　不明	22.0	14.0	7.0	6.1	吊金具か　先端が屈曲	重さは12－1、12－2の合計	×	12－1
10	鉄製品	不明	不明　不明	51.0	15.5	4.0		9と同一固体か		×	12－2
11	鉄製品	不明	H－30　Ⅰ	41.0	26.0	4.5	7.1	刀子か　刃先残存		○	10
12	鉄製品	刀子	K－26.27　Ⅰ	35.0	21.0	4.0	5.0	刃部か茎部か		○	08
13	鉄製品	不明	M－89　Ⅰ	52.0	53.0	8.0	19.9	鍋の胴部か　厚さ均一　緩くカーブする		○	26
14	鉄製品	不明	M－89　Ⅰ	83.0	67.0	9.0	62.6	鍋の胴部か　厚さ均一　緩くカーブする		×	29－2
15	鉄製品	鎌	L－87　Ⅰ	101.0	32.0	6.0	37.2	基部・刃部欠損　刃部が直線的	分析実施	○	20
16	鉄製品	不明	L－40　Ⅰ	39.0	35.0	5.5		一部鉄材付着　厚さほぼ均一		○	09－3
17	鉄製品	鎌か	E－46　Ⅰ	37.0	32.0	4.5	8.4	鎌先残存　先端が丸みを帯びる		○	11
18	鉄製品	紡錘車	G－84　Ⅰ	47.0	47.0	－	15.7	紡錘車に若干撚棒残存　撚棒の断面は隅丸方形　全長不明		×	28
19	鉄	鉄滓	L－04　Ⅰ	－	－	－	74.8	碗型		－	18



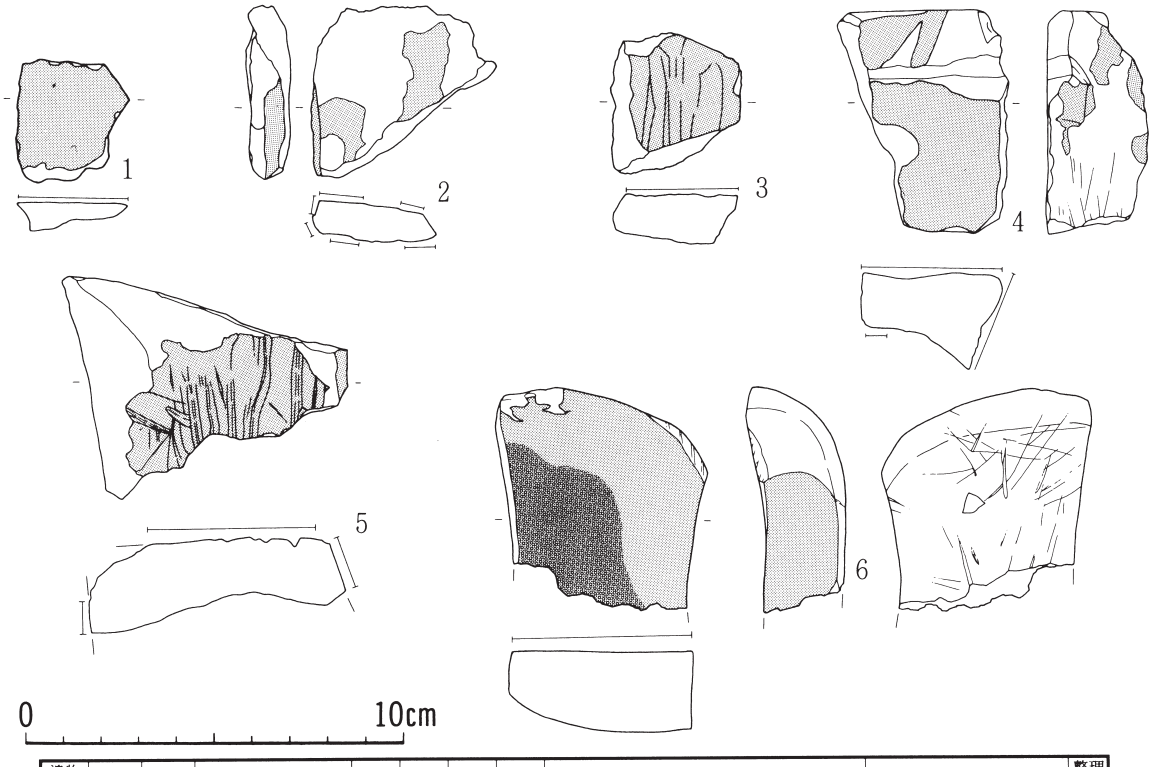
第Ⅴ－７－（4）－１図．遺構外の出土遺物（11）

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	整理No.
—	鉄	鉄滓	D－94　I	－	－	－	10.2		図示なし	07
—	鉄	鉄滓	D－94　I	－	－	－	51.0		図示なし	08
—	鉄	鉄滓	D－94　I	－	－	－	9.0		図示なし	09
—	鉄	鉄滓	D－94　I	－	－	－	2.1		図示なし	10
—	鉄	鉄滓	F－05　I	－	－	－	5.0		図示なし	11
—	鉄	鉄滓	I－09　I	－	－	－	32.2		図示なし	12
—	鉄	鉄滓	I－29　I	－	－	－	13.9		図示なし	13
—	鉄	鉄滓	I－30　I	－	－	－	13.5		図示なし	14
—	鉄	鉄滓	K.L－41　I	－	－	－	62.7		図示なし	15
—	鉄	鉄滓	K.L－41　I	－	－	－	56.0		図示なし	16
—	鉄	鉄滓	K－26.27　I	－	－	－	97.1		図示なし	17
—	鉄	鉄滓	M－96　I	－	－	－	5.3		図示なし	19
—	鉄	鉄滓	M－96　I	－	－	－	5.1		図示なし	20
—	鉄	鉄滓	M－06　I	－	－	－	31.9		図示なし	21
—	鉄	鉄滓	M－26.27　I	－	－	－	138.0		図示なし	22
—	鉄	鉄滓	N.0－48　I	－	－	－	16.1		図示なし	23
—	鉄	鉄滓	N－26.27　I	－	－	－	10.0		図示なし	24
—	鉄	鉄滓	不明　I	－	－	－	87.2		図示なし	25

（5）　石製品

遺構外からは6点の石製品が出土した。いずれも砥石で全て欠損している。

1～5は細粒凝灰岩製、6のみ細流砂岩製である。溝状擦痕の認められるものが多い。



遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	整理No.
1	石製品	砥石	K－26、27　I	32.0	30.0	8.0	5.7	細粒凝灰岩、砥面1面、4と同一個体か		02
2	石製品	砥石	G－85　II	44.0	49.0	12.0	12.2	細粒凝灰岩、砥面2面		07
3	石製品	砥石	M－34　I	37.0	35.0	13.5	13.0	細粒凝灰岩、砥面1面、砥面に溝状の擦痕多し、SD120溝跡－7と同一母岩か	砥面溝状	08
4	石製品	砥石	M－44　I	59.0	46.0	28.0	36.6	細粒凝灰岩、砥面4面、溝状の砥面あり、1と同一個体か		04
5	石製品	砥石	O－22、23　I	53.5	71.0	20.0	60.7	細粒凝灰岩、砥面3面、砥面に溝状の擦痕多し、赤色顔料？砥面に付着	砥面溝状	10
6	石製品	砥石	F－23　－	59.0	56.5	26.5	59.5	細粒砂岩、砥面4面、裏面に傷状の擦痕多し、欠損		05

第V－7－（5）－1図　遺構外の出土遺物（12）